

岡山県学校図書館研究収録

第 52 号

平成 27 年

— 2 0 1 5 —

岡山県小学校教育研究会情報教育部会学校図書館部
岡山県中学校教育研究会学校図書館部会
岡山県高等学校教育研究会学校図書館部会
岡山県学校図書館協議会

発 刊 に よ せ て

岡山県学校図書館協議会

会長 藤 井 健 平

本年度も、会員の皆様の御支援と御協力に支えられ、諸事業を実施し滞りなく終えることができました。心から感謝いたしますとともに、一年間の活動記録として研究集録第52号を発刊できますことを嬉しく思います。

岡山県学校図書館協議会は発足から今年で65年になります。長い歴史のある協議会ですが近年の児童生徒数の減少による事業収入の減少や学校現場を取り巻く環境の変化により、この協議会の運営を見直す時期にきていると考えています。昨年度から全ての事業をゼロベースから見直し、理事会、総会等で議論を重ね、適正な運営の在り方を検討してきました。今年度は皆様から御理解をいただき、県下の学校が『読書感想文集』の売り上げに御協力くださり、来年度からの事業運営に目処を立てることができました。これもひとえに、子どもたちの読書活動を推進する岡山県学校図書館協議会の重要性を認識いただいた皆様の熱い思いが実を結んだものと感謝しております。

さて、今年度の大きな事業としては、第29回中国地区学校図書館研究大会倉敷大会兼第51回岡山県学校図書館研究大会の開催がありました。大会は主題を「豊かな心を育み、言語活動を充実させる学校図書館」とし、小学校2校、中学校1校、高等学校1校、計12クラスでの公開授業と研究協議を行い、分科会では4つのテーマのもとに21校の研究発表を行いました。全体会では、各県の学校図書館協議会の活動報告、全国学校図書館協議会からは森田盛行理事長による現況報告をしていただき、大会の最後には両備ホールディングスCEO小嶋光信氏による「忠恕の心は日本の宝」と題した記念講演を開催しました。どれも充実した内容で、成功裡に終えることができました。この大会の成果を踏まえ、各学校での学校図書館の充実がより一層図られるとともに、児童生徒の読書活動の活性化に繋がる取組に広がることを期待しています。倉敷地区の先生方には、平成26年度から実行委員会を立ち上げ、準備から大会運営まで熱意を持って取り組んでいただきましたことに深く感謝しております。

また、本会の主要な事業である読書感想文コンクール、読書感想画コンクールともに応募数が昨年度を上回り、関心の高まりを感じることができました。今年は戦後70年の節目の年であったことから、戦争や平和をテーマにした作品が多くあったことが印象に残っています。

平成26年度、27年度と総社高校が事務局校を務めてまいりましたが、いろいろな面で御面倒や御迷惑をお掛けしたこともあったことと思います。いたらなかったことにつきましては、御容赦いただきたいと思います。

最後になりましたが、この研究集録を発刊するにあたって原稿をお寄せいただいたすべての皆様に御礼を申し上げ、発刊によせてのことばといたします。

目 次

発刊によせて

平成27年度岡山県学校司書研修会(玉野大会).....	1
第29回中国地区学校図書館研究大会・第51回岡山県学校図書館研究大会 倉敷大会	6
第61回青少年読書感想文岡山県コンクール.....	8
第27回読書感想画岡山県コンクール.....	22
絵本研究部会.....	26
優良図書研究部会.....	31
指定図書選定委員会.....	40

その他

1 平成27年度 岡山県学校図書館協議会 事業報告.....	41
2 平成27年度 岡山県学校図書館協議会 支部協議会事業報告.....	42
3 平成27年度 岡山県学校図書館協議会 組織一覧.....	51
4 岡山県学校図書館協議会組織図.....	52
5 岡山県学校図書館協議会規約.....	53
6 岡山県学校図書館協議会司書部会会則.....	55
7 岡山県学校図書館協議会65年の歩み(略年表).....	56

平成27年度岡山県学校司書研修会（玉野大会）

【実践報告】 子どもの読書環境を豊かにするためにできること — 公共図書館との連携 —

発表者	石井 静子	(笠岡市立大島小学校司書)
司会者	矢部 恵	(笠岡市立笠岡小学校司書)
記録者	黒田 典子	(笠岡市立金浦中学校司書)
	笹岡久美子	(笠岡市立新吉中学校司書)

I 実践報告

子どもの読書環境を豊かにするためにできること

— 公共図書館との連携 —

笠岡市立大島小学校 石井 静子

1. 笠岡市の学校図書館の現状

笠岡市は、岡山県の西の端に位置し、瀬戸内海に面しています。人口は約52,000人。瀬戸内海には有人の島7島を含む大小31の島々からなる笠岡諸島があります。

現在、笠岡市には小学校18校・中学校10校（そのうち1校は矢掛町との組合立です）、合計28校の学校があります。そのうち生徒数が500名を超える学校は1校だけで、100名以下の小規模校が小学校9校、中学校5校と笠岡市の学校の半数を占めています。島しょ部の学校7校にいたっては、すべての小・中学校の児童・生徒数が10名前後という現状です。

平成4年、2名の学校司書が初めて配置されました。当時の学校数は32校。一人16校兼務でした。勤務形態は、学校司書が籍を置く本務校（本務校とは、出勤簿などの事務処理を行う拠点校のことです）に週1日勤務し、残りの4日間で兼務校を順番に回るというもので、次に同じ兼務校に行くのは、2ヵ月半後というような状況でした。

その後、順次、学校司書が増えていき、平成11年には10名になりました。勤務も一人2～3校兼務になり、最低週1日は兼務校にも勤務できるようになりました。

また、私たち学校司書は笠岡市教育研修所に所属し、「学校図書館司書連絡協議会」の名称で定例会をもち、研修を行っています。

2. 「笠岡市司書協議会」

当初の名称は「市立図書館・学校図書館司書合同定例協議会」という名称でした。名称のとおり、この会は、学校司書と市立図書館の司書とで構成している会です。あまりに長いので「笠岡市司書協議会」と変更しています。

市立図書館との連携が深まっていくには、この会ができ、協議内容を検討しながら継続してきたことが大きく影響していると思われます。

ここで、笠岡市立図書館について簡単に説明させていただきます。

笠岡市立図書館は、昭和53年、現在の場所に図書館がたてられ、今日に至っています。昭和57年から「かぶとがに号」による自動車巡回文庫、昭和59年から市の船「しらさぎ号」による島しょ部巡回文庫が始まりました。平成21年には、こども図書館が併設されました。

平成25年度の統計によりますと、蔵書数は、約15万冊、うち、児童書が5万冊です。貸出数は、年間約20万冊、1日平均約700冊、利用者は1日平均170人という状況です。そして、「かぶとがに号」は市内28か所を、「しらさぎ号」は4か所の島を、毎月1回ずつ巡回しています。職員は、館長1名、司書は臨時を含め7名が勤務しています。

この「笠岡市司書協議会」が発足した背景には、次の

ようなことが考えられます。

平成13年「子どもの読書活動の推進に関する法律」が公布・施行されました。その中で『子どもの読書活動は、子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力をゆたかなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないもの』であるとされています。そのためには、社会全体で子どもの読書環境をより良いものにしていくことが必要になったことは言うまでもありません。こうした中、笠岡市でも「読書活動推進」の機運が高まってきました。そして、市立図書館と学校図書館が連携して子どもの読書活動を推し進めるために、平成14年に『笠岡市司書協議会』が発足しました。

現在は、年に3回(学期に1回)市立図書館で開催しています。

協議事項としては、市立図書館の年間行事計画や巡回文庫の日程を始め、学校司書の研修の一部である「わくわく学校図書館まつり」の日程や市立図書館と学校図書館でよく貸出される本などの情報交換などです。

協議会発足と前後して、笠岡市内の各学校で朝の読書が盛んに行われるようになりました。「朝の読書」をより充実したものにするために、市立図書館からの本の貸し出しをこの会で提案したところ、快く引き受けてもらったのが「学校への特別貸出」のはじまりでした。

また、平成24年度から始まった「子ども司書養成講座」では、自校の学校図書館での体験も含まれていることから、この会の中で具体的な体験の内容などを話し合っています。

この「特別貸出」・「子ども司書養成講座」については、後程触れたいと思います。

この会を、続けていくうちには、平成25年に島根県で起きた「はだしのゲン」の閲覧制限問題を受けて、もし笠岡市で同様の問題が生じた際には、臨時の「笠岡市司書協議会」を開いて、両者で対応を話し合うということも確認しました。

学校図書館は一人職場であるために、選書から廃棄などの学校図書館運営に関わる中で迷うことが多々あります。学校司書の中でも話し合いますが、市立図書館の司書も交えての協議は、違う視点からの解決方法に気づくことも少なくありません。

子どもの読書活動がより活発になるために、この会を通して市立図書館と学校図書館が連携していくことが益々重要になってくるのではないのでしょうか。

3. 特別貸出

<学校への特別貸出>

先ほど出ました「学校への特別貸出」が始まったのは、朝読書がさかんに言われるようになった平成12年頃でした。

その頃は、笠岡市内の学校でも「朝の読書を始めよう。」と言う学校が増えてきました。しかし、当時の笠岡市の小学校・中学校の学校図書館は、自校の蔵書冊数も少なく、古い本が多かったので、各教室に児童・生徒全員が読める本を用意するのは、困難でした。

そこで、先ほど申しました、市立図書館との話し合いの場である「笠岡市司書協議会」で、学校の朝読書用の本を貸してもらえるように要望したのが、始まりでした。平成14年に、市立図書館の移動図書館「かぶとがに号」で児童・生徒の朝読書用の本の貸し出しが始まり、たくさん本を積んで、学校に来てくれるようになりました。その時はまだ、利用する学校も先生方も少なく、貸出方法も不便でした。というのも、貸出は担任の先生個人の利用者カードを特別貸出用に使用していたからです。貸出冊数を、一般は10冊のところ、30冊まで借りられるように設定を変えて、学級文庫用図書を借りていました。しかし、個人の利用者カードを使って、朝読書用の本を30冊借りてしまうと先生方が個人で借りる時には、貸出冊数に余裕がなくなり、借りることが出来なくなるということが起きようになっていたのです。

平成24年に、この問題を「笠岡市司書協議会」で協議した結果、学校別クラスカードを作成することで、期限は、次の「かぶとがに号」までで、冊数は無制限に借りることができるようになりました。現在ではほとんどの学校で、朝読書用の本を借りています。

<学校司書への特別貸出>

学校司書に対しては配置当初から、団体貸出カードを利用した貸出は、期限を1か月に、冊数は無制限で借りられるようになっています。兼務校があるので、それぞれの学校での要望に応えることができます。

4. 巡回文庫

笠岡市は、現在、島しょ部に小学校4校・中学校3校があります。

陸地部の学校では、先ほど言いました「かぶとがに号」が巡回して、学級文庫を補ったり、児童や教職員への貸し出しをおこなったりすることができています。

一方、島しょ部の学校で本が不足したときは、市立図書館で借りた本を司書が自力で運んで、児童・生徒や教職員の要望に応じていました。しかし、司書1人が運べる量は限られています。

このような陸地部との格差を解消するため、平成16年度頃から、市の船・「しらさぎ号」で本を運んでもらうようになりました。島には図書館はもちろん書店もありますが、以前より、公民館には市立図書館の本の配本があり、島民の利用に供していました。その本の配本が月に一度、「しらさぎ号」で行われていました。この船の便を利用して、学校図書館へも本を届けてもらうのです。

選書は、事前に学校司書が市立図書館に出向き、本を専用ボックスに入れておきます。そうすると、予定された運航表の日程でそのボックスを港まで届けてくれます。

島内の道は狭く、車が入らない学校がほとんどです。リヤカーや一輪車を押しながら坂道を往復するのは重労働です。しかし、その苦労以上に、島の子どもたちや教職員が、いろいろな分野の、多くの本に触れることができるようになったことの喜びは大きいものでした。

平成25年度からは幼稚園、そして、平成26年度からは保育所への配本もおこなわれており、島の子どもたちにとって、より本が身近になっています。

5. 「わくわく学校図書館まつり」

平成25年より、学校司書の研修会である「学校図書館司書連絡協議会」の主催で(共催は笠岡市教育委員会)、「わくわく学校図書館まつり」を毎年8月に開催しています。

この「わくわく学校図書館まつり」は、保護者や地域の方に、兼務の学校司書の仕事や学校図書館の様子を紹介するため、また日頃の研修活動の発表の場とするため教育委員会をお願いして始めたものです。「わくわく学校図書館まつり」は今年で3回目、現在は学校司書主催で行っていますが、今の形になるまでには、市立図書館や司書の方たちとの長い協力の道がありました。

笠岡市では、公立図書館の司書と学校司書は同じ市の職員として司書部会を作り、一緒に活動してきました。その一つとして、平成15年から「わくわく図書館まつり」を立ち上げ、平成24年まで毎年開いてきました。子どもたちに読書の楽しさを伝える機会を作り、学校図書館や公共図書館の活動の様子を市民の方々に紹介したいと始めたものです。

しかし、途中7回から会場の商業施設が使えなくなり、場所の確保が困難になりました。

市立図書館の協力で「子ども図書館」オープン記念に合わせて会場を借りたり、図書館行事に参加したりするという形で9回まで続けることができました。

さらに、場所、費用、時間を確保し、継続的に学校図書館を紹介するための場を作るため、教育委員会に支援をお願いし、私たちの研修日として「学校図書館まつり」をあてることができるようになりました。学校図書館が主体の図書館まつりになりましたが、市立図書館も会場の提供や連絡先を引き受けるなど、協力を続けてくださっています。

この「わくわく学校図書館まつり」を開催することで、保護者や地域の方たちに、学校図書館の役割や学校司書の日々の活動を伝えることができるようになりました。また読書の楽しさを共有し、市民と交流できる場となっています。参加してくれた入学前の子どもたちは、学校図書館を利用することを楽しみにしてくれています。これまでに培ってきた市立図書館との協力体制や、司書同士の交流があったから、形を変えながらも継続できているのではないのでしょうか。

6. 「笠岡子ども司書」養成講座

平成24年7月から、笠岡市立図書館では、「笠岡子ども司書」養成講座を開催しています。

「笠岡子ども司書」とは、図書館の役割や司書の仕事を知り、体験して、読書の楽しさや大切さを知り、友達や家族に本に触れ合う素晴らしさを広く伝えていく子どもたちの育成を目指すものです。「笠岡子ども司書」の子どもたちが、将来地域の読書ボランティア等、笠岡市読書活動推進リーダーとなって活躍していくことを目的としています。対象は、笠岡市内の小学校5・6年生で定員は10～15名です。

この養成講座の中には、自校の学校図書館での司書体験(3時間)が必修に含まれています。指導は、自校の学校司書が行います。各学校で、研修内容は多少異なりますが、「1. 学校図書館について 2. 分類・配架について 3. 受入れ・装備について 4. 簡単なレファレンス」等について行っています。

子どもたちは、いつも使っている自校の学校図書館で研修することで、新しい発見や驚きがありました。自分の見つけたい本をどのように探せばよいのか等を楽しんで興味深く活動し、司書の仕事を経験することで学校図

書館をより身近に感じる事ができるようになりました。市立図書館と学校図書館のどちらも体験することで、「蔵書規模」や「利用者の年齢層の幅広さ」に驚いたり、「コンピュータ利用の貸出」に喜んだりしていました。笠岡の学校は、まだコンピュータ化されていません。

この養成講座を終了した子ども司書は、笠岡市立図書館の行事で活動しています。

「子ども司書」養成講座は、「笠岡市司書協議会」で市立図書館より提案されました。市立図書館と学校図書館が連携・交流できていたので、初年度は、準備期間も短い中、「子ども司書」養成講座の協力体制はすぐに整いました。この事業が迅速に、そして円滑に運ぶことができたのも、この協力体制ができていたからです。笠岡市の読書活動の推進には、学校図書館と市立図書館の連携が欠く事のできないものになってきていると思います。

7. その他

<レファレンスの依頼>

学校では、調べ学習で使用する資料がなかったり、冊数が不足したりすることがよくあります。

その時には、他校図書館や市立図書館から資料を借りることになります。

市立図書館から借りる場合、今までは私たちが勤務後に市立図書館へ出向き、資料を探していました。適切な資料を捜すには時間がかかります。そのうえ、市立図書館の司書も、夕方の利用者の多い時間帯に、書庫を回って資料探しに対応しなくてはならないという状況でした。

そこで、学校からあらかじめ必要な資料の書名や内容を用紙に記入し、FAXで市立図書館に送っておき、市立図書館では指定した日までに資料を準備しておくという方法が考えられました。

この方法は、「笠岡市司書協議会」で市立図書館の方から提案されました。

この方法だと、市立図書館の司書にとっては、時間や人手の余裕のある時に対応できるというメリットがあり、私たちにとっても、勤務後の慌ただしい時間に、早く資料を見つけられるというメリットがあります。

また、児童・生徒の学習に必要な資料の情報を共有することができ、そのことがお互いのレファレンスの向上にもつながっています。

<新着図書お知らせメール>

市立図書館に入った新着図書の中で、学校で参考資料

となる図書や読み聞かせに使える絵本などの情報をメールで知らせてくれます。

学校での本の購入時の参考にもなりますし、資料探しの手掛かりにもなります。

<講座の案内>

市立図書館で開催される市民講座やお話会などの案内をはじめ、県立図書館や近隣の公立図書館で開催される講座等を案内してくれます。

また、開催した講座の資料で郷土資料になるものについては、各学校に配布されています。個人では、得られる情報が限られてしまいがちですが、案内や資料を受けることによって司書としてのレベルアップに役立っています。

<司書連絡用ボックス>

市立図書館内に各学校司書宛ての連絡用ボックスがおりてあり、それぞれの学校への図書館からの連絡や司書どうしの連絡に利用しています。

8. おわりに

私たちが毎日の仕事をスムーズに行えるように、さまざまな形でのサポートがあります。

以上のような形で、現在は活動していますが、現在のようになるまでには、笠岡市司書協議会でさまざまな話し合いを重ねてきました。

協議会そのものを継続するかどうかという問題から、協議会の検討、または学校の現状を知ってもらうための情報交換など、協議内容は多岐にわたりました。特別貸出の見直しなどは、改善点を話し合いながら少しずつ変えてきました。そうすることで、それぞれの図書館業務が合理的に、かつスムーズに行えるようになり、子どもたちを取り巻く読書環境や子どもたちが興味を持つ事柄など、お互いに情報を共有しあい、学校では学習や読書支援に、そして市立図書館ではレファレンスなどに、きめ細かく対応できるようになりました。

これからも、改善点が見つければ、知恵を出し合いながら、よりよい形に変えていきたいと思っています。そのためにも、市立図書館との連携をさらに深いものにしていかなければならないと感じています。

笠岡市は市立図書館が市内に1館、学校司書は10人とこじんまりした集団です。この規模だからできていることもあると思います。私たちにできることは何かを模索しながら、子どもたちの読書環境が、さらに豊かなも

のなるよう協力し、子どもたちが生涯を通じて読書に親しめる人に、また、図書館を身近な場所として考えられる人になるように、お互いの立場で子どもの育ちを支えていきたいと思っています。

II 質疑応答

Q：岡山市立御南小学校 鹿野恵子さん

あいかわらず、リヤカーで本を運んでいるのだなと思った。最初、2名だけの配置で16校兼務と聞いてびっくりしたが、2〜3校兼務からは、中々前には進んでいない。やはり、島嶼部があるということは、困難なことが多くあるのだとわかった。3の学校への特別貸出だが、市立図書館と協力して行われているということが良くわかった。でも、本来なら朝読書に必要な一人一冊の本が全員に確保できるよう、学校でそれだけの蔵書が確保できるというのが、一番いいやり方だろうと思う。当初は、朝読書をやるには、一人一冊全員にはなかったということだと思う。ですが、段々と、蔵書は増えていったのではないかと思う。更に今では、図書費として国が地方交付税を付けているというわけですが、ただ、地方にその税がおりてくる時は、ごちゃごちゃになっておりてくるわけで、笠岡市でも、図書費としておりてきた税が〇〇万あるという風に言えば、各校の図書費は確保できるのではないかと思うが、笠岡市ではどうか？ 昨年、岡山市では、年間40万円だった我が校の図書費が、120万に増えた。そういうこともできるのではないか？

A：笠岡市立大島小学校 石井静子さん

当初より、予算も蔵書冊数もかなり増えてきた。今では、朝読書用の本はあるので、時間が空いた時に読書する学級文庫用の本を補うという形。かぶとがに号で、個人カードを使って子どもが本を借りているような場所は、図書館が遠くてなかなか利用できない。市立図書館などの公共施設の勉強の時には市立図書館の方にかぶとがに号で来ていただき、図書館の仕組みを説明してもらったりして勉強させてもらっている。地方交付税も、一応、市教委と話をする際に、その話題を出し、100%ではないが、ちゃんと配当はしているという回答はいただいている。

Q：岡山市立御南小学校 鹿野恵子さん

笠岡市子ども司書の養成講座というのが、市立図書館

からの要請があって行い始めたということで、その目的は、地域の読書ボランティアとか市の読書活動のリーダーとなることを目的としているようだが、学校が関わるとしたら、子ども自身が成長のためにどういう力をそこでつけるか、子ども自身のどんな力がそこで身につくのか示されなければならないと思う。職場体験よりも、重い感じがするのだが……。司書の仕事は、プライバシーを守ったり、専門的なこともたくさんあるので、そこをどう説明されているのか？

A：笠岡市立図書館 徳山佳代子さん

子ども司書養成講座だが、高い目標までには、まだ進んでいない。今年まだ3回目だが、単なる職場体験とは違い、図書館隣の美術館に行って郷土のことを知るとか、いろいろなテーマで子どもたちに取り組んでもらっている。一方的にレファレンスしてみようと投げかけるだけでなく、実践を多く取り入れている。結果に結びついていくか定かではないが、土日にも図書館に来たよと声を掛けてくれる子どもがいるので、何かしら、心に残っているのではと思う。

Q：瀬戸内市立国府小学校 西岡美樹さん

わくわく学校図書館まつりのことだが、日頃の研修活動を発表される部分と入学前の子どもたちに向けてお話をされているのだと思うが、どのような時間配分でどのようにされているのか？

A：笠岡市立大島小学校 石井静子さん

わくわく学校図書館まつりの研修発表というのは、学校司書が作った作品（実演物）を子どもたちに実際にしてみせるような、お話会が主になっている。小学校や入学前の子どもたちを対象に1時間でお話会、その後、簡単な工作をしている。お話って楽しいなと感じてもらえるような会にしている。

第29回中国地区学校図書館研究大会倉敷大会 第51回岡山県学校図書館研究大会倉敷大会

倉敷大会開催要項

1 期 日 平成27年11月26日(木)・27日(金)

2 会 場

期日	会 場	内 容		住所・電話番号
26日(木) (第1日)	倉敷市立倉敷南小学校	公開授業 研究協議	分科会	〒710-0847倉敷市東富井1005-10 TEL086-430-0373
	倉敷市立連島東小学校	公開授業 研究協議		〒710-8011倉敷市連島町連島2850 TEL086-444-8027
	岡山県立倉敷天城中学校	公開授業 研究協議	分科会	〒710-0132倉敷市藤戸町天城269 TEL086-429-3494
	岡山県立倉敷青陵高等学校	公開授業 研究協議	分科会	〒710-0043倉敷市羽島1046-2 TEL086-422-8001
27日(金) (第2日)	ライフパーク倉敷	全体会	記念講演	〒712-8046倉敷市福田町古新田940 TEL086-454-0011

3 大会主題 **豊かな心を育み、言語活動を充実させる学校図書館**

4 趣 旨

読書を通じて育まれる豊かな感性や情操、課題に対して自ら取り組み解決していこうとする創造力や主体性は、変化の激しい現代社会において、豊かな人生の醸成に大きな役割を果たすものと考えられる。

岡山県では、2次10年間の「岡山県子ども読書活動推進計画」での取組を通して、読書好きの児童生徒の割合が全国平均を上回るなど成果を上げてきている。平成25年3月策定の第3次岡山県子ども読書活動推進計画「おかやまどんどん読書プラン」では、「自ら本を読み、読書を通じて自分の生活をより豊かにできる子どもを育てる」ことを目指し、子どもたちの読書環境の整備に取り組んでいる。そして、学校図書館での主体的な読書活動の充実、家庭教育への支援と読書活動を支える人材の育成、岡山県立図書館の機能の積極的な活用等を進め、子どもたちの読書活動の豊かな展開を進めている。

また、学習指導要領では、各教科・領域において言語活動の充実と主体的に学習に取り組む態度が重視されている。言語活動の充実のためには、様々な読書活動の推進と言語環境の整備、各教科での学校図書館の活用計画等が必要であり、主体性のある学びの創造にも学校図書館の果たすべき役割と機能は大きく、極めて重要である。

本研究大会においては、思考力、判断力、表現力を育む言語活動の充実を図る学校図書館教育の推進をねらいとしている。豊かな感性や情操を育む学校図書館の在り方、言語活動の充実を支える学習・情報センターとしての機能を発揮する学校図書館の在り方、学校図書館を計画的に活用した教育活動の展開等について、分科会における各学校の研究発表や授業公開を通して研修を深め、学校図書館教育のさらなる充実と発展を目指していきたい。

5 主 催 岡山県学校図書館協議会 中国地区学校図書館協議会 公益社団法人全国学校図書館協議会

6 共 催 岡山県小学校教育研究会 岡山県中学校教育研究会 岡山県高等学校教育研究会

7 後 援 文部科学省 鳥取県教育委員会 山口県教育委員会 広島県教育委員会
島根県教育委員会 岡山県教育委員会 倉敷市教育委員会
岡山県小学校長会 岡山県中学校長会 岡山県高等学校長協会 岡山県特別支援学校長会
岡山県PTA連合会 岡山県高等学校PTA連合会 倉敷市PTA連合会
岡山県図書館協会 岡山県読書推進運動協議会 岡山県立図書館

8 記念講演

演題 「忠恕の心は日本の宝！」

講師 小嶋 光信 氏

略歴 両備グループ 代表兼CEO

1945年東京生。慶應義塾大学経済学部卒業。慶應義塾大学ビジネススクール（現：同大学大学院経営管理研究科）修了。（株）三井銀行勤務を経て1973年両備グループに入り、2011年両備ホールディングス（株）代表取締役会長兼CEOに就任。現在、両備グループ50社の代表取締役兼CEOを務める。
著書：「日本一のローカル線をつくる～たま駅長に学ぶ公共交通再生～」(学芸出版社/2012年刊)，「地方交通を救え！再生請負人・小嶋光信の処方箋」(交通新聞社新書/2014年刊)

9 日程概要

第1日 11月26日（木） 公開授業・研究協議・分科会

○倉敷市立倉敷南小学校

9:30~10:00	10:00~10:20	10:30~11:15	11:35~12:20	12:20~13:40	13:40~16:10
受付	研究概要説明	公開授業	研究協議	昼食・移動	分科会

○倉敷市立連島東小学校

9:30~10:00	10:00~10:20	10:30~11:15	11:35~12:20	12:20~13:40
受付	研究概要説明	公開授業	研究協議	昼食・移動

*小学校分科会は倉敷南小で行う。

○岡山県立倉敷天城中学校

9:30~10:00	10:00~10:20	10:30~11:15	11:25~12:10	12:10~13:10	13:10~15:40
受付	研究概要説明	公開授業	研究協議	昼食・移動	分科会

○岡山県立倉敷青陵高等学校

9:30~10:00	10:00~10:20	10:30~11:15	11:25~12:10	12:10~13:10	13:10~15:40
受付	研究概要説明	公開授業	研究協議	昼食・移動	分科会

第2日 11月27日（金） 開会行事・全体会・記念講演・閉会行事

○ライフパーク倉敷

9:30~10:00	10:00~10:20	10:30~12:30	12:30~13:30	13:30~15:00	15:00~15:20
受付	開会行事	全体会 ・各県現状報告 ・全国SLA報告	昼食	記念講演 講師 小嶋光信	閉会行事

第61回読書感想文岡山県コンクール

I 日程

- 6月18日(木) 応募要項配布
第1回支部事務局長会議席上
- 10月1日(木) 応募締め切り(必着)
応募先・事務局
*小・中・・・岡山市立上南中学校
永守 志帆
*高校・・・岡山県立玉島高等学校
宮添 栄美子
- 10月8日(木) 第1回合同審査会
《審査期間》
- 10月27日(火) 第2回合同審査会(最終審査)
- 12月17日(木) 表彰式

- 審査委員 土 師 宏 文 (倉敷市立赤崎小学校)
" 東 真 弓 (倉敷市立乙島東小学校)
" 村 上 昂 平 (倉敷市立岡田小学校)
" 高 本 環 (総社市立神在小学校)
" 河 合 富 枝 (井原市立西江原小学校)
" 石 川 三紀恵 (高梁市立富家小学校)
" 長谷川 一 馬 (新見市立思誠小学校)
" 樂 万 恵 子 (津山市立佐良山小学校)
" 村 上 優 衣 (奈義町立奈義小学校)
" 富 倉 まゆ子 (美作市立美作第一小学校)
" 下 山 知 子 (美咲町立柵原西小学校)
" 服 部 智 江 (美咲町立柵原東小学校)
" 矢 吹 紀代美 (岡山市立旭東中学校)
" 奥 田 雅 代 (岡山市立瀬戸中学校)
" 瓜 生 紗知子 (玉野市立玉中学校)
" 渡 邊 稔 子 (玉野市立玉中学校)
" 長 江 正 行 (高梁市立高梁中学校)
" 中 島 康 子 (吉備中央町立加賀中学校)
" 江 田 かおり (新庄村立新庄中学校)
" 永 守 志 帆 (岡山市立上南中学校)
" 金 田 益 美 (岡山市立山南中学校)
" 若 狭 真 司 (倉敷市立倉敷翔南高等学校)
" 神 崎 良 造 (県立玉野光南高等学校)
" 後 藤 和 美 (県立岡山御津高等学校)
" 戸 川 英 雄 (朝日塾中等教育学校)
" 鷹 取 智 子 (県立邑久高等学校)
" 渡 邊 絢 夏 (興譲館高等学校)
" 大久保 緑 子 (高梁市立宇治高等学校)
" 井 上 知 大 (岡山県高梁日新高等学校)
" 小 河 原 碧 (井原市立高等学校)
" 平 岡 照 明 (岡山県共生高等学校)

II 県審査委員

- 県SLA会長 藤 井 健 平 (岡山県立総社高等学校校長)
- 副 会 長 大 塚 仁 (岡山市立甲浦小学校校長)
- " 藤 井 隆 (岡山市立上道中学校校長)
- 八重樫 裕 一 (毎日新聞社岡山支局長)
- 審査委員 松 田 裕 子 (岡山市立建部小学校)
- " 岡 村 美 雪 (岡山市立伊島小学校)
- " 岡 祐三子 (岡山市立富山小学校)
- " 藤 原 義 央 (岡山市立富山小学校)
- " 森 智 子 (岡山市立政田小学校)
- " 小 川 薫 (岡山市立芳田小学校)
- " 新 井 公美子 (岡山市立大野小学校)
- " 徳 永 昭 美 (和気町立佐伯小学校)
- " 米 山 知 子 (吉備中央町立豊野小学校)
- " 山 寄 真理子 (吉備中央町立大和小学校)
- " 藤 井 亜 紀 (瀬戸内市立牛窓東小学校)
- " 馬 場 みどり (瀬戸内市立牛窓西小学校)
- " 真 鍋 初 枝 (瀬戸内市立今城小学校)
- " 川 村 恵 理 (早島町立早島小学校)
- " 三 竿 由香利 (倉敷市立大高小学校)
- " 西 裕 子 (倉敷市立連島南小学校)

Ⅲ 岡山県指定図書

	書名 (シリーズ) 著者名	発行所
小 (低)	『しゅくだいさかあがり』 福田 岩緒	PHP 研究所
	『ひみつのかんかん』 花山 かずみ	偕成社
	『あひるの手紙』 朽木 祥	佼成 出版社
小 (中)	『七夕の月』 佐々木 ひとみ	ポプラ社
	『地雷をふんだソウ』 藤原 幸一	岩崎書店
	『ぼく、悪い子になっちゃった!』 マーガレット・ピーターソン・ ハディックス	さ・え・ら書 房
小 (高)	『ブルーとオレンジ』 福田 隆浩	講談社
	『希望の牧場』 森 絵都	岩崎書店
	『クララ先生さようなら』 ラレル・ファン・コーイ	徳間書店
中 学 校	『石の神』 田中 彩子	福音館書店
	『ナックの声が聞きたくて!』 村山 司	講談社
	『カンボジアの大地に生きて』 ミンフォン・ホー	さ・え・ら書 房

2) 特別賞受賞者 (最優秀賞受賞者)

岡山県知事賞

岡山県立倉敷天城中学校 1年 國府優花

岡山県議会議長賞

岡山県立倉敷青陵高等学校 1年 井上愛梨

岡山県教育委員会教育長賞

岡山市立平島小学校 1年 高木一熙

岡山商工会議所会頭賞

岡山市立城東台小学校 4年 有道 碧

岡山市長賞

岡山市立甲浦小学校 5年 守谷環希

岡山県読書推進運動協議会会長賞

美作市立美作第一小学校 3年 井上雅功

新見市立思誠小学校 4年 赤木志優

就実中学校 2年 武島萌乃

毎日新聞社岡山支局長賞

倉敷市立西阿知小学校 5年 高橋 梓

総社市立総社中央小学校 6年 山本知果

倉敷市立多津美中学校 3年 渡邊友萌

岡山県学校図書館協議会会長賞

総社市立清音小学校 2年 長江有紗

岡山市立芳明小学校 2年 高橋歩楓

岡山県立岡山朝日高等学校 1年 赤木里帆

Ⅳ 結果

1) 応募作品数・応募校数

区分	平成25年度	平成26年度	平成27年度
小学校低学年	6,294編	6,370編	6,362編
小学校中学年	10,319編	10,457編	10,313編
小学校高学年	11,501編	11,716編	11,653編
中学校	30,088編	28,339編	28,734編
高等学校	14,295編	15,229編	15,800編
計	72,497編	72,111編	72,862編
応募校数	605校	632校	598校

第61回青少年読書感想文コンクール入賞者

優良作品 (全国学校図書館協議会会長賞)

岡山県立岡山朝日高等学校 1年 赤木里帆

審査概評

小学校低学年の部

●自由読書

今年度の県審査対象作品は、八十三編であった。学年別では、一年生が三十六編、二年生が四十七編で、昨年と同様に一年生の作品がやや少なかった。

感想文に取り上げられた分野は、家族、生命、友達、動物、食に関するもの、自然、戦争・平和、自然災害にあった人の体験記など多岐にわたっていた。

中でも家族の温もりをテーマとした図書は、低学年の児童にはもっとも身近であり、登場人物の気持ちに共感できる経験も多いため、十二編が県審査の対象に上がってきた。読書をきっかけにして、改めて家族の大切さに気づき、感謝の思いが高まっていく様子が、作品からうかがえた。弟や妹の生意気な態度に腹を立て、けんかをしてしまう兄や姉の気持ちに共感したり、いたずらばかりして困らせる弟や妹がどれだけ幸せをくれる大切な家族であるかを素直に綴ったりした作品が多く、ほほえましい気持ちになった。

戦争・平和について取り上げた作品は、七編あった。低学年児童には難しいテーマのように思えるが、読書を通して現在の自分の幸福な生活を見つめる中で、幼いながらも戦争・平和について真剣に考えることができていたと思う。普段当たり前だと思っている食事や睡眠、遊び、人々の笑顔そして家族をも奪う戦争は「ぜったいしない」と誓った力強い作品もあった。読書を通して、自分の生活を見直し、考えを深めていった様子がうかがえる感想文もあり、心に残った。

食に関する内容がテーマになった作品は、五編あり、そのうち三編が『いのちをいただく』を読んだ感想文であった。「牛の命を解く」ということに真正面から向き合った図書であるだけに、読後の感想は、読み手の年齢や経験に大きく左右されると思われる。しかし、どの作品も低学年らしく、好き嫌いをせずに命に感謝して食べたいと素直な気持ちが綴られていて、好感がもてた。難しいテーマであっても、読み手の年齢や経験に合った読み取りや考えの深まりがあり、読書の奥の深さを感じた。

文章構成については、本との出会いから、あらすじや感想へと流れる、基本的な構成の作品が多かった。しかし、中には自分の経験や思いばかりが前に出て、対象図

書から離れてしまっている作品もあり、残念に感じた。

文章表現においては、登場人物に話しかけるように書かれた作品が多かった。登場人物の気持ちにより添いながら、素直に自分の気持ちを表現している作品は、読み手の心にストンと落ち、読みやすく親しみやすかった。今回の県審査に上がってきた作品の中に、応募規定の字数に満たないものや、はるかに超えているものが含まれていた。各地区での審査の改善点として、次回の審査に活かしていただきたい。

今年度の県審査に携わり、児童の豊かな感性や読み手を引きつける表現力にふれ、読書に夢中になっている児童一人一人の顔が浮かんできて、たいへん嬉しく思った。自分にぴったりの本に出会ったとき、読者はストーリーに引き込まれ、その一場面一場面が映画のシーンのように読者の頭に浮かんでくる。そして登場人物に共感したり、心が強く揺さぶられたりしたことが、感動となって読者の心に残るのではないだろうか。県の審査に上がってきた感想文の中には、広い図書館で偶然見つけた一冊の本との出会いが、大人になってもずっと覚えていたいほど感動的であったという児童の作品もあった。一人でも多くの児童が、こんな本に出会えることを願っている。

●課題読書

今回の県審査対象作品は、四十九編であった。学年別では、一年生が二十二編、二年生が二十七編であった。

課題図書では、

『クレヨンからのおねがい！』	二十一編
『あした あさって しあさって』	十七編
『かあさんの しっぽっぽ』	七編
『はこぶ』	四編

となっている。作品数にやや偏りが見られた。作品が多かった図書は、身近な自分の生活や経験に置き換えて読み進めたり、登場人物の気持ちや行動に共感したりすることができ、感想文を書くにあたって主題に迫りやすいものであったと思われる。

それぞれの課題図書について、感想の傾向をまとめてみると、次のようになる。

『クレヨンからのおねがい！』

いつも使っているクレヨン。ある日主人公はクレヨンの箱にある十二色のクレヨンたちの切実な思いが綴られた手紙を見つける。「やあ、ケビン！」で始まるユーモアたっぷりの手紙を読み、自分が絵を描くときの経験と重ねた感想が多かった。そして、最後の主人公の描いた

絵に感動し、読者として、クレヨンの思いを受け止めたことが伝わってくる作品が多く見られた。「ぼくにも手紙がとどくかな」「ありがとうって言ってよるこんでくれるかな」など書いている作品もあり、ほほえましかった。

『あした あさって しあさって』

遠くの町で仕事をしているお父さんが久しぶりに帰ってくるのを楽しみに待つ主人公のくまのこ。「しあさって」の意味を教えてもらい、一日一日を数えながら待つ主人公に自分を重ね、わくわくする気持ちに共感しながら感想を書いている作品が多かった。また、自分も家族と離れてさみしかった思いと一緒に過ごせるうれしい思いなど自分の経験をもとに感想が書かれた作品も多かった。

『かあさんの しっぽぽ』

毎日忙しく働くお母さんと、まだお母さんに甘えたい盛りの主人公。民話を読み、こわい顔でおこられ、目の前のお母さんはキツネが化けているに違いないと思込んでしまう。父母にしかられて泣いたり、こわいと思ったり、反発したりすることは、多くの子どもにとって共感できることであり、自分の経験から感想を書いた作品が多かった。そして、主人公がお風呂でお母さんにギュッと抱きしめられて、母の愛を確かめられたように自分も家族に愛されているという思いをもてたことが伝わってくる感想も多く見られた。

『はこぶ』

「はこぶ」ということをテーマにし、どんどん方法や道具が展開して、進化していく。「もっとたくさん、もっと遠くに。」という人々の思いから生まれた乗り物や道具に驚き、感動したという感想が多く見られた。人々がいろいろな物を運ぶために苦労し、工夫したことが描かれており、最後には宇宙まで届けるといふ、時代の変化を感じられるこの絵本を読み、「未来はどうなるだろう」と夢を広げる感想もあった。

全体としては、自分のまわりの家族、身近なものや道具、自分たちの生活を支える人々とのかかわりなど、自分の生活や経験と重ね合わせながら読み深め、共感したところやこれからはこうしたいという考えなど、低学年らしい言葉で表現している作品が多く見られた。

これからも本との出会いを楽しんで、心豊かに成長して行ってほしい。

●指定読書

今年度の県審査対象作品は、一年生十六編、二年生二十五編、合計四十一編であった。

これを図書別に見ると、次の通りである。

『しゅくだいさかあがり』	二十三編
『ひみつのかんかん』	十四編
『あひるの手紙』	四編

「しゅくだい」「さかあがり」「ひみつ」といった、題名の中にある言葉に関心を持って選んだ児童が多かった。どの図書も挿絵が親しみやすく、経験と結びつけやすい内容であり、児童がその場で出来事を一緒に体験しているかのごとく、作品の世界に入ることができたと思われる。

それぞれの図書について、感想の傾向を見ると次のようになる。

『しゅくだいさかあがり』

何でも友達より上手にできるゆうたが、どうしてもできないさかあがり。できない自分に腹が立ち、友達や家族にいらいらした気持ちをぶつけて一度はあきらめてしまう。さかあがり練習の経験や、できるようになるまであきらめずにがんばった経験、できたときの喜び、周りの人たちの支えなどを思い出しながら感想を書いた作品が多かった。自分自身の経験から、できなくてあせるゆうたの思いに自分の思いを重ねて共感したり、ゆうたを応援し続けるさとしのやさしさに気付いたりしながら読み進め、あきらめずに努力することの大切さや、ゆうたのように、しなければならぬことは最後までがんばりたいという前向きな思いを表現することができていた。

『ひみつのかんかん』

「ひみつ」という言葉や缶の中身に興味をもって読んだ児童が多かった。今まで、ほとんど関わりのなかった「わたし」が「はるちゃん」の話聞くうちに、かんかんの中身が、はるちゃんにとって大切な家族との思い出の品であることに気づき、おばあちゃんへの愛情を深めていく。自分と祖母の関わりと重ね合わせて読み、自分の中にもある家族を大切に思う気持ちや、家族の存在のすばらしさに気づき、大切にしたい、という思いを素直に表現している作品が多かった。また、実際に離れて住んでいる曾祖母に手紙を出し、家族の存在や関わりから生まれる思い出一つ一つが大切な宝物になることを教わり、家族ともっとふれあいたいという感想もあった。

『あひるの手紙』

ほんまち小学校一年生の子も達と二十四歳の青年けいいちさんが、しりとりで手紙をやりとりしていく話である。しりとりという誰でも経験のある遊びを通じて、子ども達がけいいちさんの答えを予想したり、全員で続きを考えたりしながら手紙を交換する様子を、児童はわくわくしながら読み進めたと思われる。もし、自分のクラスに「あひるの手紙」がきたら、と想像を膨らませて考えた感想や、仲良くしりとりの続きを考える子ども達の様子から、自分のクラスのよさに気付いた感想があった。また、二十四歳でひらがなを覚えたことに疑問を感じて家族と話し合い、自分の兄弟の様子などから、ゆっくり成長していく人もいるということを知り、視野を広げた児童もいた。

全体として、登場人物に寄り添いながら、自分の体験と重ね合わせたり、想像を膨らませたりしながら読み、感想を素直に表現している作品が多かった。また、自分の生活を見つめ直して前向きに生きようという気持ちを表現していた作品もあった。これからも、様々な本との出会いから自分を見つめ、思いや考えを広げて豊かに表現する人に成長してほしいと心から願う。

自由読書の審査概評

徳永 昭美

課題読書の審査概評

真鍋 初枝

指定読書の審査概評

石川三紀恵

小学校中学年の部

●自由読書

今年度の県審査対象作品は、三年生三十九編、四年生四十七編、計八十六編であった。

取り上げられた本の分野は、平和と戦争、動物についてのノンフィクション、伝記、家族との関わりや友情をテーマにした物語など幅広く、読書に対する興味や関心の広がりを感じられた。読み始めたきっかけは、家族の薦め、題名や絵・写真に心をひかれて、ニュースやテレビ番組の特集を見て興味をもった、などが多かった。

今年は戦後七十年という節目の年でもあり、平和や戦争をテーマにした作品が多かった。ただ戦争の悲惨さを語るだけでなく、平和のためにまずは身近な友達を大切にしたい、戦争についてもっと勉強して後世に語り継いでいきたいという思いを綴った作品が多かった。どの作品からも、中学年なりに自分にできることは何かと平和について精一杯考えたことがうかがえた。ただ、構成が

似ているため同じような印象の作品が多く、特長を出しきれない感じであった。書き出しやまとめの工夫なども、今後身につけていきたい表現技法である。伝記や障がいのある人の体験記の感想文も多かった。信念をもって努力を続けることの難しさや大切さ。挑戦する勇気。主人公の生き方と今の自分とを比べることで、自分自身を振り返り、成長につなげようと考えたことがよく表現されていた。

物語の感想文は、家族との関わりをテーマに書かれた作品が目立ち、『かあちゃん取扱説明書』が多く読まれていた。家庭での日常の出来事や会話などが具体的に書かれた作品が多く、読んでいて心が和んだ。どの作品も、今まで以上に家族を好きになったことや、感謝の気持ちをもつようになったことが、自分の言葉で素直に表現されていて心温まる素晴らしい作品だった。他には、友達との絆や主人公の成長が描かれた本も多く読まれていた。これらのテーマは実体験と結び付けて考えやすく、友達同士の微妙な関係に共感をおぼえたり、登場人物の頑張りに感銘を受けたりしていることが文章にもよく表現されていた。

文章表現においては、本と出会ったきっかけ、あらずじ、読後の感想という基本的な流れがしっかりしているものが多かった。本を読んで自分がどう変わったか、これからの生活にどう生かすかといったことがしっかり書かれている作品は特に目をひいた。しかし、誤字脱字や漢字の間違いがある作品も少なくなかった。内容が良いだけでももったいないと感じた。文章を書き終えたら必ず読み返す習慣をつけてほしい。

子供たちはたくさんの本と出会い、それをきっかけに新しい知識を得たり、自分自身や周りの人との関係を見つめ直したりしている。また、家族や友達に薦められた本を読み、感想を交流している。読書を通じて人とのつながりも深くなっていると感じた。審査を通して、読書の素晴らしさを改めて感じる事ができた。これからも多くの本と出会い、読書を楽しんでほしい。そして、その感動を文章に表すことで、さらに豊かな心と表現力を育んでいってくれることを願う。

●課題読書

今回の県審査対象作品は、三年生十八編、四年生二十五編、計四十三編であった。これを課題図書別に見ると、次の通りである。

『かぐやのかご』 八編

『パオズになったおひなさま』 九編

『お話しかせてクリストフ』 十一編

『ぼくはうちゅうじん』 十五編

中学年の課題図書には、いずれも主人公は中学年くらいの子どもが描かれていた。子どもたちは、自分と同じくらい年齢の主人公に、自分だったらと、重ね合わせながら読み進めていったことが感じられた。さらに、今年は、戦後七十年という節目の年であったことから、図書以外からも戦争についていろいろ考えた作品が多いように感じられた。

図書別の感想の傾向は次のようであった。

『かぐやのかご』

自分がしたことではないのに、友だちにからかわれて大泣きをしていた清香の前に、突然一人のおばあさんが現れた。おばあさんは、清香の話熱心に聞きながら、あつという間にかごを竹で編んでいく。その姿に、驚きながらも、だんだん心を穏やかにしていく清香の姿が描かれている。

清香の様子に、子どもたちは、自分の経験と重ね合わせながら、自分の性格について考えることができたようだ。作品からは、人との出会いを大切に、自分も人から信頼されるようになりたいという、前向きな姿勢が感じられた。

『パオズになったおひなさま』

「パオズ」とは、中国で食べられている肉まんのことだと教えてくれたおばあちゃんは、今から七十年前に中国の大連で暮らしていた。そのときに会った、リンちゃん。しかし、戦争が日本人と中国人の二人を引き裂いていった。

「戦争を許さない気持ちを持ち続けていきたい。」さらに、「自分もたとえ離ればなれになってもお互いを思い続けられるような友だちをもちたい。」という、子どもたちの強い気持ちが多くの作品から伝わってきた。

『お話しかせてクリストフ』

ルワンダの内戦から逃れてイギリスにやって来たクリストフは、銃撃を受け、お腹に傷跡が残ってしまった。さらに、イギリスに来た初めの頃には、いじめを受け、心も傷ついてしまう。父親に、「なぜ、いじめが起こるのか。」と尋ねたクリストフに、「人間の価値に違いはないってことが分かっていない。どこの世界にも、他の人より上にいないと気のすまない人がいるんだ。」と答えた。やがて、クリストフは、自分の経験をお話にして、

学校の友達から賞賛される。

父親の言葉に、子どもたちは心を揺さぶられ、平和の大切さをしっかりと考えることができていたように感じられた。また、クリストフのように、自分の考えを堂々と述べられるようになりたいという感想もあった。

『ぼくはうちゅうじん』

キャンプに行った家族が、星空を眺めながら、星座や宇宙について話をする様子が描かれている。大昔から、人々が、星と共に暮らしてきたことや、未来には、宇宙のどこまで行けるようになっていくのか、さらに、太陽や地球のすばらしさが伝わってくる。

宇宙の広さや不思議さに、どんどん引き込まれていった子どもたちの様子が感じられた。身近なようで、謎が多く広い宇宙に、驚きや賞賛、未来に向けての期待など、素直な感想を述べている作品が多く見られた。さらに、宇宙の他の星から見れば、自分が宇宙人になるという、おもしろさに気付くことができたように感じられた。

●指定読書

県審査対象作品は、三年生十七編、四年生二十一編、計三十八編であった。これを図書別に見ると、次の通りである。

『地雷をふんだゾウ』 二十三編

『七夕の月』 十編

『ぼく、悪い子になっちゃった!』 五編

作品数には偏りが見られたが、どの作品も中学年の児童には読みやすく、作者の意図が捉えやすかったと思われる。多くの児童が、登場人物の行動や気持ちに共感しながら、本の内容と自分の生活を重ねて、自分の考えや思いを書くことができていた。

それぞれの指定図書について、感想の傾向をまとめてみると、次のようになる。

『地雷をふんだゾウ』

世界中で、地雷で命を落としたゾウは一万頭以上といわれている。被害に遭いながらも奇跡的に助かったゾウの姿を通して、戦争・平和と動物たちとの関係について考えることができる話だった。

自分たちの知っている動物園やタイなどのゾウ乗りと比べながら、知らない世界の出来事への驚きを、率直に表現している作品が多く寄せられた。また、広島・長崎の原爆や東日本大震災での被害などにも言及し、平和の尊さや今私たちがすべきことについて考えを深めている児童もいた。

『七夕の月』

仙台七夕祭りを題材にしたお話である。長年地元のまつりを守ってきたおばあちゃんと、その思い・願いを受け継ごうとする少年たちの出会いや友情が描かれている。和也とアキ、おばあちゃんの関わる姿に、自分と自分の祖父母の姿を重ねた作品が多く出された。また、仙台七夕まつりを継承しようとする二人の姿から、地元のまつりに携わっている自分を省みて、自分だったらどうするか、これからどんな工夫をしていきたいかを素直に表現しているものも多かった。さらに、仙台を舞台にしたお話であることから、東日本大震災に言及した作品もあり、平和な世の中にしていくために自分たちのできることをしていきたいという決意が見られた。

『ぼく、悪い子になっちゃった!』

小学四年生のデクスターはお父さんの病気の都合で転校することになった。つらいことが重なっていたデクスターはむしゃくしゃして、転校初日に、トイレで知らない男の子ロビンをたたいてしまう。その事件のことを書いた作文を書き直していく中で、担任のアボット先生やロビンと関わり、事件の真実に気付いていく。

自分のした悪い行いを作文に書くのはつらいことであるが、書き表すことで自分の本当の心に気付くことができたデクスター。本当のことに気付いてよかったという感想が多かった。また、つらいことを書き終えたデクスターは本当は強い子であること、物事を見ただ目で決めつけないこと、悪いことが次々と起こったとしても見方を変えて、プラスに考え続けていくことの大切さを感じ取ったようである。

これからも本との出会いを大切に、読書の楽しさを存分に味わってほしいと思う。この経験を通して、好みの本ばかりでなく、さまざまな分野の本に出会い、自分の体験と重ね合わせながら、心豊かに成長していったらいいと願っている。

自由読書の審査概評

三竿由香利

課題読書の審査概評

河合 富枝

指定読書の審査概評

村上 優衣

小学校高学年の部

●自由読書

今回、自由読書の部で県審査の対象となった作品は、八十七編であった。学年別にみると、五年生が三十五編、六年生が五十二編であった。

感想文に取り上げられた内容は、戦争、生命、友情、介護、家族、人物記など多岐にわたっていた。なかでも、ニュース等で話題になった人物に関する本から感想を書いた作品が多かった。これは、ここ最近の概評からも同様の傾向を感じられるとともに、高学年として、普段から社会の動向に視野を広げて生活している様子が窺える。

読書感想文で大切なこととして、「本の紹介や批評だけでなく、自分の生活経験と結び付けた感想が必要である。また、直接的な経験がなくても、その本との出会いが自分の考え方をふり返らせ、どのように生き方を変えるきっかけとなったかを書くこと」（平成二十二年審査概評より抜粋）と述べられている。年々、力作が応募されているが、今年度の作品では、粗筋の紹介に終わるのではなく、自分の生活経験や家族の考え・経験等、その本と接点を持つ経験を合わせて、読後の自分の考えを表現している作品が多くみられ、レベルの高さを感じた。

また、表現方法にも様々な工夫が見られた。

導入の書き方を工夫し、その本との出会いを印象づけた作品や、感想を紹介するのに、心に残ったこと、分かったことなどを何点かに絞って記述し、読み手に自分の考えを分かりやすく表現した作品等がみられた。今回の審査を通して、読書後、感想文に真剣に取り組む児童の真摯な姿勢に感心した。

今後に向けた課題もいくつかみられた。自分の生活経験が本の内容と重なるために、自分の生活経験の記述が中心になり、読後の感想が十分に表現されていない作品や、戦争や平和などを扱った本で、作者が訴えたいことと自分の生活体験がかけ離れているために、読後の考えが一般論に終始するような作品があった。直接体験ができない場合でも、本から知識を深めていく読み方をするだけではなく、その本に出会うことで自分の考えの何を見つめ直したのか、高学年なりに振り返ってほしい。また、自分の考えを千二百字に的確に表現することは大変難しいため、まとめの部分で、自分の考えを十分に書ききれなかったのではないかと感じる作品も少なくなかった。さらに、意見文と読書感想文の違いをどう捉えるかについても、今一度、注意喚起とともに指導の在り方を見直していくことが必要かもしれない。

読書離れが言われて久しいが、学校図書館では、毎日、たくさん児童が本に親しんでいる。ノンフィクション類の作品が人気が高いのは、その人の生き方に関心が湧

き、読み易いからかもしれない。本来、読書では、自分の未体験の世界を文字を通して豊かに構築していくことができる。普段読まない本を読み切ることで、その作品から新しい価値を見つけてほしい。その価値を通して、自分のこれまでの価値観を見直し、新しい考えの基礎を創る機会としてほしい。また、同じ本を読んでも、読後の感想は、人それぞれ違いがあるので、友達の感想を互いに聞きあって実生活に生かしてほしい。さらに、その違いを明確に人に伝えることができる方法の一つとして、構えずに感想文にも挑戦してほしい。

今回の審査を通して、現代の情報社会に生きる子ども達にとって、読書が、自分の考えを創る一端となることを新たに願った次第である。

●課題読書

今回、課題図書の部の県審査対象になった作品は四十九編で、学年別では五年生が二十三編、六年生が二十六編であった。これを図書別に見ると、

『ぼくの、ひかり色の絵の具』 十五編

『ぼくとテスの秘密の七日間』 六編

『ちいさな ちいさな

一めにみえないびせいぶつのせかいー』 十三編

『レジェンド！ 一葛西紀明選手と

下川ジャンプ少年団ものがたりー』 十五編であった。作品の多かった図書は、自分の生活と重ね合わせて読んだり、身の回りの不思議について関心を持ったりしやすい本であった。

四編の課題図書について、それぞれの感想をまとめると次のようになる。

『ぼくの、ひかり色の絵の具』

思ったことを口にするの苦手な少年ユクが、絵を描くことを通して、自分自身を見つめ、友だちとの新たな関係を築いていく成長物語である。ユクと同じように、うまく自分の思いを相手に伝えられなかった経験や、自分の思いと違うことを言われても反論できなかった自分の経験をユクに重ねて読んだ児童が多かった。自分も感じたことのあるもどかしさに共感しながら、思いを伝えることの大切さや、自分の成長を見守り支えてくれる周りの人々の存在に改めて気付いた感想が見られた。

『ぼくとテスの秘密の七日間』

十歳の少年サミュエルは、家族とバカンスで訪れたオランダのテッセル島で、十一歳の少女テスと出会う。二人と一緒に過ごした七日間で、自分たちや家族の人生を

再発見し、これからの生き方を考える物語である。同年代の登場人物に心を寄せて、自分の家族について、また、生と死について、改めて考えた感想が見られた。ただ、自分自身の生活や体験に結びつけることが難しかったのか、出品作品が少なかった。その中でも、サミュエルとテスのそれぞれの性格や思いを理解し、二人の選択を自分に置きかえて考えることで、これからの生き方を真剣に考えた高学年らしい感想もあった。

『ちいさな ちいさな

一めにみえない びせいぶつのせかいー』

身の回りにいる微生物について、私たちの暮らしとの関わりや、自然界での大きな役割などを、分かりやすい絵と文で伝えるイギリスの科学絵本である。理科好きの児童が、わくわくしながら目に見えない世界を想像し、微生物の数や形、仕事に驚き、その不思議さを素直に表現している感想文が多くあった。この本との出会いを機会に、微生物にさらに興味をもった人もいた。未知の世界を知る喜びのあふれた感想を読むことでも、この本の魅力を感じることができた。

『レジェンド！ 一葛西紀明選手と

下川ジャンプ少年団ものがたりー』

葛西選手が、ソチ冬季五輪で銀メダルをとったのは、四十一歳の時だった。その活躍の陰には、彼を支え続けてきた家族のきずなと生まれ育った北海道の小さな町「下川町」の存在があった。多くの児童が、スポーツなどで、挫折や苦しい思いを味わった時のことを思い返し、厳しい環境の中にも変わらない葛西選手の相手への思いやりや、努力を惜しまない姿勢に感動し、共感した気持ちを素直に表していた。そして、葛西選手のすばらしい人間性に触れ、自分の生き方を見つめ直した感想も多くあった。

全体として、本を通して得た自分の思いや感動を素直に書き、その本との出会いによって、自分の生き方や考え方の幅の広がりや変化に触れた高学年らしい作品が多く見られた。

●指定読書

今回、指定図書の部の県審査対象となった作品は四十一編で、学年別では五年生が十四編、六年生が二十七編であった。これを図書別に見ると

『希望の牧場』 十三編

『ブルーとオレンジ』 十五編

『クララ先生、さようなら』 十三編

であった。内容としては、自分の生活や今までの経験と結びつけた感想文が多かった。それぞれの指定図書について、感想の傾向をまとめてみると次のようになる。

『希望の牧場』

東日本大震災で福島第一原発から十四キロメートル地点にあった「希望の牧場」。原発事故により二百頭を超える肉牛が一瞬のうちにその価値を失ってしまう。突然、絶望のどん底に落とされた牧場主たち。しかし「牛飼いだから牛を生かす。」という信念で、自分の命をかけて牛の面倒を見ている牧場主の姿に希望をもらい、共感し協力していくたくさんの人々。現実にあったこの物語に、信念を持って生きていく大切さ、そして人間は「希望」を持つことで、生きる力が湧いてくることを教えられたという感想があった。また、「希望」とは心から幸せを感じることで、そしてそれは、ごく身近に当たり前に繰り返す生活の中にあるという感想を持った児童もいた。これからの社会を担っていく子どもたちに、「希望」がずっと続いていくように、そしてそのためには一人一人が安心して暮らせる日本について考え続けてほしいと願う。

『ブルーとオレンジ』

クラス内での上下関係を敏感に感じ取り日々のいじめに耐えている男の子（ブルー）。

ある日サッカーの監督が言った「自分の武器はなにか考えろ。」という言葉に心を動かされ、見事カーストの下剋上に成功していく。同じクラスの世渡り上手な（オレンジ）。オレンジもまた、ある女子へのいじめが見逃ごせず自分にできることを模索し始める。「教室内カースト」というクラス内での身分制度を扱ったこの内容は、日々「学校」という社会で生きている子どもたちにとって身近な内容であることから、とても共感的な作品が多かった。特に自分が以前いじめられた経験や、心無い言葉で友だちを傷つけてしまった反省など、普段の生活の中で実際にあったことと結びつけた感想が書けていた。見て見ぬふりをやめて、勇気を出していじめをなくしていきたい、たった一人の勇気、自分もそのたった一人の勇気になり、大切な友達と自分のために立ち上がりたい。そんな児童の前向きな感想に、いじめへの光を見出したように感じた。

『クララ先生、さようなら』

この話は、病気で学校を休んでいたクララ先生が約四か月ぶりに教室に戻ってくるが、先生に残された日々が

あと少ししかないことを子どもたちが知らされることから物語が始まる。

「子どもたちが先生に贈る、最後で最高のプレゼントとは？」というこの本の帯に書かれてあった言葉が気になり、手に取ったと感想に書いていた児童もいた。「大切な人の死」とは何か、自分の身近な人の死と重ね合わせて想いが素直に書けている作品が多かった。「大切な人の死」は、悲しみやせつなだけでなく、楽しかった思い出、その人のぬくもり、溢れる愛情なども感じられるものではないかという感想もあった。

今年度の指定図書は「東日本大震災による原発事故」「教室内カースト」「大切な人の死」とテーマが濃厚で様々な分野を扱ったものであった。それぞれの図書が大変読み応えのある内容だったように思う。これからも様々な本との出会いを大切にし、自分の想いをしっかり持ち、心豊かに成長してほしいと願っている。

自由読書の審査概評

岡村 美雪

課題読書の審査概評

山岸真理子

指定読書の審査概評

下山 知子

中学校の部

●自由読書

今回の自由図書の部の県審査に出品された作品は九十六編であった。

感想文に取り上げられた内容は、平和・戦争、生命、夢、家族、人とのつながり、人物記、自己啓発など、多岐に渡っていた。戦争や平和に関する本から、戦争の悲惨さや平和の大切さを感じとり、平和な世界の実現のためにいかに努力していけばよいかを真剣に考えた作品。本の中に登場する人物の生き方や考え方や、自分を重ね合わせて、夢を実現するために必要なことを学び、前向きに生きていこうとする姿勢が感じ取れた作品。家族や友達など、人とのつながりを描いた本から、他者に支えられて生きている自分に気づき、深い感謝の思いが伝わってきた作品。いずれの作品も、本を通して、これまでの自分を振り返り、さらに高めていこうとする前向きな姿勢や、本への熱い思いが伝わってくるものであった。そして、これらの作品は、それぞれの作品を書いた生徒自身の豊かな感性や素直で一生懸命な生き方をも感じさせてくれるものであった。特に、中学生では、自分が一生懸命に取り組んでいる部活動などに関わる本や、主人公が自分たちと同じ年頃の少年、少女である本などを選んで

いる生徒が多く、登場人物と自分を重ねたり、比べたりしながら読むことによって、自らの成長につなげようとしていたのが印象的だった。

次に、表現についてであるが、文章構成がしっかりとしている作品が多く、惹きつけられる表現が随所に見られた。また、本の引用について、引用箇所を選択や引用の仕方など、本の魅力を十分に伝えるための効果的な引用は、読書感想文には欠かせないものである。これらの表現の上手さは、生徒たちの日頃の読書活動によるところが大きいかもしれない。そうしてみれば、豊かな読書経験が生徒たちにもたらすもの、それがいかに大きなものであるかを、今さらながら実感した。ただし、内容や表現が素晴らしいに関わらず、既定の文字数を十分に生かすことができていなかったり、最後のまとめで言葉足らずで終わったりして、「もう一息、おいしい。」と思われるものがあつた。インパクトのある導入と同時に、最後のまとめにおいても、余韻の残るような印象的な終わり方の工夫が求められる。

夢を追ったり、将来のことについて考えたりすることが難しくなつたといわれる現在であるが、今回、しっかりと今の自分を見つめ、将来を真剣に考える中学生たちの言葉に出会い、大きな感銘を受けた。そして、一冊の本との出会いが、考え方をえ、生き方をえ、人生をええるきっかけにもなり得ることを実感した。中学生時代は、思春期の真つただ中にあり、多くの生徒がさまざまな悩みや葛藤を抱えている。そんな多くの中学生に、この読書感想文を読んでほしい。

●課題読書

今年度の課題図書は、『夏の朝』『ブロード街の12日間』『うなぎ 一億年の謎を追う』の三作品である。県の審査対象となつた感想文は全部で四十五編であつた。出品数の内訳は、『夏の朝』が十九編、『ブロード街の12日間』が十五編、『うなぎ 一億年の謎を追う』が十一編であつた。また、学年別では、一年生が十九編、二年生が十二編、三年生が十四編であつた。

『夏の朝』は、祖父の一周忌に祖父の家を訪れた莉子が、取り壊す予定の祖父の家に滞在した数日間を描いた作品である。蓮の咲く早朝に、現在から家族の過去へ過去へと遡る不思議な体験をする莉子。若き日の祖父、母、家族とのふれあいを通して蓮の花に込められた家族の想いを受け取り、心の成長を通して今ある自分と新しい家族

を見つめていく。

感想文では、祖父や家族の想いや自分に至る命のつながりを受け止めたものが多かつた。身近な存在である祖父母や父母の想いを自分の生活体験から連想し、作品の理解につなげたものや、莉子の感性や気持ちを通して、今生きている自分を大切な存在なのだと肯定的に受け止めた作品が多かつた。

『ブロード街の12日間』は、十九世紀のロンドンで青い恐怖と呼ばれたコレラが大流行した史実を元にした作品で、両親を失い、弟のために泥さらいをして働く十三歳の少年イールが逆境にも負けず、多くの人々とのつながりの中で、スノウ博士とともに人々のために病気の原因を突き止める姿が描かれた感動の物語である。

感想文では、主人公イールの心の優しさや責任感をもって任されたことをやり遂げる強さや勇気、信じることの大切さに着目した作品が多かつた。同年代の主人公の行動を通して自分の生活や考え方を見つめ直したというものも多く見られた。

『うなぎ 一億年の謎を追う』は岡山県出身の塚本勝巳氏が四十年にわたってウナギの産卵場調査に携わり、ついに世界初の天然のウナギの卵を発見するまでを記したノンフィクションである。幼少期の体験から、失敗を繰り返しながらも解明に行き着くまでの研究の様子や面白さ、苦勞を研究者としての想いとともに著している。感想文では、著者が地道な努力を続けたことや決してあきらめない強い意志をもって、面白く楽しく研究しようとするポジティブな姿勢、仮説を立てて証明していくやり方は日常生活でも大切であるという考え方に多くの共感が寄せられた。また、現在の自分の行動や考え方との比較から、これからの生き方の指標としたいと自らを振り返り、前向きに述べているものが多かつた。

●指定読書

今年度、県の審査対象となつた作品は四十五編。『カンボジアの大地に生きて』三十編、『ナックの聲が聞きたくて！ “スーパー・ベルーガ” にことばを教えるイルカ博士』十二編、『石の神』三編である。

応募作品がずいぶんと偏つた印象だが、応募の多かつた『カンボジアの大地に生きて』に関しては、今年が戦後七十年という区切りの年であること、今夏を賑わせた件の安保関連法案のニュース等が多く報道されていたこと、中学校で行われている平和学習からの着想があつたこと等がその理由だろうか。

この作品は、四十年前カンボジアで実際に起きた内戦に翻弄された少女の物語である。フィクション作品ではあるが、その少女の体験という形で、内戦の現実を市民の目線から語っている。平和、正義、家族愛、友情、信念など、この作品から読み取ることのできるテーマは多い。反面、安易な盲目的「平和」信仰の作文になってしまう危険もあり、慎重な読みと深慮が試される作品でもある。感想文では、カンボジアと日本との比較から「平和」を考えているものが大半を占めていた。平和の大切さ、それへ向けての各々の固い決意など、純粋な熱意がよく伝わり、頼もしく感じた。

『ナックの声が聞きたくて』は、「イルカと話すことができるか」という、たった一つの疑問を追い続けた作者と、それに応え続けた一頭のイルカとの二十年を綴った、いわば作者の奮闘記である。この作品も、努力、継続、信頼、夢など、様々なテーマが読み取れる作品である。感想文では、作者の努力というテーマを軸に自身を振り返るというパターンが多かったように感じた。より多角的な読みがなされていた作品も多く、読み応えがあった。

『石の神』は、石工を目指す象徴的な二人の主人公が、対立や協調、認め合い等を通して成長する様子を描いた物語である。才能と努力、向上心、劣等感や猜疑心、優越感など、簡潔な人間関係が、比喩的で分かりやすい幾つかのアイロニーを提示するという構造である。読みやすい文体で、大勢の生徒に読まれたであろうと想像するが、感想文の出品が極端に少なかったのは残念であった。しかし審査対象となった作品は、そのすべての作品が異なる切り口で書かれており、いずれも個性的で、今後の活躍が期待されるものであった。

指定図書に選ばれた三冊はいずれも明確で読み取りやすいテーマが存在し、だからこそ、ともすればその説明に終始するだけの感想文になってしまいがちなものであったように感じた。しかし、出品作はどれも様々な視点から説得力のある論理展開を提示しており、深い考えや明快な解説などと共に「今後を期待させてくれる」作品が多かったという印象を受けた。反面、極端な文字数の不足が相当数見られたことは残念であった。また、字数を増やすために後半が蛇足になってしまっているものもあったように感じた。難しいことだが、安易な「当たり前」の論理に終始することなく、目から鱗が落ちるような論理展開と、それを一気に読ませる筆力を期待したい。

皆さんにはどうか、これからも多くの良書を読み、そ

の読書感想文を書くことで、様々な「考え方」や「言葉」と出会って欲しい。そのような読書や推敲を重ねることで、皆さんは一回りも二回りも成長するはずである。来年、そんな皆さんの感想文を読むことが今から楽しみである。

高等学校の部

●自由読書

自由読書の部には、県審査へ四十一校から二百八十編の応募があった。学校数・応募数ともに昨年よりも減少した。課題読書への応募が増えたことが影響しているだろうか。日々の課題や指導でお忙しいだろうが、作文力や国語力の向上のためにぜひ取り組んでもらいたい。

今年の審査では、戦後七十年ということで例年になく戦争を意識した感想文が多く寄せられた。『永遠の0』『野火』『日本のいちばん長い日』『ヒロシマ』『原爆供養塔 忘れられた遺骨の七十年』『翼に息吹を』『岡山空襲六十二年目の証言』『日の丸は赤い泪に』。感想文で取り上げられた題名を挙げるだけでも様々な戦争に関する本が今年読まれたことがわかる。ただ七十年が経ち、現在の高校生には祖父母でさえ戦争当時は幼くて記憶がないという状況にあり、実際に肉親から語り伝えられることはなくなりつつあるようだ。今後、映像や書籍によって間接的に伝えていくしかなくなってゆくだろうことを改めて考えさせられた。

また、今年直木賞を受賞して話題となった『火花』、映画化もされた『学年ピリのギャルが……（通称「ピリギャル」）』などを取り上げた感想文も目立った。さらに「岡山県」だからであろう、地元大学の学長も務めた渡辺和子さんの『置かれた場所で咲きなさい』と、その半生が映画化された岡山盲学校元教頭の竹内昌彦さんの『見えないから見えたもの』を読んだ感想文も少なからず見られた。

内容的に言うと、近年、本に寄り添っていない感想文が目につく。自分の体験談や自己主張がほとんどで、読んだ本の内容がほとんど出てこないような感想文である。かといって本の紹介ばかりで、それが自分にフィードバックされていないものも評価できない。そのあたりのバランスをうまくとり、「本紹介」でも「体験作文」でもなく、あくまで「読書感想文」というスタンスを持ってもらいたい。

例年書いていることだが、繰り返し記しておく。最優

秀・優秀作品は、全国審査に送ったり感想文集に掲載したりするため、どんなに内容が良くても原稿用紙五枚に三・四行足りないだけで、最優秀・優秀候補にはのぼらない点数となる。まして四枚半を下回る感想文は内容に関係なく低い評価となる。十編近く応募される学校は、分量の少ない作品は校内表彰にとどめてもらいたい。また漢字指導の一環として、応募前に最低限の誤字・脱字の指導はしておいてもらいたい。

さて、本年度の最優秀に選ばれたのは赤木里帆さんの「『とどきますか、とどきません。』でも、」である。理想と現実との選択に迷う主人公の心にしっかり寄り添い、そこからこれまでの自分自身をも省みるという、小説の感想文として典型ではあるが、言葉の選択が上手で、一読するだけで思いがすっと伝わってくる、文章に魅力を持っていることが高く評価された。

優秀作品の松永ことのさんの「『わかりあえないことから』を読んで」は、筆者の考えをきちんと理解し、そこから自分の中に気づきをもたらされている点が、ノンフィクションの感想文として優れているとともに、文章が巧みで強い力を感じた。青山笑里さんの「いざ生きめやも。『風立ちぬ』を読んで」は、作品のテーマである生と死、そして愛を高校生らしい感性で読み取れている。また作品の透き通った美しさに似つかわしい文体もよかった。薬師寺美聖さんの「『地獄変』を読んで」は、元になった古典作品との読み比べから主人公良秀の魅力という独自の視点を持ち出したところが優れていた。力強い語り口にも引き込まれるものがある。南友佳子さんの「『いのちより大切なもの』を読んで」に引用された言葉の深さを見れば、「内容の良い本を選ぶこと」がいかに大切かわかるだろう。ただしこの感想文が優れているのは、その深い思いを自分の中にしっかり消化させている点である。森本瑞季さんの「『まゆみのマーチ』を読んで」は、本のテーマと自分の体験とがぴったりとシンクロしており、読むだけで心が温まるような感想文となっていた。木村早紀さんの「『中空構造日本の深層』を読んで」は、筆者の意見と自分の考えを混同せず、きちんと分けて書いている。また関連して読んだ文献やネットで見つけた先人の言葉などを自分の考えの傍証として提示するなどは見習うべき感想文である。若林恵里奈さんの「『永遠の0』を読んで」は、まず作品のポイントとなる部分をしっかり押さえて作品によく向き合っている。そして今を生きる私たちが思いを継承し語り継ぐ

必要性を力強く主張しており、戦後七十年にふさわしい内容であった。榎村百音さんの「私に届いたことづて—『ことづて屋』を読んで—」であるが、「死」を取り扱った作品の場合、身近に死を感じた体験の有無が大きいのと思う。後半の文章に見られる、その体験を経たからこそその実感がこの感想文に強い力を与えている。

●課題読書

S L Aが最近一年以内に発行された新しい本から選んだ三作品の課題図書を読んで書くもので、自由読書とは別に審査される。今年はマララさん人気で応募が多く、二十七校から九十四編の応募があった。（昨年は、二十二校から六十七編の応募であった。）

応募作品の内訳は、『マララ～教育のために立ち上がり、世界を変えた少女～』が五十九編と最も多く、次が『希望の海へ』が二十一編、『ペンギンが教えてくれた物理のはなし』が最も少なく十四編の応募であった。予想はしていたが、マララさんの人気は非常に高く、この度ドキュメンタリー映画も映画館で上映されるらしい。

必然的に入賞者も『マララ～』を読んだものが多く、本年の最優秀に輝いたのは、井上愛梨さんの作品である。居間のテレビで家族と見たマララさんのニュースから始めて、当時何も知らなかった自分達には、知る責任があると続ける。感想文の題とした「教育という名の翼」を育てて、広い世界を飛びまわりたいと結ぶ。「教育は人の翼」とはけだし名言である。

優秀賞四編中三編までは『マララ～』を読んだものである。徳田詩さんの作品は、「一冊の本が世界を変える」というマララさんの言葉に、平手打ちされたような衝撃を受けたところから始まる。マララさんのように人々に訴えかける言葉を持ちたいと願い、国際弁護士という夢に向けて走り出したと記す。まさに一冊の本が彼女を変えたことが描かれている。

同じく『マララ～』を読んだ三宅さくらさんの作品は、「教育を第一に」という言葉をキーワードに書かれている。以前読んだ魯迅の『藤野先生』や、女性が軽視されていた古い日本に思いを馳せたり、祖母の戦時中の話を聞いたりした経験も織り込んだ奥の深い感想文である。

時枝菜々子さんの作品は、何かを語りかけるような本の表紙のマララさんの強いまなざしから書き起こし、「小さな私にできること」は何があるかを考えていく。知ることの喜びや本の効用に気づき、小さな思いやりを持つことで、それが広がっていつか世界の平和を実現できる

と信じたポジティブな感想文である。

唯一『ペンギンが教えてくれた物理のはなし』で優秀賞を獲得したのは立川真悠子さんの作品である。物理学と生態学という一見真逆の学問を結びつけて「ペンギン物理学」を生み出した筆者のように、自分も既成の枠に縛られずに、理系や文系の枠を飛び越えて、広い観点をもちたいと記す。本に触発されて新たな考えを持ち得た様子が描かれている。

私事になるが、この度本読書感想文コンクールの審査員を長年務めたということで表彰状を戴いた。長く続けたというだけで大したことをしたつもりはないが、好きな仕事をして表彰までして戴けたのは、光栄の至りである。マラサさん風に述べれば、「ひとりの書き手、ひとりの読み手、一編の感想文が人生を変えるのです。」というところだろうか。今年は戦後七十年の節目の年で、多くの感想文にその文言と、あと「負の連鎖」という言葉が非常に多く使われていた。戦後七十年を迎え、負の連鎖に陥らない平和な日本になることを心の底から願っている。

自由読書の審査概評

岡山県倉敷市立倉敷翔南高等学校教諭 若狭 真司
課題読書の審査概評

岡山県立玉野光南高等学校教諭 神崎 良造

優秀作品（全国学校図書館協議会長賞）

「とどきますか、とどきません。」でも、

岡山県立岡山朝日高等学校

一年 赤木里帆

「とどきますか、とどきません。」

人は皆、光かがやく手に入らないものばかりに手を伸ばそうとする。そんな欲張りな人間の性について、主人公ヨシカは冒頭で独り言のように語っている。彼女はどこか投げやりで頭の中のことをためらいなく勢い良く真っすぐに言葉にしていた。私には彼女の言葉が読んでいてとても心地良かった。流れの速い冷たい川の水に足を洗われている感覚に似ている。彼女は私がずっと言いたくて言えなかったことを代弁してくれた。がむしやりに頑張り、欲しいものを手に入れ、それが叶えばさらに良いものを求めて遠くに手を伸ばす。確かに人が生きていく上で重要なことである。私もそれが正しいと信じていた。上を目指すことは良いことで、向上心ある人間が立派であると。私は幼い頃から負けず嫌いだ。だから、勝負に勝つことや良い成績をとることに努力は惜しまず生きてきたつもりだ。しかし、最近そうやって毎日過ごしている自分にどこか疑問を感じるようになった。いや感じるようになったのではない。そういう自分は心の中にいた。他人からは見えないが、自分からはちらちらと見えてしまうような不安定な場所に弱い自分は居座っていた。今まで知らぬふりをしてきたことが無視できなくなってきたのだ。それを意識してしまったとたん心のバランスがくずれていくのをはつきりと感じた。高校生になり、進路について考える時間が増え、自分の将来を考えれば考えるほど自分が分からなくなっていく気がした。自分は結局どこまで上を目指すのか。どうなれば自分は幸せなのか、自分の心がこんなにも制御できず、理解し難いものだったとは知らなかった。そんなどうしようもない自分が、会社のトイレで頭を抱えて泣いているヨシカに重なって、私はページをめくる手が止められなくなった。

ヨシカは中学時代から片思いしている男性をイチ彼、同じ会社で自分に告白してきた男性をニ彼と名付け、二人の間で揺れ動いている。イチ彼はヨシカの最愛の人でありながら全く添いとげられそうになく、一方でニ彼はヨシカが彼を全く愛していないにもかかわらず、将来結婚する可能性さえある。イチ彼とニ彼はどこまでも対照

的に描かれており、それは生きていく上での理想と現実の関係そのものである。今までの私がヨシカになったら、とどかないイチ彼を追い続けたら。物語の最後には二彼を選ぶヨシカが理解できず、不完全燃焼で本を閉じたに違いない。しかし、今の私には理想と現実で揺れるヨシカの気持ちが痛いほどよく分かった。

ヨシカはインターネットで絶滅した動物について調べたことを趣味としていて、物語の中で絶滅した動物と自分を重ねている場面がある。

「好きになった人と結婚したいと思いつめるあまり、とんとん年を取って生殖の機会を逃そうとしている。私もドードーと同じく、滅びゆく種なのだろうか。」

私はこの考え方に妙に納得してしまった。理想を追い続ければ、どこかで現実の歯車と噛み合わなくなる。人である以上、生きている間は常に欲しがらるべきかもしれないが、それだけでは人間として社会の中では生きてはゆけない。私はこの本を読みながら、理想を追い続けることと現実に向きあうことのどちらが重要であるのかを問われているように感じた。

ヨシカは苦しみながらも答えを出した。物語の最後にヨシカは二彼を呼び出し、今までの自分の嘘や不満や苦しみを全てぶちまける。それに対し、二彼もヨシカに怒りをぶつけ、彼女を非難した。ヨシカが出した答えとは、二彼に自分の思いをきちんと伝え、二彼の本当の思いを知ることだったのだ。それはすなわち現実と真正面から向きあい、ぶつかることである。その結果、二彼はそれでもヨシカが好きだと言った。最後のページでヨシカが二彼のことを初めて「霧島くん」と名前と呼んだことが私を救われた気持ちにしてくれた。ヨシカは自分の居場所を見つけ、一歩踏み出すことが出来たのだ。

二彼を選んだヨシカが理想を追うことをあきらめた現実主義者だとは私は思わない。彼女は現実の中に理想を見出だそうとしたのだと思う。今まで、私は現実を目を背けながら、ひたすらに理想を求めて上を見上げていた。だから、苦しかった。私に向き合うべき現実例えば、テストで間違えた問題や、悔しい部活の試合記録。そういう弱い自分や負けた自分を光かがやく強さや勝利に近づけるのは、他の誰でもない自分自身の努力や葛藤でしかないのだとヨシカが教えてくれた。私はやはり理想を追うことをあきらめたくない。そう気づくことが出来たのもこの本のおかげだと思う。——とどきますか、とどきません。でも、私はこのどうしようもない現実を私の

力できっと、光かがやくものにしてみせる。
綿矢りさ『勝手にふるえてろ』（文藝春秋）

第27回読書感想画岡山県コンクール

I 日 程

- 6月11日(木) 応募要項配布
第1回支部事務局長会議席上
- 1月7日(木) 応募締め切り(必着)
応募先・事務局
*小学校…岡山市立大野小学校
上岡 弘明
*中学校…倉敷市立北中学校
渡邊 稔子
*高校…岡山県立玉島高等学校
尾崎 寛子
- 1月14日(木) 小学校の部審査(岡山市立大野小学校)
中学校の部審査(倉敷市立北中学校)
高等学校の部審査
(岡山県立玉島高等学校)

- // 河本 昭政 岡山県立岡山朝日高等学校
// 高取 亨一 岡山県立瀬戸高等学校
// 丸山 卓朗 岡山県立総社南高等学校
// 藤森 紀子 岡山県立高松農業高等学校

III 結果

1) 応募作品数・応募学校数

区 分	平成25年度	平成26年度	平成27年度
小 学 校	1,532点/35校	1,019点/30校	1,461点/28校
中 学 校	106点/13校	92点/12校	92点/13校
高等学校	72点/9校	32点/7校	108点/7校
計	1,710点/57校	1,143点/49校	1,661点/48校

II 県審査員

- 県SLA会長 藤井 健平 岡山県立総社高等学校校長
副会長 大塚 仁 岡山市立甲浦小学校長
// 藤井 隆 岡山市立上道中学校長
審査委員 田中 満史 岡山市立福浜小学校
// 佐藤 泰之 岡山市立七区小学校
// 木下 舞 岡山市立浦安小学校
// 矢尾 理佳 岡山市立西小学校
// 石井 千晴 岡山市立牧石小学校
// 難波 学 岡山市立平福小学校
// 中野 博充 岡山市立彦崎小学校
// 田村 敬子 岡山市立豊小学校
// 大倉 佳子 岡山市立浦安小学校
// 八田 八壽子 岡山市立旭操小学校
// 難波 伊津美 岡山市立旭竜小学校
// 清廣 玲子 岡山市立鹿田小学校
// 稲田 智恵 岡山市立岡山中央中学校
// 岡田 恵利子 岡山市立御南中学校
// 江口 玲 倉敷市立南中学校
// 川井 益美 倉敷市立多津美中学校
// 眞賀 芳郎 岡山市立瀬戸中学校
// 川阪 理智 岡山市立桑田中学校
// 藤井 雅美 倉敷市立東中学校
// 藤井 弓子 倉敷市立北中学校
// 澁谷 奈津子 岡山市立高松中学校

2) 最優秀賞受賞者

小学校低学年の部・自由

- 瀬戸内市立美和小学校 2年 國枝 純正
倉敷市立万寿東小学校 2年 貝原 悠月

小学校低学年の部・指定

- 倉敷市立中庄小学校 3年 井出 俱輝
岡山市立第一藤田小学校 1年 蓮池 陸玖斗

小学校高学年の部・自由

- 瀬戸内市立邑久小学校 6年 石崎 香帆
岡山市立福田小学校 6年 粕山 寛斗

小学校高学年の部・指定

- 岡山市立陵南小学校 6年 稲田 知陽
倉敷市立万寿東小学校 4年 八幡 和寛

中学校の部・自由

- 倉敷市立庄中学校 2年 藤原 なつ美
倉敷市立北中学校 1年 岡本 久瑠美

中学校の部・指定

- 倉敷市立庄中学校 2年 岸野 友美
岡山市立旭東中学校 2年 三宅 爽葉

高等学校の部・自由

- 岡山県立総社南高等学校 2年 守屋 美穂
岡山県立笠岡高等学校 2年 福尾 明香里

高等学校の部・指定

- 岡山県立岡山朝日高等学校 1年 川上 美来

IV 審査の結果

【小学校の部】

岡山市立大野小学校 上岡 弘明

○ 審査事務の流れ

第27回読書感想画岡山県コンクールへの応募校は28校と前年度より2校減りましたが、学校規模の関係で応募作品総数は450点ほど増えました。その中から、応募要項にもとづいて各校の校内審査を経た作品125点(18点増)が県コンクールに出品されました。

審査会は、1月14日(木)に岡山市立大野小学校で行いました。図画工作・国語等に造詣の深い12名の先生方が集まり、厳正かつ慎重に審査をしていただきました。審査委員の先生方には、3学期はじめのお忙しい中、快くご協力くださり本当にありがとうございました。

○ 審査概評・今後の課題等

- ・読書を通して興味を持ったり感動したりしたことをもとに、思いを広げながら工夫して絵に表現することは、子どもが想像力や創造力、自らの感性を働かせながら造形表現する学びの原動力となり、また読書に一層親しむきっかけづくりとしても、素敵な体験である。入賞した感想画は、子どもたちが本の世界に入り込み、物語をそれぞれの感性で自分なりに解釈して表現している作品ばかりで、審査していてとても楽しかった。
- ・同じ本を読んでも、一人ひとりの生活経験や心に残った場面、文章描写を読み取りながらふくらませた人物・事物等の形や色、構図や表し方の違いで、全く異なる絵として表現されていておもしろかった。その点、審査会で書籍と照らし合わせて見て本の挿絵や表紙絵と酷似しているものや、経験豊かな審査員たちが協議して明らかに大人の手が入っているのではと判断される表現は、たとえ絵として描き込まれていても、「独創的で個性的な表現であるか」「自分の力量で描いているか」といった審査基準に照らして選外とせざるを得ず、残念であった。表現する前に応募の決まりや趣旨をきちんと指導しておかないと、子どもがかわいそうだと思う。
- ・子どもの想像力の豊かさに驚かされた。構図を工夫した作品、色彩豊かな作品、細部まで大切に丁寧な描いた作品など、一点一点をじっくり見たり、裏返して子どものつけた題や「作画感想」から子どもの思いや感動を読み取ったりしながら丁寧に選んでいった。授業作品であれば、「どのように声かけをして指導したのだろうか」「子どものイメージをどのようにふくらませていったのだろうか」と想像したり他の審査員と話し合ったりしながら審査することができ、よ

い刺激と研修になった。本を読んだ後に、誰かと話し合ったり、心に残った場面や言葉を記してみたりする活動を取り入れるなどすれば、読書感想画自体も一層豊かになるかもしれない。

- ・入賞作品をふり返ると、高学年では、構図や色づかいを工夫して、表したい思いに合った表現をしようと努力している姿が思い浮かぶような見応えのある作品が多かった。低学年では、本を読み、自分もお話の中に入り込んで登場人物と楽しく過ごしている様子を描いた絵が多く、ほほえましく感じた。これらの作品では、「作画感想」からも子どもらしい素直な驚きや喜びが伝わってきて、その気持ちをのびのびと、あるいはじっくりと表現できていた。
- ・今回も、審査にあたっては、発達段階を考慮しながら、物語の内容とともに子どもの思い(感動)が伝わってくるような構図や登場人物の動き・表情などを工夫している作品を選定するように努めた。子どもの思いや意図を酌み取るためには、作品裏の「作画感想」を参考にしたが、絵はよく描けていても感想が表現とずれていたり内容が乏しかったりするものもあり、残念だった。応募にあたって、「作画感想」に読書の感動とともに、それをどのように絵に表現したのかを、学年に応じて記述するようにご指導いただけるとありがたい。ただし、読書感想文はあまり得意でなくても、絵に表すことは生き生きと取り組めるという子どももおり、そういった子どもたちにとって、このコンクールが読書の喜びと自己表現を広げていくきっかけになることを願っているので、「作画感想」が負担となりすぎないように配慮もしていただきながらではあるが。
- ・本を選び、読み込んで、その思いを絵と文に表現するというとてもレベルの高い、また、本によっても表現過程や取り組み時間などに個人差の出やすいコンクールなので、授業ではなかなか取り組みにくく、応募校の広がりや厳しさが現状である。各地区の学校図書館協議会や小教研図書館部会・司書部会などの集まりや研修会において、冒頭に記述した本コンクールの趣旨やよさを一層啓発したり、「指定図書」の応募作品をさらに増やすためには司書の先生と連携して指定図書の紹介や読み聞かせをしていただくこと等も提案したりしながら、本コンクールへの取組の広がりや必要性を再認識している。関係者の皆様のさらなるご配慮やご尽力をと改めてお願いする次第である。

【中学校の部】

倉敷市立北中学校 渡辺 稔子

○ 審査事務の流れ

募集要項に基づいて、各校で応募作品を募り、校内審査を経た作品がコンクールに出品されました。今年度は、参加学校数13校、全応募作品数92点、県コンクールへの出品数は68点でした。今年度は、昨年度と比べ若干ではありますが、参加校数・出品数ともに増加しました。3年生の出品はありませんでしたが、その分1、2年生が意欲的に取り組んだ結果だと思えます。これも各中学校の先生方が、授業や部活動の年間活動計画に読書感想画を取り入れ、地道に作品作りに努めてくださったおかげと感謝しております。来年度も一人でも多くの生徒に作品作りに挑戦してほしいと思います。

審査会は、1月14日(木)午後2時から倉敷市立北中学校で行いました。県内の国語科・美術科担当の先生方9名にお願いし、厳正な審査の結果、最優秀作品4点を中央コンクールへ出品しました。審査を担当してくださった先生方、大変お世話になりました。ありがとうございました。

○ 審査概評・今後の課題等

- ・全体的に作品の質が上がってきているように感じた。コラージュや色鉛筆、アクリルなど使用する画材や表現方法も多様で見応えのある作品が多かった。
- ・今流行の画風の作品が多かったが、やはりオーソドックスな絵画表現の方が感想画にはあっているように感じた。
- ・昨年よりもライトノベルからの作品がずっと減っていたのは良かった。
- ・同一の本で全く違う作品になっているものもあり、生徒の捉え方に独自性がみられ、興味深かった。
- ・自由部門については様々なジャンルのものがあり、作品自体も見応えがあった。一方で、本の挿絵に沿った作品などオリジナリティの部分で課題が感じられるものもあった。自分のイメージを自分の表現で表していく作品がもっと増えることを期待している。
- ・図書の選定は、絵の内容に深みが出るように、優良図書を選ぶようにレファレンスできたらよいのではないか。
- ・裏面の感想は、字数が限られているだけに絵を描くに至ったポイントや工夫点を具体的に書けるとよい。
- ・最優秀に選ばれた作品は、いずれも選んだ図書を丁寧に読んで感想をまとめていた。
- ・構図・構成もよく考えられ、何度も色を塗り重ねてじっくりと時間をかけて仕上げられている。1枚の絵としても楽しんでみることができる。
- ・自由部門の『鏡に写る私』では思春期の少女の心情を髪の毛や化粧道具、アクセサリを細かく描き込むことで表現している点が素晴らしかった。
- ・同じく『7日間の不思議な物語』では、ポップな絵柄を生かして躍動感のある絵画を完成させた。

・指定部門の『日本のために』では、後世に大きな影響を与えた万次郎の生き様を象徴的に描き、力強さを感じさせた。

・同じく『僕達の青春』では、ほのかな異性への憧れを繊細なタッチで丁寧に描くことができていた。

◇ 参加校数・出品数ともに昨年度より若干でも増えたのは、明るい兆しである。ただ、特定の学校に限られている状況は変わらないので、今後も本コンクールの知名度を上げていく方を考える必要がある。また、今回は3年生の参加が全くなく、進路選択の時期と作品募集が重なる点が大きく影響しているものと思われる。毎年問題となっているが、応募内容や締切をできるだけ早く生徒に告知したり、国語や美術の授業内で優秀な作品を披露し、関心を高めたりするなどの工夫が必要であろう。

◇ 今年度も審査を行う過程で、国語科・美術科の両方の視点を知ることができ、貴重な研修の機会にもなった。また、審査員一人一人が、じっくり作品を見て、どの作品がよいかということの一つ一つ言葉で表現し、意見交換することができ、納得のいく審査を行うことができた。

今年度、コンクールに応募・参加してくださった多くの学校の先生方にお礼申し上げます。来年度も、更に多くの学校でこのコンクールに取り組んでいただけるよう、よろしく願いいたします。

【高等学校の部】

岡山県立玉島高等学校 尾崎 寛子

○審査事務の流れ

読書感想画岡山県コンクールは、2004年度から小学校・中学校・高等学校の部に分かれて事務局を置き、県SLA事務局と連携して審査事務を行っている。

本年度は支部事務局長会議で岡山県コンクールの募集要項を配布し、支部内の各校への要項配布と説明を支部事務局に依頼した。9月末には中央コンクールの募集要項が配布され、指定図書が発表された。『万次郎：地球を初めてめぐった日本人』（岡崎ひでたか・作、篠崎三朗・絵）、『ファイト！木津西高校生徒会』（本田有明・著）、『リフカの旅』（カレン・ヘス・作、伊藤比呂美/西更・訳）、『？（疑問符）が！（感嘆符）に変わる時：新聞記者、ワクワクする』（小国綾子・著）、『渋谷ギャル店員 ひとりではじめたアフリカボランティア』（栗山さやか・著）の5冊が今年度の中学校・高等学校の部の指定図書であった。

1月7日(木)に締め切られた県コンクールへの応募数は以下の通りである。

県コンクール応募総数

応募校数	自由読書	指定読書	作品合計
7校	32点	1点	33点

岡山県コンクール審査会は、1月14日（木）岡山県立玉島高等学校の図書室で行われた。国語・美術の担当教諭で、特に学校図書館に造詣の深い4名（備前支部2名、備中支部2名）に審査をお願いした。

事務局から応募点数・審査基準などの説明・確認をした後、指定読書・自由読書の順に審査を行った。応募作品の対象図書を手元に用意し、作品と参照しながら対象図書の表紙や挿絵の引き写しなどがなく、対象図書が「募集要項」に適合しているかなどを確認した。自由読書の応募作品の中で、映画やTVドラマになって映像が流布している図書を対象にしたものについても、映画ポスターや広告の画像・インターネットで手に入る画像を可能な限り入手して厳正かつ慎重に審査を行った。

その結果、自由読書2点、指定読書1点、計3点の最優秀作品を決定し、中央コンクールに出品することができた。

入賞作品数

	自由読書	指定読書
最優秀	2点	1点
優秀	3点	0点
入選	11点	0点

○審査概評・今後の課題

審査の先生方から以下の講評をいただいた。

- ・作品数が増加したのは大変喜ばしい。全体的にレベルも向上している。ちぎり絵風、ステンドグラス風、アクリル水彩、色鉛筆など、技法や画材も多彩で工夫や意欲が感じられた。心豊かな表現が多く、楽しんで審査が出来た。
- ・最優秀、優秀、入選に選ばれた作品は、心の込め方、時間のかけ方において丁寧な取り組みがうかがえた。例年以上に優れた作品がそろっていた。
- ・感想画は、ただの写実でもデザインでもなく、本から読み取ったイメージを描くという自由な取り組みができるという点で面白いジャンルである。多くの生徒に取り組んで欲しい。
- ・本を読んで心に湧いてきたイメージをふくらませて上手に一生懸命表現している。
- ・本の選択については、映像化されている本は、映像のイメージを引きずってしまい、自分なりの絵にするのが難しいと思われる。本年度、指定図書での応募が少なかったが、募集要項が9月に発表されるので、夏休みの取り組みが難しいことも影響があるのかもしれない。
- ・応募校がもう少し増えてほしい。中央コンクールや県コンクールで選ばれた作品を県内の各校に紹介して、先輩の作品をモデルとして取りかかれるようにする

ことも広報活動としてやってみてはどうだろうか。



自由読書の部 最優秀作品『光が差して』



指定読書の部 最優秀作品『ひらめき』

絵 本 研 究 部 会

1. 平成 27 年度の活動状況

本年度は 22 年度から続けている「心をつなぐ絵本」というテーマで特に「昔話絵本」を中心に研究を進めました。

研究部会では新刊絵本を中心に幼稚園から高等学校までの実践報告を持ち寄り、報告し合いました。

また、1つのお話に対する昔話絵本の読み比べを行い、昔話の魅力について考え、話し合いました。

紹介文研究も引き続き進めており、毎年発行している「読み聞かせたい絵本」は No32 を発行・配布しました。

2. 研究部会絵本研究部会設置要綱

(1) 設置について

岡山県学校図書館協議会規約第 4 条 2 項により、絵本研究部会を設置する。

(2) 目的

この部会は、絵本の指導のあり方を研究し、児童・生徒・父母の読書活動を促進する。

(3) 活動

① 毎月に開く部会で、研究する内容

- ア. 絵本の見せ方・選び方
- イ. 絵本の読ませ方・読み聞かせのあり方
- ウ. 絵本作りのあり方
- エ. その他 絵本研究のための必要な活動

② 研究成果の発表

- ア. 各郡市地区事務局を通じての内容紹介
- イ. 研究収録への収録
- ウ. 研究大会での発表
- エ. その他 絵本実践を推進するための発表

(4) 構成

① (部員の委嘱)

部員は、地区組織を通して募集し、会長が委嘱する。

② (部員数)

部員の人数は約 10 名とし、幼稚園・小学校・中学校・高等学校の教諭・司書を含める。

3. 平成 27 年度絵本研究部会委員

(敬称略 順不同)

部会長	大塚 仁	岡山市立甲浦小学校校長
事務局長	小川 薫	岡山市立芳田小学校教諭
研究員	六車 美加	岡山大学教育学部附属幼稚園教諭
〃	篠 崇敏	岡山市立吉備西幼稚園教諭
〃	高橋 靖子	岡山市立富山幼稚園教諭
〃	多田 馨	岡山市立御野小学校教諭
〃	枝松 尚美	岡山市立幡多小学校教諭
〃	難波 真	倉敷市立庄中学校教諭
〃	遠藤 裕美	倉敷市立南中学校教諭
〃	山本 泉	岡山市立後楽館高等学校教諭
〃	高槻 美保	岡山県立総社南高等学校教諭
〃	岡部 香	岡山県立倉敷商業高等学校

4. 今後の取り組み

来年度も「昔話絵本」を中心に研究していく予定です。

平成 29 年度に開催される県大会に向けた 1 年として、「わたしたちのおすすめの昔話ベスト 10」というテーマの元実践を重ねていきます。子どもたちがよりよい絵本と出会えるよう、得られた情報をより多くの教育現場で実践にかけていただくために、紹介文研究も引き続き進めていきます。

岡山県学校図書館協議会絵本研究部会

岡山県学校図書館協議会絵本研究部会では、「心をつなぐ絵本」という研究テーマのもと「昔話絵本」を中心に研究と実践を続けてきました。研究を通して確認された絵本と新しく出会った絵本の中から、読み聞かせたい絵本をお知らせします。

書名	著者	出版者	林齢	出版年	実践学年
----	----	-----	----	-----	------

かえるの竹取ものがたり

俵万智 文	福音館書店	¥1,800	2014	中～高
斎藤隆夫 絵				

日本最古の物語が美しい絵本になりました。お琴を弾く表紙のかぐや姫はなぜか「かえる」。おじいさんもおばあさんも、お供の人も、皆「かえる」として登場します。ストーリーも忠実で、最初から最後まで物語としても楽しめます。細部にまでこだわって描かれた着物や建物、調度品も必見です。

いしやがよい

さくらせかい 作	福音館書店	¥800	2015	幼～高
----------	-------	------	------	-----

迷子のパンダを見つけたエンさんが、ファンファンと名付けて育てます。体の弱いファンファンを自転車に乗せ、大きな山を二つも越えて医者通いをするエンさん。大きく元気に育つと今度は年老いたエンさんをファンファンが自転車に乗せて医者通い。リズムのある言葉と中国風でやさしいタッチの絵が相まって、心温まるお話です。

りゅうがあります

ヨシタケシンスケ 作・絵	PHP研究所	¥1,300	2015	幼～小高
--------------	--------	--------	------	------

子ども達がついやってしまうくせ。それには「りゅう」があるんです。鼻をほじるのも、ストローを噛んでしまうのも、こんな「りゅう」からなんだ！大人と熱く言い合う子どもユニークな「りゅう」に思わずなるほど、とうなずいてしまうかも……。奇想天外でクスッと笑える絵本です。

わりばしワーリーもういいよ

シゲタサヤカ 作・絵

鈴木出版 ¥1,200 2013 幼～中

ワーリーはラーメン屋さんの割り箸です。やる気満々のワーリーは早くお客さんに使ってもらいたいのに、なかなか使ってもらえません。そこでワーリーは、「もういいよ！！」と店を出て行ってしまいます。はたしてワーリーの願いは叶うのでしょうか？突然のオチも楽しめます。

ふたごのゴリラ

ふしはらのじこ 文・絵

福音館書店 ¥1,500 2015 幼～小中

マパとパサは、ふたごのゴリラ。ある日、二人は迷子になります。木の上に寝床を作り、真っ暗な一夜を過ごし……。朝になって現れたお父さんが、大変印象的です。物語はフィクションですが、ゴリラの世界に本当に起こりうる事が描かれていて、アフリカの風、光を体感できます。

いちにちぶんぼうぐ

ふくべあきひろ 作

PHP研究所 ¥1,200 2010

かわしまななえ 絵

小低～中

「ぶんぼうぐって、かしこそうだな。よし、いちにちぶんぼうぐになってみよう。いちにちクリップ！ギツギツはさみすぎ～！クリップってがんばってるなあ……。」ホッチキス、鉛筆削り、メジャー……。さて、あなたなら何になる？想像が広がるユーモア絵本です。

かもめたくはいびん

いしいひろし 作

白泉社 ¥1,200 2015 幼～中

潮風のおいがする、ある港町に、「かもめたくはいびん」がありました。ある日、送られてきた写真の中からペンギンを雇うことにしました。ところが、ペンギンがこわくてお客さんが入ってこられません。ペンギンにぴったりの仕事はあるのでしょうか。ほのぼのとしたあたたかいお話です。

ぶららんこ

鈴木のりたけ 作・絵 PHP研究所 ¥1,000 2015 幼～中

公園にあった「ぶららんこ」。乗ってみると、あら、不思議、たくさんのお友達がやってきました。それは、なんと、元気いっぱいのお友達さんたちです。一緒に楽しく遊んでいると、どんどんいろんなところに行ってしまいました。みんなもお友達さんと「ぶららんこ」の冒険にでかけましょう。

ねえ、どれがいい？

ジョン・バーニンガム作 評論社 ¥1,500 2010 幼～中
まつかわまゆみ訳

「ねえ、どれがいい？」と聞きながら、つぎつぎ出されるのはどれもとんでもない選択ばかり。どれかを選ばないと、絵本を読み進められません。さあ、どれを選ぼうかな。最後まで楽しさが溢れている絵本です。

三びきのこぶた

瀬田貞二 訳 福音館書店 ¥800 1967 幼～小中
山田三郎 画

1・2番目の子ぶたは食べられますが、3番目の子ぶたは知恵比べの末、狼を食べて幸せに暮らします。この世の中には怖いこともあるのだということや、強いものには知恵を使って立ち向かうことなど、昔話が本来持つ大切な要素が語られています。リアルな子ぶたの絵は愛嬌たっぷりです。子ども達も大好きです。

つるにようぼう

矢川澄子 再話 福音館書店 ¥1,200 1979 幼～高
赤羽末吉 絵

この話は、民話「鶴女房」をもとに作られています。若者と鶴との悲しい物語が、洗練された文章と幻想的な絵で表現されています。雪国の重厚な雰囲気とともに静かで情緒あふれる美しい世界に心ひかれます。

おおきいトンとちいさいポン

いわむらかずお 作・絵
偕成社 ¥1,400 1980 幼～小低

背の高い犬のトンと背の低い犬のポンは仲良し二人組。ある日、トンは「背は高い方がいい」と、ポンは「背は低い方がいい」と主張します。野原を散歩中に二人にいろいろなことが起こります。その中で、二人が出した答えは？読み終わると心が温かくなる、ほのぼのとした絵本です。

うそ

中川ひろたか 作 金の星社 ¥1,300 2014
ミロコマチコ 絵 小高～高

「うそはドロボーのはじまりっていわれるけど、うそをついてないひとなんている？」という問いかけから始まるテツガク絵本です。うそをつくのはよくないこと。でも人からよく思われたいとき、悲しませたくないとき、他にもいろいろと人はうそをつくと考えさせられます。ダイナミックな絵も魅力的です。

優良図書研究部会

1 活動内容

当部会では、5月、6月、8月、10月、11月、2月の年6回、県立図書館の御協力において、新刊図書の中から、小学校・中学校の児童・生徒のための「おすすめの本」を選定しています。

研究員は、小学校（低学年・中学年・高学年）と中学校の4グループに分かれ、下記の選定基準に沿って、また、過去の傾向や、価格面、ページ数、字の大きさなど、いろいろと配慮しながら、それぞれのグループで意見交換した上で選定作業（書評の記入等）をすすめています。

ただ、インターネットの利用拡大に伴い、本の現物が少なくなっている現状もあります。そのため、選定月により新刊本の出版数に多い少ないがあり、また、学年によっては、分類が偏る傾向があるなど、年間を見通した選定も必要となります。

長期休業中を利用して、児童・生徒に「こんな本を読んでもたらどうですか」と、お勧めの本も紹介しています。このお勧めの本は、読書感想文のための本とは限らず、各学年に応じて、読んでおいてもらいたいなどという本の最新刊をそれぞれ選定しています。

これは、それまでの各月の選定図書の中から選ばれ、夏休みと冬休み前に、県下の小・中学校に「みなさんにすすめたい本」として、本の書評をつけて、配布しています。（カラー版ではないのが残念ですが・・・）

これらの本は、岡山県青少年保護育成条例に基づく推薦図書の中にも入れられ、「岡山県公報」に載せられて広く紹介されています。

岡山県青少年読書感想文コンクールでは、岡山県独自のものとして、昭和55年から指定図書を設けていますが、ここでも、当部会の選定図書をもとに、毎年3月、岡山県指定図書選定委員会が県立図書館にて開かれ、優良図書として選定された本の中から、小学校低・中・高学年・中学校向けに、3冊ずつを選んでいきます。

この研究部会の活動が、県下の小・中学校の児童・生徒の読書、先生や保護者の方々の読書指導の道標として、今後も、より効果的に機能するように活動していきたいものです。

2 選定基準

1 内容事項

- (1) 教育課程によく合っていて、その内容を豊かにするものであるかどうか。
- (2) 子どもたちが、興味をもって読め、小（低）、小（中）小（高）、中学生の発達段階に合ったものであるかどうか
- (3) 分かりやすく、正確で、現代の進歩に応じてい

るかかどうか。

- イ) 統計は正確で、調査年度、出典が正確であるかどうか。
 - ロ) より新しい知識であり、新研究であるか、新しい方法であるかどうか。
 - ハ) 事実の叙述は、科学的に正確で、実際的であるかどうか。
 - ニ) 引用文、挿し絵、写真、図表などは、正確、鮮明、適切であるかどうか。
 - ホ) 翻訳は原意を伝え、分かりやすく、原著者、年代、原著書が明記されているかどうか。
 - ヘ) 断片的な知識でなく、体系的にまとまりのあるものであるかどうか。
- (4) 主題を単に解説したものはとりあげない。

2 編集・出版事項

- (1) 短編集は採用しない。
- (2) 多くの合さんのものは採用しない。
- (3) 新刊書であること。
- (4) 辞典、事典類は採用しない。
- (5) シリーズ全巻を対象としない。

3 図書群の構成事項

- (1) 特選図書全体を通して、ある分類ばかりに片寄り過ぎない。できるだけ広い分野で考慮する。
 - (1) 小（低）、小（中）、小（高）、中学生向けのバランスを考慮する。

4 装丁・体裁事項

- (1) 製本、外観、大きさが適切で、書誌的体裁が整っているか。
 - (1) 用紙は上質、印刷は鮮明、色彩は美しく、字の大きさ及び行間の余白が適切であるか。

3 優良図書研究会部員

部会長 大塚 仁 岡山市立甲浦小学校校長
部会事務局長 小川 薫 岡山市立芳田小学校教諭

<部会員>

小学校の部

木下 由布子 岡山市立興除小学校教諭
福本 幸恵 岡山市立平島小学校教諭
青江 理愛 岡山市立平島小学校司書
古市 絵美子 岡山市立御野小学校司書
勝浦 由子 岡山市立加茂小学校教諭
東原 真美 岡山県立図書館主事

中学校の部

高島 智恵子 岡山市立上道中学校司書
片岡 史昭 岡山市立福浜中学校教諭
虫明 涼子 倉敷市立水島中学校教諭
稲田 智恵 岡山市立岡山中央中学校教諭

みなさんにすすめたい本

平成27年 7月
 岡山市教育委員会
 岡山県学校図書館協議会

もうすぐ楽しい夏休みがやってきます。新しく発行されたたくさんの本の中から、みなさんにおすすめしたい本を学校図書館協議会の先生方を選んでもらいました。これらの本の中から一冊でも多く読んで、楽しい時間を過ごしてください。

〈おうちのかたがたへ〉

保護者が子どもに本を読むことは、読書に親しむ基礎づくりになります。また、読書をすすめることにより、心が通じ合い、対話がよりいっそうふえることになります。

しょうがっこう ていがくねん む
小学校低学年向き

分類	著者名	書名	発行所	ページ・価格(税込)
E	くすのき しげのり	まんてんべんとう	フレーベル館	32ページ・1404円

あしたは、遠足。お母さんのおべんとうは、いつもぼくのじまんのおべんとう。だけど、お母さんがたかいねつを出してしまった。遠足のおべんとうは、どうなるのでしょうか。なおくんは朝早くに家を出て。つづきは読んでみてください。

F	なりゆき ゆかこ	そうだ、 おてがみ かこう	ポプラ社	79 1080
---	----------	------------------	------	------------

絵をかくのはじょうずだけど、うんどうはにがて。おとなしいあやは、なかなか友だちができず、いじわるをされ、さみしいまい日でした。でも、みんなの前でこくばんに絵をかいた日から、なにかがかわっていきました。

913	宮下 すずか	ゆかいなことば つたえあいましょうがっこう てんのないにつき	くも ん出 版	64 1080
-----	--------	-----------------------------------	---------------	------------

たぬきのツナくんのにつきをよんで、1ねん1くみのシホ先生がたおれてしまった！てん(,)が、ひとつもなかったのよ、よんでいてくるしくなってしまったのです。ツナくんは、つぎこそ気をつけようとしたのですが…

小学校中学年向き

分類	著者名	書名	発行所	ページ・価格（税込）
913	佐藤	コケシちゃん	フレーベル館	151 ページ・1296 円

4年1組に体験入学生の、京ちゃんがやってきました。京ちゃんはスイス生まれのスイス育ち。自分の考えがはっきり言える京ちゃんに内気なわたしはとまどいます。お互いの違いをこえてわたしと京ちゃんは友だちになります。

963	ダニエル ネースケレス	だいじょうぶ カバくん	講談社	63 1404
-----	----------------	----------------	-----	------------

ある日動物園のカバくんは動物園にやってきたロナーナに話かけます。「ここから出してください。」さくから出たカバくんは町に出て「アフリカに行く道を知りませんか。」と人間に話しかけます。町でいろいろな経験をするカバくんですが、その日もどったところは…。

487	大野 平祐	アユは四季を泳ぐ	文芸社	31・1188
-----	-------	----------	-----	---------

アユたちの1年は新春からはじまります。冬から春、夏、秋と河口をさかのぼり、また海にもどってきます。さあ、アユといっしょに川をさかのぼり海にもどってきてもみましょう。

686	堀米 薫	きすなを結ぶ 震災学習列車	佼成出版社	128 1620
-----	------	------------------	-------	-------------

2011年3月11日の東日本大震災で海沿いを走る三陸鉄道は大変な被害を受けました。震災から5ヵ月後には列車運行を再開しました。三陸鉄道の復旧が被災地の復興シンボルになる。震災を風化させないために何ができるのか…。そのために震災学習列車を走らせる。今も懸命に取り組んでいるノンフィクションです。

小学校高学年向き

分類	著者名	書名	発行所	ページ・価格(税込)
E	ジャネット・ ウィンター	マララとイクバル	岩崎書店	38 ページ・1728 円

パキスタンのふたりの子どもマララとイクバルはそれぞれ勇気ある子どもとして知られている。イクバルは児童労働に対し声をあげ、マララは女の子の権利を訴えた。二人の声に耳をすませてみよう。

913	三輪 裕子	鳥海山の空の上から	小峰書店	218・1620
-----	-------	-----------	------	----------

突然、おじいちゃんのふるさとに行くことになった翔汰。そこで出会った、はとこのユリアとともにおじいちゃんの姉のお波さんと過ごした夏休みは忘れられない毎日だった。東京に帰る前、三人で鳥海山のふもと鳥の海に登りにいったのだが…

933	マイケル・ モーパーゴ	誰にも話さなかった 祖父のこと	あすなろ書房	60・ 1512
-----	----------------	--------------------	--------	-------------

祖父は若い頃、戦争で大やけどを負った。わたしは祖父になんで大やけどを負ったか聞きたくてたまらなかった。ある頃祖父は、誰にも話していなかった自分のことを語り始める。戦争によって変えられた家族が再び歩み寄っていきます。

210	瀧井 宏臣	東京大空襲を忘れない	講談社	188・1296
-----	-------	------------	-----	----------

1945年3月10日、アメリカ軍による東京大空襲が行われ、多くの人が命を落としました。当時の子どもたちは何を体験したのか、生存者の証言をもとに描かれています。戦争のおそろしさ、平和の尊さについて考えさせられる作品です。

中学生向き

分類	著者名	書名	発行所	ページ・価格（税込）
913	藤野 恵美	雲をつかむ少女	講談社	207 ページ・1512 円

スマートフォン・インターネット・SNS…。すっかり身近になったそれらは、でも本当に自分たちの生活を豊かにしてくれているの？中学2年生の結衣から始まる物語は 様々な人に連鎖し、様々な答えを導いていきます。あなたが共感できる人物がきつというはず！

913	ひこ・田中	なりたて中学生 初級編	講談社	255・1512
-----	-------	-------------	-----	----------

小学校と中学校。ただでさえ「ギャップ」が意識される進学なのに、引越しのため隣接学区へ進まざるを得なかった成田テツオ。その戸惑いと不安な日々を軽妙なタッチでユーモアたっぷりに描いた作品。どのページを読んでも「ある！ある！！」きつと思えるはずです。

913	栗山 さやか	渋谷ギャル店員 ひとりでは	金の星社	213
		じめた アフリカボランティア		1404

東京で“ギャル”としての生活を満喫していた、さやかさん。彼女がたった一人で世界中を回る旅に出たのは、友人が病気で亡くなったことがきっかけでした。長い旅の末にたどり着いた「モザンビーク」という国はとても治安が悪い場所でしたが、彼女はあえてそこに留まることを決め、女性や子どもを支援する協会「アシャンテ ママ」を設立します。難しいことにも体当たりで取り組んでいく彼女の生き方は、とてもパワフルで魅力的です。

みなさんにすすめたい本

平成27年 12月
 岡山市教育委員会
 岡山県学校図書館協議会

もうすぐ楽しい冬休みがやってきます。新しく発行されたたくさんの本の中から、みなさんにおすすめしたい本を学校図書館協議会の先生方に選んでもらいました。これらの本の中から一冊でも多く読んで、楽しい時間を過ごしてください。

〈おうちのかたがたへ〉

保護者が子どもに本を読むことは、読書に親しむ基礎づくりになります。また、読書をすすめることにより、心が通じ合い、対話がよりいっそうふえることとなります。

しょうがっこう ていがくねん む
小学校低学年向き

分類	著者名	書名	発行所	ページ・価格(税込)
913	竹下 文子	にゃんとも クラブ	小峰書店	62ページ・1188円

あなたには、ねこの友だちがいますか。にゃんともです。にゃんともには、いろいろなきそくがあるそうです。「ぼく」のらねこはにゃんともになりましたが、いろいろなきそくにびっくり。ほんとうになかよくなれるのかな。

E	安武 信吾・ 千恵・はな	はなちゃんのみそ汁	講談社	47 1512
---	-----------------	-----------	-----	------------

まいあさ5じにおきるはなちゃん。ねむたいけどおきてだいでところにむかい、みそしるをつくります。どうして小学生のはなちゃんがみそしるをつくるのでしょうか。「おだし」からみそしるはどうやってつくるのでしょうか。

913	川北 亮司	1ねん おもしろ たんていだん かゆいの かゆいの とんでいけ!	新日本出版	62 1296
-----	-------	-------------------------------------	-------	------------

みなさんもカにさされるとかゆくなりますよね。どうしてかゆくなるのかな。おもしろたんていだんのみんながちょうさをはじめました。どんなふうにかゆさをするのか、かんがえんがらよんでみてくださいね。

小学校中学年向き

分類	著者名	書名	発行所	ページ・価格(税込)
913	井上 林子	2分の1成人式	講談社	183 ページ・1404 円

10歳のたんじょう日をむかえた桐谷ユメ。ちょうど「2分の1成人式」をむかえる4年生のクラスでは、「2分の1成人式文集ノート」を作ることになりました。自分と周りの友だちを比べてしまったり、友だちのユメが気になったり…。ユメの文集ノートは完成するのでしょうか。

913	岡田 淳 浦川 良治	わすれものの森	BL出版	86 1404
-----	---------------	---------	------	------------

明日は音楽発表会。ツトムのクラスは笛の合奏をします。それなのに…。1週間前の音楽の時間まであった笛がどこにもありません。困ったツトムの元にあやしい2人が現れます。もしかしたら笛のことを知っているかも。2人にたずねてみることにしました。

933	ルイス・ スロボドキン	ルイージといじわるな へいたいさん	徳間書店	64・1836
-----	----------------	----------------------	------	---------

ルイージは、国境近くに住む男の子。バスに乗って、となりの国のバイオリンの先生の家に通っています。バスには国境けいびのへいたいさんが乗ってきて、密輸する人がいないか調べます。ある日、新人のへいたいさんが乗ってきて…

E	H・ジョゼフ・ ホプキンス	木のすきな ケイトさん	BL出版	32 1728
---	------------------	----------------	------	------------

ケイトは森で育ち、大好きな木の勉強をし続け、カリフォルニア大学の初の女性科学者として卒業しました。ケイトが先生として赴任した町は、サンディエゴという砂漠の町でした。本当にあった砂漠を緑の町に変えたケイトのお話です。

小学校高学年向き

分類	著者名	書名	発行所	ページ・価格（税込）
913	春間 美幸	それぞれの名前	講談社	214 ページ・1404 円

みんな、自分の下の名前って気になりませんか。名前には、つけてくれた人のあたたかい思いがぎゅっと詰まっていることを教えてくれるお話です。自分の名前も、周りの人の名前も、大切にしたいと思いますよ。

916	石田 優子	広島の木に会いに行く	偕成社	239・1944
-----	-------	------------	-----	----------

被爆樹木についての取材を進める中で、広島の過去と現在を見つめる若者。未来を見つめる視点を与えてくれます。樹木医の堀口力さんと共に被爆樹を巡りながら、木に関わる人たちの話を聞いて、木に宿るものを見つけていきます。

E	インゲ・ ドイチュクローン	パパ・ヴァイト	汐文社	29・1728
---	------------------	---------	-----	---------

ナチスがドイツを支配していた第二次世界大戦中、目のほとんど見えないオットー・ヴァイトはナチスに反対した。彼の経営する盲人作業所はユダヤ人を守る避難所となり、そこで出会った私は、彼のことを「パパ・ヴァイト」と呼んでいた。困難な時代に勇気をもって行動した本当のお話です。

933	ベン・ マイケルセン	コービーの海	鈴木出版	334・1728
-----	---------------	--------	------	----------

コービーは、事故で右足を失ってから、人生が悪い方へ進んでいると感じていた。だが、ある日、ケガをしたクジラを助けたことがきっかけとなり、周囲の人々も自分自身も変わり始める…。少女の心の成長を描いた物語です。

中学生向き

分類	著者名	書名	発行所	ページ・価格(税込)
913	富安 陽子	天と地の方程式 1	講談社	252 ページ・1512 円

天才的な記憶力をもっている…けれど普段はそれをひた隠しにして、普通に中学校生活を楽しんでいる主人公・アレイ。転校先の中学校は、ちょっと風変わりな学校でした。そこで出会ったのは、数学の天才だけど変わり者の同級生「Q」。

アレイとQは、転校初日に何者かによって異世界に召喚されるはめに…!?

913	吉野 万理子	赤の他人だったら、 どんなによかったか。	講談社	238・1512
-----	--------	-------------------------	-----	----------

ある日起こった通り魔事件。ただの野次馬としてその事件を話題にしていた中学2年生の八条風雅は、犯人と自分が遠い親戚であることを知って…。「他人」とは何か、「他人」であれば、あるいは「他人」でなければどうするべきなのか。「ふたり」の主人公の気持ちや行動を通して考えさせられる一冊です。

361	下村 健一	10代からの情報キャッチボール入門 使えるメディア・リテラシー	金の星社	152 1728
-----	-------	------------------------------------	------	-------------

「今年の12月に人類滅亡だって！」君のLINEにこんなメッセージが届いたらどうする？ネット時代に被害者にも加害者にもならないために必要な「4つのギモン」と「4つのジモン」を実例を交えながら、分かりやすく教えてくれる一冊です。

指定図書選定委員会

平成 28 年 3 月 3 日 (木), 岡山県立図書館において, 指定図書選定委員会を開き, 平成 28 年度第 62 回青少年読書感想文岡山県コンクールの「県指定」図書を選定した。

指定図書選定委員

県 SLA 会長	藤井 健平	岡山県立総社高等学校長
副会長	大塚 仁	岡山市立甲浦小学校校長
〃	藤井 隆	岡山市立上道中学校校長
小教研事務局長	中村 さつき	岡山市立甲浦小学校
小教研事務局長	小川 薫	岡山市立芳田小学校
中教研事務局長	永守 志帆	岡山市立上南中学校
中教研事務局補佐	金田 益美	岡山市立山南中学校
県 SLA 事務局長	大野 里江子	岡山県立総社高等学校
アドバイザー	新田 治彦	県教育庁義務教育課指導主事 (主任)
選定委員	木下 由布子	岡山市立興除小学校
〃	福本 幸恵	岡山市立平島小学校
〃	青江 理愛	岡山市立平島小学校
〃	古市 絵美子	岡山市立御野小学校
〃	勝浦 由子	岡山市立加茂小学校
〃	東原 真美	岡山県立図書館
〃	高島 智恵子	岡山市立上道中学校
〃	片岡 史昭	岡山市立福浜中学校
〃	虫明 涼子	倉敷市立水島中学校
〃	稲田 智恵	岡山市立岡山中央中学校

岡山県指定図書について

- 1 内容

読書感想文コンクールの自由読書と課題図書の他, 岡山県独自の応募区分「県指定」を設ける。
- 2 目的
 - (1) 岡山県の状況に応じた読書普及を推進する。
 - (2) 何をどう読ませるか, 図書の選択や読書指導の手がかりにする。
 - (3) よりよい図書をより多くの子どもたちに読ませ, 読書生活を豊かにさせる。
 - (4) 岡山県優良図書選定委員会の選定した図書の有効活用を図る。
- 3 方法
 - (1) 岡山県指定図書は, 指定図書選定委員会を設けて協議し, 決定する。
 - (2) 岡山県学校図書館協議会優良図書研究部会の選定した図書などから選定する。

- (3) 冊数は, 小学校低学年 3 点, 小学校中学年 3 点, 小学校高学年 3 点, 中学校 3 点とする。

4 その他

- (1) 字数, 用紙, 応募作品, 出品数, 締め切り, 送付先, 審査, その他の注意事項については, 他の区分の応募要項に準ずる。
- (2) 全国コンクールの応募については, 自由読書と一緒にして再度審査し, 規定どおり出品する。
- (3) 岡山県指定図書は, 昭和 55 年度 (第 26 回) から設けている。

平成 27 年度岡山県指定図書 (県指定)

小学校低学年	<p>『しゅくだいさかがり』 福田 岩緒 (PHP 研究所)</p> <p>『ひみつのかんかん』 花山 かずみ (偕成社)</p> <p>『あひるの手紙』 朽木 祥 (校成出版社)</p>
小学校中学年	<p>『七夕の月』 佐々木 ひとみ (ポプラ社)</p> <p>『地雷をふんだソウ』 藤原 幸一 (岩崎書店)</p> <p>『ぼく、悪い子になっちゃった!』 マーガレット・ピーターソン・ハディックス (さ・え・ら書房)</p>
小学校高学年	<p>『ブルーとオレンジ』 福田 隆浩 (講談社)</p> <p>『希望の牧場』 森 絵都 (岩崎書店)</p> <p>『クララ先生さようなら』 ラレル・ファン・コーイ/文 石川 素子 /訳 いちかわ なつこ/絵 (徳間書店)</p>
中学校	<p>『石の神』 田中 彩子 (福音館書店)</p> <p>『ナックの声が聞きたくて!』 村山 司 (講談社)</p> <p>『カンボジアの大地に生きて』 ミンフォン・ホー (さ・え・ら書房)</p>

平成27年度 岡山県学校図書館協議会事業報告

	実施事項	期日	会場	内容
5月	新旧代表役員会及び研修会	5/14(木)	総社高等学校	・役員の確認 ・総会提出議案の協議
	第1回司書部会理事会及び研修会	5/20(水)	総社高等学校	・学校司書実態調査について ・岡山大会について、各地区情勢報告
6月	第66回総会及び研修会	6/11(木)	総社市中央公民館	・平成26年度事業・決算報告 ・平成27年度事業計画・予算案
	第1回支部事務局長会議及び研修会	6/18(木)	総社高等学校	・総会議決事項報告 ・事務連絡 他
7月	平成27年度岡山県学校司書研修会	7/28(火)	玉野レクセセンター	・実践報告、講演、交流会 その他
9月	第2回司書部会理事会及び研修会	9/30(水)	総社高等学校	・研修会(玉野大会)報告について ・平成28年度研究協議会について
10月	読書感想文コンクール第1回合同審査会	10/8(木)	総社高等学校	・審査日程・審査基準について
	読書感想文コンクール第2回審査会	10/27(火)	甲浦小学校	・小中高別の審査
		10/27(火)	上南中学校	
10/27(火)	玉島高等学校			
11月	第29回中国地区学校図書館研究大会倉敷大会 第51回岡山県学校図書館研究大会倉敷大会	11/26(木)	倉敷南小・連島東小 倉敷天城中・青陵高	・公開授業・研究協議・分科会
		11/27(金)	ライフパーク倉敷	・全体会 ・記念講演
12月	読書感想文集最終校正会議	12/3(木)	総社高等学校	・「読書感想文集2015」最終校正
	読書感想文コンクール表彰式及び研修会	12/17(木)	岡山県立図書館	・表彰式
1月	第2回支部事務局長会議及び研修会	1/7(木)	総社高等学校	・平成27年度事業中間報告 ・事務連絡 他
	読書感想画コンクール審査会	1/14(木)	大野小学校	・小中高別の審査
		1/14(木)	倉敷北中学校	
1/14(木)	玉島高等学校			
2月	代表理事会及び研修会	2/22(月)	総社高等学校	・平成28年度総会提出議案の協議
3月	指定図書選定委員会	3/3(木)	岡山県立図書館	・平成28年度青少年読書感想文岡山県 コンクールの県指定図書の選定
	第3回司書部会理事会及び研修会	3/7(月)	総社高等学校	・平成28年度研究協議会について ・学校司書実態調査について ・各地区情勢報告 他

平成 27 年度 岡山県学校図書館協議会支部協議会事業報告

地区	実施事業名	実施期日	実施会場	内 容	参加数
岡 山	第 1 回正・副会長研修会	5 月 28 日 (木)	大元小学校	・平成 26 年度事業報告・決算報告、平成 27 年度事業計画・予算案等	13 人
	第 2 回正・副会長研修会及び 第 1 回理事会	7 月 9 日(火)	大元小学校	・読書感想文・読書感想画コンクールについて	20 人
	総会並びに研修会	7 月 31 日 (金)	御津文化センター	【総会】 ・平成 26 年度事業報告・決算報告 平成 27 年度事業計画・予算案 ・平成 26 年度事業報告・決算報告 平成 27 年度事業計画・予算案 ・第 61 回読書感想文コンクール・感想画コンクールについて ・司書部会からの事業報告及び計画 学校アンケートの結果報告 【研修会】 ・全体研修会 講演「探求型学習について～探求を導くために～」 (大阪教育大学 教授：森田英嗣先生) ・第 1 回区別研修会(情報交換・読書感想文コンクール審査会日程調整)	198 人
	第 61 回岡山市読書感想文コ ンクール 第一次審査会(区)	9 月 8 日(火)	北 1 区 (伊島小)	・岡山市 2 次審査に出品する作品の選考、入賞者作品名簿の作成	120 人
		9 月 10 日(木)	北 2 区 (大野小)	・各区の応募総数の確認、二次審査の審査員の推薦	
		9 月 8 日(火)	中区 (操南小)		
		9 月 10 日(木)	東区 (政田小)		
		9 月 9 日(水)	南区 (藤田中)		
	第 61 回岡山市読書感想文コ ンクール 第二次審査会(市)	9 月 24 日(木)	建部小学校	・岡山市学校図書館協議会会長賞(県出品)・協議会賞・入選作品の選考	31 人
	臨時 正・副会長研修会	10 月 22 日(木)	大元小学校	・研究部の在り方について	8 人
	岡山市小中教研学校図書館 部会 研究発表会	10 月 28 日(水)	幡多小学校	「思考し、表現する力を育てる授業づくり」～学校図書館の活用を通 して 講師 岡山市教育委員会 指導副主査 森祐子先生・岡孝之先生	75 人
	臨時 理事会	11 月 19 日(木)	大元小学校	・第 2 回区別研修会について ・研究部について	23 人
	第 1 回研究部会	1 月 28 日(木)	建部小学校	・平成 28・29 年度の研究発表会に向けて ・研究テーマについて	10 人
	第 2 回区別研修会	2 月 12 日(金)	北 1 区 (伊島小) 北 2 区 (大野小) 中区 (県立図書館) 東区 (政田小) 南区 (藤田中)	・実践報告・情報交換 ・情報交換・読書感想画についての研修 (大野小学校 校長 上岡 弘明先生) ・県立図書館の見学と図書サービスについて (県立図書館サービ第 2 課 林 孝子先生) ・実践報告・情報交換 ・研究協議	200 人
	第 2 回 理事会	2 月 16 日(火)	建部小学校	・読書感想文集代金集金 ・各区別研修会の反省	18 人
第 3 回 正・副会長会	3 月 1 日(火)	大元小学校	・平成 27 年度事業報告・平成 27 年度事業計画案	10 人	
<p>反省と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各区別研修会では、研究に向けて実践報告をすることができた。また、各区の要望に合わせた研修内容を計画するなど、ニーズに合わせた研修ができた。 ・研究については、研究部員が少なく今後増やしていく必要がある。また、計画的に研究部会を開催することができなかった。しかし、来年度に向けて研究テーマを決定することができた。 ・区別研修会の運営を理事校にお願いしているが、従来の年 1 回では不十分なため、本年度は 3 回に増やした。会を運営していくためには、年 3 回の開催が必要である。 ・読書感想文の出品について、書き方や文字数など細かい点も各校へ周知徹底ができていないことがあった。全体の中で、細かいところまで伝えていく必要がある。 					
赤 磐	図書館教育部会研修会	4 月 24 日 (金)	桜が丘小学校	事業計画・事業予算の策定	18 名
	読書感想文コンクール支部 審査会及び研修会	9 月 15 日 (火)	桜が丘小学校	読書感想文コンクールの審査	18 名
<p>反省と課題</p> <p>岡山県の読書感想文審査会で、入選者へ渡す賞状が上下反対に印刷されていたので、後日回収したり新しいものを各校へ渡したりするのが大変でした。しかし、早急に対応していただいたので助かりました。ありがとうございました。</p>					

婦	実施事業名	実施期日	実施会場	内 容	参加数
和	和気郡学校図書館協議会研修会	5月1日(金)	藤野小学校	○平成26年度の事業報告と平成27年度の事業計画について話し合った。	9人
	和気郡読書感想文ならびに 研修会	9月14日(月)	本荘小学校	○読書感想文の審査を行い、読書感想文への取り組み状況と課題について、各校の実態をもとに、話し合い、研修を深めた。	10人
気	反省と課題 ・読書感想文審査会においては、いろいろな本を楽しんで読みながら、自分の生活と照らし合わせて素直に感想を綴っている作品が多く、好感がもてた。しかし、規定の字数や書き方に沿った作品が書けるように、各校で指導をしていくことも 大切であると話し合った。 ・読書については、学校で「朝読書」を実施したり、読書週間を利用して「家読」を実施したりして、本に親しむ場や機会を増やす取り組みを続けている。今後も続けていきたい。”				
	備	第1回 研修会	4月28日(火)	伊里中学校	○平成27年度の組織作りと事業計画作成 ○各校の情報交換
第2回 研修会並びに読書感想文審査会		小学校の部 9月17日(木) 中学校の部 9月15日(火)	神根小学校 日生中学校	○読書感想文の審査と反省 ○各校の読書指導についての情報交換等	15名 5名
司書部会 第1回研修会		4月28日(火)	日生西小学校	○昨年度の活動報告 ○今年度の活動計画立案 ○おすすめの本の紹介	9名
司書部会 第2回研修会		6月24日(水)	日生中学校	○パネルシアターの作成について ○教科書改訂に伴う、「授業で使える資料リスト」の作成	9名
司書部会 第3回研修会		9月30日(水)	香登小学校	○おすすめ本の紹介 ○教科書改訂に伴う、「授業で使える資料リスト」の作成	9名
司書部会 第4回研修会		12月25日(金)	日生南小学校	○おすすめ本の紹介 ○教科書改訂に伴う、「授業で使える資料リスト」の作成と検討	9名
司書部会 第5回研修会		2月23日(火)	伊部小学校	○今年度の反省と来年度の活動についての話し合い ○おすすめ本紹介 ○役員紹介	9名
前		反省と課題 各校で、「豊かな読書を目指して～読書の幅を広げる工夫～」をテーマに、取り組みを行った。以下は、その取り組みを通しての成果と課題である。 ○ 読書に結びつける授業や「おすすめの本」を決めて読ませることを通して、いろいろな種類の本を読み、ある程度の読書をする児童が、増えてきている学校が多い。しかし、高学年児童は、読書時間の確保が難しかったり、漫画や文字数の少ない本など自分にとって読みやすい本から脱却できない児童もいたりするという課題がある。 ○ 雨の日や図書イベントがある日には、図書室を利用する児童は増えるが、晴れの日には、外で遊ぶ児童が多く、休み時間に図書室を利用する子は本当に読書が好きな子に偏る傾向がある。今後は図書室をあまり利用しない児童が訪れるための工夫が必要と考える。 ○ 家族読書を行っている学校が多く見られる。協力的な家庭も多く、読書の幅も広がった学校もある。読書を通じて家族と関わったり、家庭で読書をするきっかけになったりする取り組みを今後も行っていきたい。			
	瀬	岡山県青少年読書感想文コンクール瀬戸内市審査会・研修会	9月18日(木)	瀬戸内市中央公民館	読書感想文コンクール審査など
第1回瀬戸内市図書館司書研修会		4月22日(水)	邑久中学校	○学校図書館用システムデモ(富士通) ○今年度の実技研修・推薦図書・分科会の持ち方について ○夏のおはなし会について	14名
第2回瀬戸内市図書館司書研修会		6月30日(水)	瀬戸内市中央公民館	○学校図書館用システムデモ(OEC) ○学校図書館用システムデモ(京セラ丸善)	14名
平成27年度岡山県学校司書研修会(玉野大会)		7月28日(火)	玉野レクレンセンター	○研修会への参加	11名
第3回瀬戸内市図書館司書研修会		7月31日(金)	瀬戸内市中央公民館	○瀬戸内市読書ボランティア研修会「子どもの本を知る選ぶ伝える」(講師:土居安子先生)	49名
第4回瀬戸内市図書館司書研修会		8月26日(水)	瀬戸内市中央公民館	○鎌田和宏先生との座談会 ○第5回瀬戸内市学校図書館と子どもたちの学び 講演「図書館活用教育～その学びを考える～」(講師:鎌田和宏先生)	30名
第5回瀬戸内市図書館司書研修会		9月10日(木)	牛窓東小学校	○実技研修 3年国語「すがたをかえる大豆」(牛窓東小 奥山司書) ○図鑑の検討 ○「おはなし会」の反省・質問 ○小中学校別分科会 ○内容別分科会(前年度の活動についての質疑応答) ○推薦図書「ステップアップに使える本」	11名
第6回瀬戸内市図書館司書研修会		10月15日(木)	今城小学校	○実技研修「百科事典で調べてみよう」(邑久小 木山司書) ○読書週間の取り組みについて ○小中学校別分科会 ○内容別分科会の今後の活動について ○研究大会への参加	11名
戸	第29回中国地区学校図書館研究大会倉敷大会・第51回岡山県学校図書館研究大会倉敷大会	11月26日(木)	倉敷南小学校 連島東小学校 倉敷天城中学校		5名
	第7回瀬戸内市図書館司書研修会	12月25日(金)	国府小学校	○邑南町学校図書館紹介DVD視聴 ○岡山県学校図書館研究大会倉敷大会参加報告 ○実技研修「もたろうの読み比べ」(行幸小 板野司書) ○内容別分科会の内容とメンバー決定 ○推薦図書「4類のおすすめ本」	11名
内	第8回瀬戸内市図書館司書研修会	1月29日(金)	牛窓中学校	○今年度の反省 ○来年度の年間計画	12名
	反省と課題 読書感想文審査会では、参加経験のある先生方が多く、会をスムーズに行えることができた。 【図書館司書研修会】 ・鎌田先生や土居先生のお話をお聞きする機会をいただいたことや、他校の実践を聞いたり、実技研修を見たりしたことが、とても参考になった。 ・今年度は内容別分科会について、よく話し合えた年だったと思う。来年度から、しっかり研究を進めていきたい。 ・来年度、システム運用開始にあたって、具体的な実用や注意点などについて、研修を行ってきたい。				

地区	実施事業名	実施期日	実施会場	内 容	参加数
玉野	・玉野市学校図書館協議会代表者会	6月26日(木)	日の出ふれあい会館	・平成26年度支部事業会計報告 ・平成27年度支部事業計画・予算計画 ・読書感想文コンクール実施計画	22名
	・第61回青少年読書感想文コンクール支部審査会 ・市内読書感想文集作成 ・司書会	9月10日(木) 9月24日(木) 1月中旬 毎月1回	日の出ふれあい会館 宇野中学校 築港小学校 各小中学校輪番	・小学校低・中・高学年で各類型ごとに審査 ・中学校各類型ごとに審査 ・各学校情報交換と「おすすめの本」の紹介 ・学校図書館に関する調査についての研修 ・小学校部会・中学校部会に分かれての研修 他	26名 14名 事務局 24名
反省と課題 ・読書感想文を県に提出する際、作品に校正ミスが多く見られ混乱を招いた。代表者会での再度の確認が必要と感じた。 ・前年度の反省点である、「指定図書に応募作品が少なかった。」「常体で文を書くことができてない。」などが、やはり徹底できていない。司書会とも連携して、もう少し強くアピールする必要性を感じた。					
加賀	第1回研修会	5月11日(月)	加賀中学校	・本年度の計画立案	10人
	第2回研修会 読書感想文支部審査会	9月10日(木)	吉備中央町農業振興センター	・読書感想文加賀支部支部出品作品の審査 ・読書感想文の書き方指導についての研修	11人
反省と課題 ・加賀支部内の中学校が1校となり2年目だったため、出品数などの情報交換を行うことで、感想文審査についての共通理解がさらに深まった。 ・中学校の部の審査については、加賀中学校での校内審査で作品を絞り込んで支部審査会へ持ってきていただいたため、審査をスムーズに行うことができた。 ・読書感想文の書き方について研修を深め、指導に生かすように情報交換を行うことができた。 ・今年度は児童の読書活動を推進させるための研修会をもつことができなかったため、来年度は企画していきたい。					
倉敷	倉敷市学校図書館協議会第1回研修会 (第29回中国地区学校図書館研究大会)	11月26日(木)	倉敷南小学校 連島東小学校 倉敷天城中学校 倉敷青陵高等学校	○公開授業 ○研究協議 ○分科会	約680名 (2日間通して)
	倉敷市学校図書館協議会第2回研修会 (第29回中国地区学校図書館研究大会) 司書部会	11月27日(金) 年7回	ライフパーク倉敷 市庁舎	○全体会 ○記念講演 講師 小嶋 光信 氏(両備グループ 代表兼CEO) 演題 「忠恕の心は日本の宝！」 7つの研究テーマに分かれて研修を実施 (選書、資料作成、環境整備、資料提供、調べ学習、マニュアル、学校図書館自己評価)	90名
反省と課題 ・今年度は、中国地区学校図書館研究大会と2回の研修会を兼ねて行った。他市や他県の図書館の取り組みや研究授業の中で国語の資料として学校図書を使っている実践を知ることができ、勉強になった。また、授業での教諭と司書の連携がどの発表もうかがうことができたので、どのように連携をしていくかをしっかり考え、実践を続けていきたいと思う。充実した2日間の研修だったが、学校行事と重なったこともあり、2日続けて学級を空けることは担任として難しく、やむを得ず欠席した教諭も少なくなかった。また、当日は係があり、授業や全体へも十分に参加することができず、残念だったという意見も多かった。 ・司書部会では、7つの研究テーマに分かれて研修をおこなっている。7月には、全体に研修を広めるため、中間発表をおこなった。今後は、平成28年7月の岡山県学校司書研究協議会(倉敷大会)での発表にむけて研修をまとめていく予定。研修内容を各校での職務に有効に活かして、倉敷の司書のスキルアップ、図書館の充実を目指す。					
浅口	中教研浅口支部学校図書館研究部運営委員会	4月30日(木)	里庄中学校	事業計画決定	8人
	小教研浅口支会学校図書館教育研究部運営委員会	5月1日(金)	里庄東小学校	主任選出、研究テーマ・事業計画立案	4人
	小教研浅口支会学校図書館教育研究部会	5月8日(金)	里庄東小学校	研究テーマ・事業計画決定	14人
	中教研浅口支部学校図書館研究部研修会	8月3日(月)	里庄中学校	岡山県学校図書館研究大会での発表内容検討	8人
	小教研浅口支会学校図書館教育研究部夏季研修会	8月24日(月)	寄島小学校	岡山県学校図書館研究大会の大会要項の原稿校正、情報交換	14人
	読書感想文浅口支部審査会	9月16日(水)	寄島小学校	読書感想文支部審査	24人
	中教研浅口支部学校図書館研究部研修会	11月10日(火)	里庄中学校	岡山県学校図書館研究大会での発表に関する最終確認	6人
	岡山県学校図書館研究大会倉敷大会	11月26日(木)	倉敷天城中	研究大会での発表や係	5人
	小教研浅口支会学校図書館教育研究部研修会	11月26日(木) 11月27日(金)	倉敷南小、連島東小 ライフパーク倉敷	岡山県学校図書館研究大会倉敷大会への参加	10人
	反省と課題 特にありません。				

支路	実施事業名	実施期日	実施会場	内 容	参加数
笠	笠岡市教育研修所 学校図書館教育部会 (小学校)	5月1日 (金)	笠岡市立中央小学校	○研修テーマと研修計画の決定 テーマ「読書意欲を高める指導と環境づくり」	27人
	笠岡市教育研修所 学校図書館教育部会 (中学校)	5月1日 (金)	笠岡市立中央小学校	○研修テーマの確認と研修計画の決定	12人
	笠岡市教育研修所 学校図書館教育部会 (小学校)	7月24日 (金)	サンライフ笠岡	○研究発表に向けてのプレ発表 テーマ「豊かな言語活動を支える学校図書館」 ○学校司書研修会の実践報告	26人
	笠岡市教育研修所 学校図書館教育部会 (中学校)	7月24日 (金)	笠岡市民会館会議室	○「実になる本探し」 本、資料を持ち寄り、資料交換、実践報告と話し合い	10人
	読書感想文コンクール審査会	9月18日 (金)	笠岡市立陶山小学校	○読書感想文岡山県コンクールの審査	28人
	中国地区学校図書館研究大会倉敷大会参加	11月26日 (金)	倉敷市立倉敷南小学校 岡山県立倉敷天城中学校	○研究主題「豊かな心を育み、言語活動を充実させる学校図書館」 研究発表「学校図書館と創る豊かな言語活動」 笠岡市北川小学校 教諭 河田 美恵子	9人
	反省と課題	<p>・研修内容に研究大会に向けてのプレ発表を取り入れ、大勢の目で見ても、気づいたことを話し合ったので、発表者は参考になったと思う。また、北川小学校の取り組みを知ることができ、大変有意義な研修になった。</p> <p>・「実になる本探し」では、各校が本・資料を持ち寄り、話し合いと資料交換を行った。読み聞かせや委員会活動等の実践報告を行ったり、参考となる多くの本を互いが持ち寄り、紹介や検討をしたりすることができた。</p> <p>・中国地区の研究大会では、市内の北川小の発表や他校の実践に学ぶものが多くあった。しかし、各校行事や出張の多い時期で参加がむずかしく、一部の会員のみでの参加となった。参加者が少なくなることは予想できたが、計画に組み込んでいたので参加できた会員もあり、今後もこういった大会への参加は率先して部会の研修計画に組み込むとよいと思われる。</p>			
小田	小田郡学校図書館協議会総会並びに研修会	7月2日 (木)	矢掛町立中川小学校	・26年度事業報告、決算報告 ・役員選出	12人
	感想文審査会	9月7日 (月)	矢掛町立中川小学校	・27年度事業計画、予算 ・情報交換 ・読書感想文の支部審査会	11人
	郡読書感想文集作成	10月5日 (月)	矢掛町立中川小学校	・郡内優秀作品を印刷・製本して各校へ配布し、指導に役立てるようにした。	2人
	反省と課題	<p>・各校に司書が週2日間来校するとき、学年ごとにブックトークや読み聞かせ等を学校ごとに工夫して取り組み、児童に好評であった。</p> <p>・学年相応の読書をすすめる指導の工夫が、今後も必要である。(特に保護者の協力を得ながら、家庭での読書の推進をいかに進めていくべきか)</p>			
井原	読書感想文支部審査会	9月18日 (金)	アクティブライフ井原	・平成27年度の活動計画 ・井原市学校図書館協議会の役員紹介 ・支部審査会 小学校の部 中学校の部	20名 13名 5名
	感想文の表彰	10月	各校	・支部作品の表彰	
	感想文集の配布	10月		・読書感想文集の注文とりまとめ	
	感想文の表彰	1月8日 (金)	各校	・読書感想文集の配布 ・県出品作品の表彰	
	反省と課題				
総社	図書館教育班会 第1回図書館教育班会 (総社市教育研修所総会)	5月8日 (金)	総社中学校	研修計画立案等	14名
	第2回図書館教育班会	6月25日 (木)	総社市図書館	総社市図書館との連携・情報交換	17名
	第61回岡山県青少年読書感想文コンクール 総社支部審査会	9月7日 (月)	保健センター	読書感想文コンクール審査	23名
	第29回中国地区学校図書館研究大会倉敷大会・第51回岡山県学校図書館研修大会倉敷大会参加	11月26日 (木) ～ 27日 (金)	倉敷市立倉敷南小学校他 ライフパーク倉敷	研究会参加	
	学校司書部会 第1回学校司書部会	7月29日 (水)	総社小学校	司書部会研修計画 実演の計画と準備	11名
	第2回学校司書部会	7月31日 (金)	新本・昭和小学校	お話の会実演と反省 相互貸借に役立つ選書について等	11名
	第3回学校司書部会 第4回学校司書部会	12月8日 (火) 2月9日 (火)	維新小学校 秦小学校	読書週間の報告 相互貸借に役立つ選書について等 今年度の反省 学校図書館システム研修等	12名 12名
反省と課題	<p>(班会)今年度も総社市図書館と情報交換の場をもち、連携しながら様々な活動を推進することができた。総社市図書館教育班会の研修として、学校図書館大会倉敷大会に参加し研修したことも大変有意義であった。</p> <p>(司書部会)今後の小・中学校間での相互貸借を促進するため、より需要の高い資料についての情報交換・選定を進めている。また、図書館運営システムの研修も継続しており、有効な活用につなげられている。来年度も引き続き有意義な研修を行っていききたい。</p>				

地区	実施事業名	実施期日	実施会場	内 容	参加数
高 梁	研修会	6月30日(火)	高梁市立高梁中学校	○年間計画の作成・配布物の説明	20名
	読書感想文コンクール審査会	9月15日(火)	高梁市勤労青少年ホーム	○読書感想文コンクール審査	25名
高 梁	研修会(学校図書館司書部会との合同研修会)	2月25日(木)	高梁市勤労青少年ホーム	○実践発表 (発表者)高梁北中学校 平松敬子教諭 金子由実学校図書館司書 (内容)言語活動の充実を支える学校図書館の実践 ○協議 ・読書感想文への指導のあり方について ・今年度の取り組みの反省	20名予定 外:学校図書館司書部会12名参加
	反省と課題 ・第1回研修会は県協議会からの指示の伝達を中心に行った。コンクールへの積極的参加を呼びかけるとともに、校内審査のあり方や各校から提出される出品目録の記入について、県協議会から指示されたことをもとに各校へ依頼を行った。各校への配布文書がデータで渡せたことが学期末の慌ただしい時期には今回も好評だった。特に感想文集注文書は今年度の方法が各校にとっても都合がよいとのことだった。 ・感想文コンクール審査会では、小学校低学年と中学校では審査にかかる時間が大きく異なり、審査後の反省や今後に向けて十分な協議時間がとれなかったため文書での提出をお願いをした。 ・2月に実施する学校図書館司書部会との合同研修会は、倉敷大会分科会で発表した実践についてさらに学校図書館や学校図書館司書との関わりについて発表を膨らませていただく予定である。また、協議では中学校の担当者に国語科のベテランが多いので、新旧交代が続く小学校教員や学校図書館司書に読書感想文の書かせ方や選書の助言の仕方などの助言をいただく予定である。				
新 見	理事会	6月9日(火)	阿新教育会館	事業計画	4人
	学校図書館担当者会	6月30日(火)	阿新教育会館	昨年度の事業報告及び連絡	22人
新 見	読書感想文コンクール支部審査会	9月24日(木)	阿新教育会館	読書感想文コンクール支部審査	23人
	理事会	3月3日(木)	阿新教育会館	事業反省と来年度に向けての話し合い	4人
反省と課題					
津 山	学校図書館協議会総会・研修会	6月5日(金)	津山市役所東庁舎	平成26年度の活動報告および決定事項の確認 平成27年度の組織運営および活動計画について	36人
	学校図書館協議会理事会	7月10日(金)	津山市立高田小学校	平成27年度津山市読書感想文コンクールの実施について	11人
	図書選定会	8月21日(木)	津山ブックセンター	児童生徒にすすめる本の選定	17人
	津山市読書感想文コンクール	9月17日(木)	津山市役所東庁舎	津山市内の児童生徒の読書感想文の審査	36人
	図書選定会	1月28日(木)	津山ブックセンター	児童生徒にすすめる本の選定	17人
津 山	学校図書館協議会総会・研修会	3月4日(金)	津山市役所東庁舎	平成27年度活動のまとめ 研究集録「あゆみ」編集作業	36人(予定)
	反省と課題 ・図書選定委員が毎年変わっていたことで、引き継ぎが上手くいっていないという問題点があったので、引き継ぎ文書の整理と、来年度役員決定を早めに行った。 ・年2回の図書選定会が実施できた。 ・支部内での提出・回収物がスムーズにいかず、運営に支障をきたすことがあった。 ・今年度より県立中が創立されたため、審査会への参加など、新しく決まったことがあった。				
苦 田	苦田郡学校図書館協議会総会	6月23日(火)	鏡野中央公民館	今年度の活動計画 事務局総会の報告	15人
	読書感想文審査	9月17日(木)	鏡野中央公民館	小学校部 中学校の部に分かれて審査	12人
	苦田郡学校図書館協議会研修会	2月5日(金)	ペスタロッツ館	本年度の活動についてのまとめ 情報交換	12人
反省と課題 ・各校で読書に親しむことができるように工夫している。今後も、情報交換をして工夫を取り入れていきたい。 ・今年度の読書感想文支部審査の概評を確認し、来年度の読書感想文に生かしていく。 ・読書感想文審査日をもう少し早めに持つ。(運動会やシルバーウィークのことを考えて書き直す時間が確保できるようにする。)					
勝 田	勝田郡学校図書館協議会総会・研修会	7月10日(金)	奈義小学校	平成26年度事業報告・決算報告 平成27年度事業計画・予算案 読書感想文コンクールについて	6名
	勝田郡読書感想文審査会(中学校の部)	9月11日(金)	奈義中学校	読書感想文審査	5名
	勝田郡読書感想文審査会(小学校の部)	9月25日(金)	奈義小学校	読書感想文審査	4名
	勝田郡学校図書館協議会研修会	2月9日(火)	奈義小学校	岡山県学校図書館協議会運営について 勝田郡学校図書館協議会活動反省	6名
反省と課題 ○勝田支部は小学校3校、中学校2校である。読書感想文審査会は少数校での実施であるため、作品の質的向上、審査員の確保の上から、他支部(例えば美作市)との合同審査を検討していただきたい。 ○学校図書館司書(学校図書館整理員)、町図書館司書を交えた、学校図書館運営のありかた、読書活動充実に向けての研修会を持ちたい。					

始略	実施事業名	実施期日	実施会場	内 容	参加数
久米	岡山県事務局長会及び研修会	6月18日(木)	県立総社高校	平成26年度の事業報告・決算報告、平成27年度事業計画・予算案審議	1人
	久米郡図書館協議会総会・研修会	7月7日(月)	久米南町立弓削小学校	平成26年度の事業報告・並びに会計報告、平成27年度事業計画並びに予算審議	13人
	久米郡図書館協議会研修会	7月27日(月)	久米南中学校	平成27年度の役員選出、読書感想文の応募についての確認	4人
	久米郡図書館協議会研修会	8月5日(水)	久米南中学校	平成27年度図書館協議会中国大会発表に向けての研修と準備	4人
	久米郡読書感想文審査会	9月24日(木)	美咲町役場	読書感想文の支部審査(中学校の部)	4人
	久米郡読書感想文審査会	9月28日(月)	美咲町役場	読書感想文の支部審査(小学校の部)	9人
	久米郡図書館協議会研修会	10月20日(火)	久米南中学校	平成27年度図書館協議会中国大会発表に向けての研修と準備	4人
	久米郡図書館協議会研修会	11月21日(木)	久米南中学校	平成27年度図書館協議会中国大会発表に向けての研修と準備	4人
	岡山県事務局長会	1月7日(木)	総社市中央公民館	事務連絡	1人
反省と課題 例年通りの活動ができた。 平成27年度図書館協議会中国大会発表に向けて、研修と準備を行い、大会で発表できた。 読書感想文の応募はなかった。					
真庭	真庭支部学校図書館協議会総会及び研修会	6月25日(木)	真庭市久世公民館	総会において、昨年度の事業報告・今年度の事業計画・予算の決定など。	29人
	「みなさんにすすめたい本夏号」配布	6月29日(月)		研修会において、読書感想文コンクール支部審査会に向けて、取り組み方や留意事項の確認。支部内の図書館教育推進の取り組みの交流など。	
	読書感想文コンクール真庭支部審査会	9月17日(木)	真庭市久世公民館	読書感想文審査。事務連絡(読書感想文集の注文の仕方等)	32人
	「みなさんにすすめたい本」	12月9日(水)		県より送付された「みなさんにすすめたい本」を各校へメールで配布	
「読み聞かせたい絵本」配布 読書感想文集・賞状配布 1月15日(金) 読書感想文集・賞状(県)を、郵便等で配布 反省と課題 支部審査会では、県から示された「感想文の書き方」等を総会屋審査会の案内で説明し、各校でよく確認し出品するようにした。また、支援学級の児童生徒の作品については、支部独自に審査基準を設けて作品を募集した。 今年度も読書感想文集学校購入分の支払い事務簡素化のため、真庭市については学校購入分の一括購入を市教委にお願いした。また、3冊購入に協力できる学校は、更に学校購入をお願いした。					
美作西栗倉	支部総会・研修会	7月13日(月)	土居小学校	26年度事業・会計決算報告 27年度役員選出、事業計画、予算案、読書感想文コンクール等について	19人
	支部読書感想文審査会・研修会	9月18日(金)	美作中学校	読書感想文審査	7人
	支部読書感想文審査会・研修会	9月25日(金)	作東農業改善センター	読書感想文審査	14人
反省と課題 ・支部総会の開催日を6月中に行うよう計画する。(夏季休業中の課題準備に向けて) ・支部読書感想文審査会の日程調整を早めしておく。(地区総体との関連に配慮) ・支部読書感想文審査後の事務処理について、確認事項が多かったが、各校とも多用の中、ご協力いただいた。					

始略	実施事業名	実施期日	実施会場	内 容	参加数
備 前	役員会	5月22日(金)	岡山操山高校	平成26年度事業報告・決算報告・平成27年度役員案・活動方針・事業計画・予算案・事務局校・役員校のローテーション・研究発表校のローテーション等	17名
	総会	6月17日(水)	岡山操山高校	平成26年度事業報告・決算報告・平成27年度役員案・活動方針・事業計画・予算案・事務局校・役員校のローテーション・研究発表校のローテーション等	32名
	第1回研究会	8月5日(水)	岡山操山高校	講演「学校図書館と授業を結ぶ」 講師：ノートルダム清心女子大学准教授 伊木 洋先生	40名
	第2回研究会	11月17日(火)	岡山操山高校	研究発表 題名「「図書館が人をつなぐ、人が集い語り合う、そしてふれあいが広がる」を支える学校図書館の運営を目指して」 発表者：倉敷鷺羽高校 長尾清次先生	25名
	第1回司書部会	4月30日(木)	東岡山工業高校	各校情報交換 講演：「司書の仕事・図書館の仕事」講師：高橋真太郎司書(鳥取県立図書館)(以上備中・美作支部と合同)/平成26年度活動報告・決算報告 平成27年度役員確認・活動予定・予算	27名
	第2回司書部会	6月19日(金)	岡山一宮高校	プチ紹介/資料に関する研修/おすすめ本の紹介/協議	25名
	第3回司書部会	8月5日(水)	岡山操山高校	講演：「学校図書館と授業を結ぶ」講師：伊木洋先生(ノートルダム清心女子大学准教授)(以上備前支部第1回研究会と合同)/研修「図書館に先生を呼び込もう」/プチ紹介/おすすめ本の紹介/	27名
	第4回司書部会	12月9日(水)	岡山県立図書館	研修「岡山県高校図書館ちよつとした工夫の事例集」(以上備中・美作支部と合同)/研修「ビブリオバトル」/プチ紹介/おすすめ本の紹介	22名
	第5回司書部会(予定)	3月4日(金)	倉敷翔南高校	プチ紹介/研修「POPチャレンジ～小さいPOPを作ってみよう！～」/おすすめ本の紹介/平成27年度・平成28年度の研修について	
	生徒図書委員会交流会	5月23日(土)	岡山操山高校	研修「利用者を呼び込む図書館イベントを考える」/図書委員会活動の情報交換	10校51名
反省と課題 ・役員会・総会では、今後の事務局校と読書感想文審査校・研究発表校のローテーションについて再確認し、未定であった平成29年～34年までの発表校3校を決定することができた。 ・生徒図書委員会の交流会は非常に有意義なものであり継続を望むが、今年度は前期1回しか開催できなかったため、今後は年度当初の事業計画案を立てる際に他支部とも調整をしつつ、前期後期1回ずつの開催を計画しておきたい。					

支路	実施事業名	実施期日	実施会場	内 容	参加数
備	第1回役員会	6月5日(金)	倉敷商業高校	(1)平成26年度事業報告及び会計報告 (2)平成27年度事業計画(案)及び予算(案) (3)支部総会及び研究協議会について	8名
	第2回役員会	2月23日(火)	倉敷商業高校	(1)平成27年度事業報告及び会計報告 (2)平成28年度事業計画(案)及び予算(案) (3)支部総会・研究協議会について	11名(予定)
	総会・研究協議会	6月5日(金)	倉敷商業高校	平成27年度備中支部総会 (1)報告事項 ①平成26年度事業報告・会計報告 ②平成27年度役員紹介 (2)協議事項 ①平成27年度事業計画(案) ②平成27年度予算(案) ③申し合わせ事項について ④学校負担金の徴収について ⑤次年度事務局校・役員校について (3)実践報告 「知とやすらぎの空間 マイライブラリーを目指して」 県立水島工業高等学校 指導教諭 岡本秀行氏 (4)研究協議についての情報交換	38名
	第1回司書部会(215回)	4月30日(木)	東岡山工業高校	(1)協議 平成26年度司書部会会計報告・活動報告 平成27年度司書部会役員確認・活動予定・予算案 資料研究(タレントの本で、ためになる本) (2)研修 初任者研修/合同研修①(各種申し合わせ事項の確認・協議) 合同研修② 講演「司書の仕事・図書館の仕事」 講師:高橋 真太郎氏(鳥取県立図書館 司書) サポート校グループによるフリートーク	28名
	第2回司書部会(216回)	6月24日(水)	倉敷古城池高校	(1)研修 資料研究(読書感想文におすすめの本、単発もので生徒が読みやすい古典) 進路関係資料についての研修	28名
	第3回司書部会(217回)	10月28日(水)	倉敷南高校	(1)研修 図書館展示実習 資料研究(展示作りに役立つ本、ノンフィクション)	20名
	第4回司書部会(218回)	12月9日(水)	岡山県立図書館	(1)3支部合同研修 「岡山県高校図書館ちょっとした工夫の事例集」 (2)支部研修(備中・美作合同) 資料研究(2015年を振り返る本、男子にも人気の恋愛本) 情報検索研修	19名(備中)
	第5回司書部会(219回)	3月4日(金)	興談館高校	(1)協議連絡 来年度の司書部会計画 (2)研修 資料研究(生徒が興味を持ちそうな、小説以外の文庫本/スタートの本) 図書館レイアウト替え・コーナー作り実習	未定
中	図書委員会交流会	12月19日(土)	倉敷市立中央図書館	(1)交流会 ①POP研修 講師 安保進一氏、中司陽一氏(株式会社 啓文社岡山本店) ②POP作成、グループ活動 ③各校による委員会活動報告 (2)倉敷市立中央図書館バックヤードツアー 参加校は12校、生徒38名、教員・司書22名が参加	60名
	<p>反省と課題</p> <p>①総会・研究協議会の実践報告では、ビブリオバトルの貴重な実践のお話を伺うことができ、大変参考になりました。</p> <p>②司書部会での研修は実践にすぐに役立つ内容ばかりですので、ぜひ多くの学校から参加していただきたいと思っております。そのためには参加者全員が発言しやすい方法を考えつつ、さらに研修を発展させていく必要があります。</p> <p>③中国地区学校図書館研究大会(倉敷大会)では他校・他県の活発な活動に数多く触れることができ、非常に刺激になりました。</p>				

部	実施事業名	実施期日	実施会場	内 容	参加数
美 作	第1回美作地区司書部会研修会	4月30日(木)	東岡山工業高校	平成26年度活動報告、平成27年度年間計画、おすすめ本紹介、初任者研修・合同研修 講演「司書の仕事・図書館の仕事」 講師：鳥取県立図書館司書 高橋真太郎氏	10名
	第1回美作支部役員会	5月13日(水)	津山高校	平成26年度事業報告・会計決算報告、平成27年度事業計画・予算案	8名
	第1回美作支部研究協議会(総会)	5月13日(水)	津山高校	役員紹介、平成26年度事業報告・会計決算報告、平成27年度事業計画・予算案	12名
	第2回美作支部役員会	7月9日(木)	津山高校	第2回研究協議会について、美作地区高校生読後感想文コンクールについて	9名
	美作地区高校生読後感想文作品募集	7月中旬	担当校：真庭高校落合校地		
	第2回美作支部司書部会研修会	7月13日(月)	真庭高校落合校地	おすすめ本紹介、研修①展示コーナー作り、研修②読書ボード	10名
	平成27年度美作地区図書委員会交流会	7月27日(月)	津山工業高校	各委員会活動の紹介、グループワーク	25名
	第3回美作支部司書部会研修会	10月14日(水)	津山高校	おすすめ本紹介、研修①読書会、研修②読書ボード	10名
	美作地区高校生読後感想文作品審査	10月下旬	担当校：真庭高校落合校地		
	第4回美作支部司書部会研修会	12月9日(水)	岡山県立図書館	合同研修：岡山県高校図書館ちょっとした工夫の事例集 支部研修：おすすめ本の紹介、研修①情報検索研修	8名
	美作地区高校生読後感想文コンクール表彰式	12月10日(木)	津山高校	読後感想文コンクール入賞者10名表彰	
	第2回美作支部研究協議会(研修会)	〃	〃	今年度決定事項の確認、来年度事業について 研修：講演「学校図書館とICT機器」 講師：元岡山理科大学専門学校情報処理科長 井上弘行 先生	12名
	第5回美作支部司書部会研修会	28年3月3日(木)	津山東高校	おすすめ本の紹介、研修①展示紹介、来年度計画	10名
	<p>反省と課題 例年どおり各種研修会・行事を実施することができた。特に12月10日の講演会では、外部講師を迎え、これからのICT機器について研修ができた。また、読後感想文コンクールでは、優秀な作品が寄せられ、美作地区の活動の一環として定着しつつあると思う。その反面、当番校の負担が大きく、今後この点についての改善を考えていかないといけない。</p>				

平成27年度 岡山県学校図書館協議会組織一覧

＜小・中学校支部＞

理事			事務局長	郵便番号	事務局所在地	電話番号	ファックス	小	中	特	計
郡市・地区	会長	副会長									
1 岡山	深井 文雄 (大元小長)	片山 安基夫 (岡輝中長) 上岡 弘明 (大野小長) 佐藤 義則 (高山小長) 馬場 昭夫 (西大寺南小長) 宮本 由美子 (古都小長) 大塚 仁 (甲浦小長) 赤堀 裕嗣 (秀明小長)	松田 裕子 (建部小論)	709-3144	岡山市北区建部町富沢 366	086-722-0073	086-722-4074	95	47		142
2 赤磐	神崎 卓 (桜が丘小長)	平田 俊治 (高陽中長)	坂田 千晴 (松原小論)	709-0721	赤磐市桜が丘東 6-6-693	086-995-0035	086-995-2804	12	5		17
3 和気	高坂 尚司 (本庄小頭)		巖波 住子 (本庄小論)	709-0441	和気郡項次町大字 550	0869-93-0113	0869-93-3931	7	2		9
4 備前	松本 信夫 (神根小長)	岡田 久史 (神根小頭)	森 靖雄 (神根小論)	709-0212	備前市吉永町神根 885	0869-84-2496	0869-84-4181	13	5		18
5 瀬戸内	延堂 浩一 (築港小長)	三宅 伸一 (久中論)	安武 恭子 (築港小論)	701-4501	瀬戸内市邑久町虫明 2	0869-25-0234	0869-25-2304	9	3		12
6 玉野	妹尾 均 (築港小長)	岡本 久美子 (玉中頭) 武藤 均 (田井小頭)	藤原 みち子 (築港小論)	706-0002	玉野市築港 3-15-1	0863-21-3375	0863-21-3649	14	7		21
7 加賀	立川 一女 (下竹荘小長)		米山 知子 (豊野小論)	716-1101	加賀郡吉備中央町豊野 170	0866-54-1029	0866-54-1698	9	1		10
8 倉敷	蜂谷 和代 (連島北小長)	伊達 豪志 (郷内小長) 亀山 龍男 (万寿東小長) 菅 伸光 (第二福田小長) 松永 喜樹 (上成小長) 倉元 加代 (柳井原小長) 平口 直樹 (水島中長)	森川 友美 (郷内小論)	710-0142	倉敷市林 1000	086-485-0044	086-485-2697	65	29		94
9 浅口	岡堂 典以史 (青島小長)	藤井 直樹 (六条院小長) 三宅 浩一 (里庄中長)	石田 満彦 (青島小頭)	714-0101	浅口市青島町 16089-3	0865-54-2035	0865-54-2036	9	5		14
10 笠岡	横本 浩一 (陶山小長)	高藤 善紀 (真鍮中長) 川上 和子 (陶山小頭)	川上 和子 (陶山小頭)	714-0076	笠岡市洞瀬 910-3	0865-66-0138	0865-66-4059	18	9		27
11 小田	小田 美津子 (中川小長)	高倉 宏充 (小北中長) 赤塚 昌司 (中川小頭)	赤塚 昌司 (中川小頭)	714-1224	小田郡矢掛町本堀 1637	0866-82-3302	0866-82-9060	7	2		9
12 井原	田中 孝治 (西江原小長)	池原 洋人 (木之中長)	渡辺 剛孝 (西江原小論)	715-0006	井原市西江原町 567-1	0866-62-0336	0866-62-0393	13	5		18
13 総社	岡野 浩美 (維新小長)	佐藤 英樹 (維新小頭)	森上 雅子 (総社北小論)	719-1106	総社市泉 2-2	0866-94-0350	0866-94-2832	15	4		19
14 高梁	東 史高 (成羽小長)	大月 一郎 (高梁中長)	林 優子 (成羽小頭)	716-0111	高梁市成羽町下原 1086	0866-42-2034	0866-42-4624	16	7		23
15 新見	加藤 晃 (矢神小長)	岩藤 和彦 (大佐中頭)	津島 左知 (哲多中論)	718-0304	新見市哲多町成松 121	0867-96-2181	0867-96-3571	18	6		24
16 津山	福田 清美 (高田小長)	市村 京子 (津山中長)	大西 理紗 (高田小論)	708-0807	津山市下横野 1075	0868-27-0345	0868-27-2322	27	9		36
17 苫田	西村 肇 (鶴喜小長)	川崎 雅史 (鶴喜中長)	岡本 真美子 (鶴喜小論)	708-0364	苫田郡鏡野町下森原 405	0868-54-0280	0868-54-0445	8	4		12
18 勝田	岡田 健治 (奈義小長)	赤木 美穂 (奈義中長)	松本 健 (奈義小論)	708-1324	勝田郡奈義町広沢 1261	0868-36-3303	0868-36-3064	3	2		5
19 久米	渡部 健治 (美談中央小長)	柳澤 芳雄 (久米南中長)	山岡 清子 (弓削小論)	709-3614	久米郡久米南町下弓削 1008-2	086-728-2416	086-728-2415	8	4		12
20 真庭	小林 幸雄 (月田小長)	三宅 慎二 (川上小頭)	柳本 笑子 (藤糸小論)	719-3201	真庭市久世 100	0867-42-0033	0867-42-5543	25	8		33
21 真備郡	石橋 良久 (土居小長)	衣畑 富生 (西薬倉小頭)	松田 章司 (土居小頭)	709-4244	美作市土居 203	0868-75-0131	0868-75-0124	11	6		17
計(校)								402	170	0	572

＜高等学校支部＞

理事		事務局長	郵便番号	事務局所在地	電話番号	ファックス	高
郡市・地区	会長						
22 備前	松沢 克彦 (崇山高長)	深見 みゆき (崇山高論)	703-8573	岡山市中区浜 412	086-272-1241	086-272-1721	40
23 備中	林 嘉樹 (倉敷商業高長)	高田 比呂喜 (倉敷商業高論)	710-0824	倉敷市白梁町 545	086-422-5577	086-422-5579	40
24 美作	今井 康好 (津山高長)	研山 勇人 (津山高論)	708-0051	津山市橋高下 62	0868-22-2204	0868-22-3397	10
計(校)							90

＜岡山県学校教育研究会学校図書館部会＞

代表理事(ゴシックは代表役員)			事務局長	郵便番号	事務局所在地	電話番号	ファックス
小教研	中教研	高教研					
大塚 仁 (甲浦小長) 〒702-8013 岡山市南区鹿浦 250 Tel 086-267-2306 Fax 086-267-2307	神崎 卓 (桜が丘小長) 蜂谷 和代 (連島北小長) 岡田 健治 (奈義小長)	藤井 隆 (上道中長) 〒709-0632 岡山市東区南古都 714 Tel 086-297-2004 Fax 086-297-2068	中村 さつき (甲浦小論)	702-8006	岡山市南区鹿浦 250	086-267-2306	086-267-2307
		浅川 弘美 (岡輝中長) 平口 寿美 (水島中長) 二木 裕之 (富中長)	小川 薫 (苫田小論)	700-0944	岡山市南区泉田 408	086-241-6900	086-241-0805
		藤井 健平 (総社高長) 〒719-1126 岡山県総社市総社 3-9-1 Tel 0866-93-0891 Fax 0866-93-0893	永守 志帆 (上南中論)	704-8196	岡山市東区金田 722	086-948-3403	086-948-3431
		松沢 克彦 (崇山高長) 林 嘉樹 (倉敷商業高長) 今井 康好 (津山高長)	金田 益美 (山南中論)	704-8134	岡山市東区北幸田 509-1	086-946-8102	086-946-8215
			柳井 典子 (総社高論)	719-1126	総社市総社 3-9-1	0866-93-0891	0866-93-0893

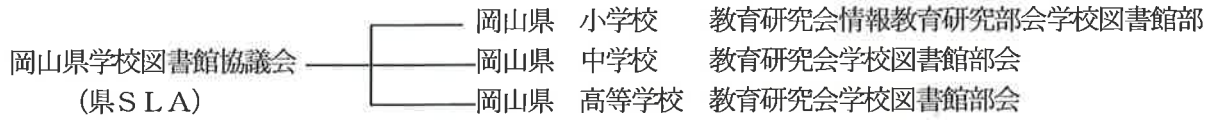
＜岡山県学校図書館協議会＞

代表理事(ゴシックは代表役員)			事務局長	郵便番号	事務局所在地	電話番号	ファックス
県SLA	県司書部会	監事					
藤井 健平 (総社高長)	大塚 仁 (甲浦小長) 藤井 隆 (上道中長)		大野里江子 (総社高論)	719-1126	総社市総社 3-9-1	0866-93-0891	0866-93-0893
原 弘江 (玉島高)			原 弘江 (玉島高司)	713-8668	倉敷市玉島阿賀崎 3-1-1	086-522-2972	086-522-4077
佐藤 英樹 (維新小頭) 高田 比呂喜 (倉敷商業高論)							

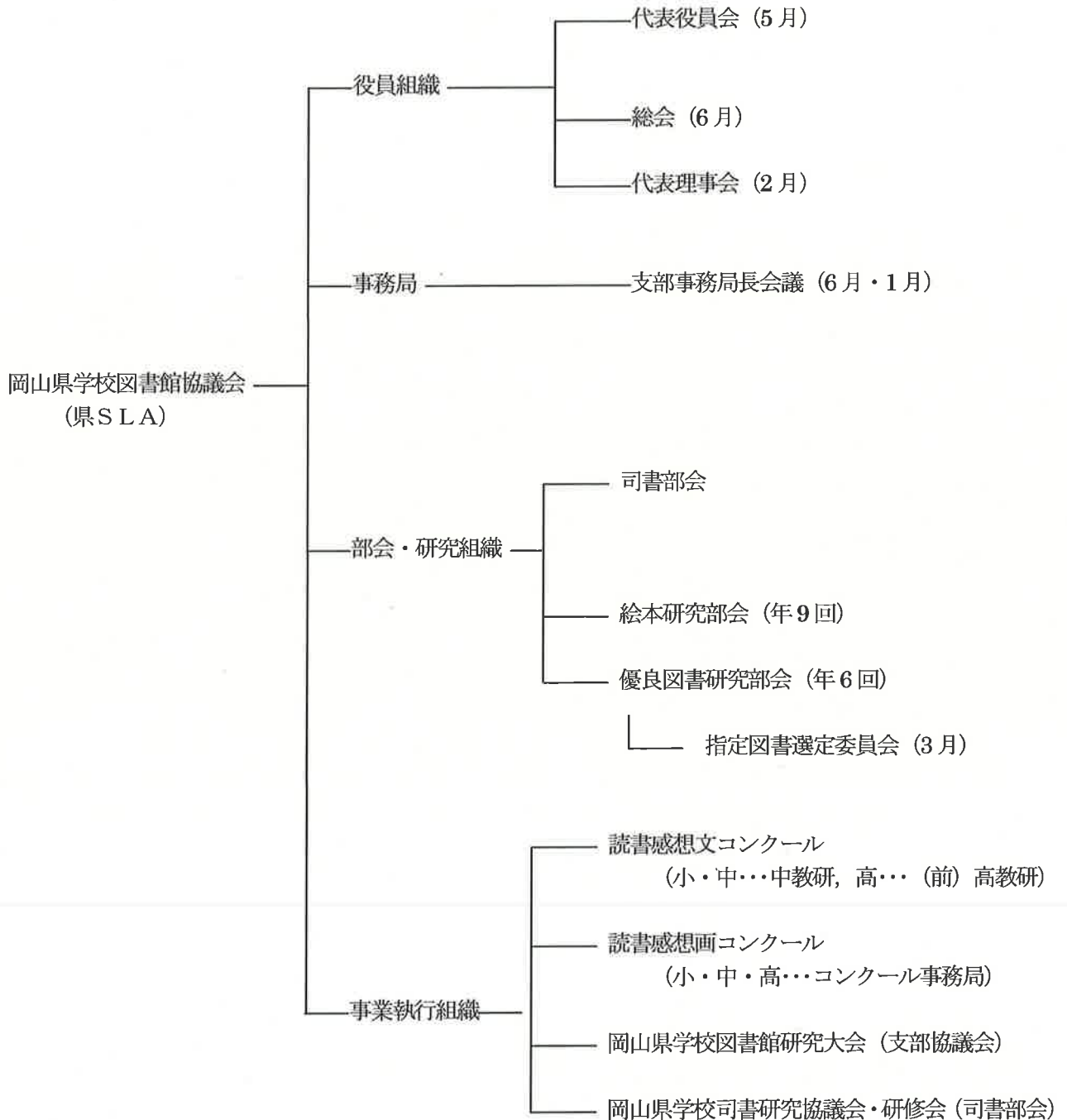
読書感想文コンクール事務局	<小学校・中学校> <高等学校>	永守 志帆 (上南中論) 宮澤菜美子 (玉島高論)	704-8196 713-8668	岡山市東区金田 722 倉敷市玉島阿賀崎 3-1-1	086-948-3403 086-522-2972	086-948-3431 086-522-4077
読書感想文コンクール事務局	<小学校> <中学校> <高等学校>	上岡 弘明 (大野小長) 渡邊 稔子 (倉敷北中論) 尾崎 寛子 (玉島高論)	700-0064 710-0016 713-8668	岡山市北区大安寺南町 2-8-36 倉敷市中庄 505 倉敷市玉島阿賀崎 3-1-1	086-252-1722 086-462-6341 086-522-2972	086-252-6172 086-463-2995 086-522-4077

岡山県学校図書館協議会組織図

1. 構成組織



2. 組織図



岡山県学校図書館協議会規約

第1条 本会は、岡山県学校図書館協議会という。

第2条 本会は、事務局を会長在任の学校内におく。

第3条 本会は、県下小・中・高等学校の学校図書館相互の連絡とその充実、発展をはかり、本県教育の推進に寄与することを目的とする。

第4条 本会は、前条の目的を達成するために次の事業を行う。

- (1) 県下学校図書館相互の連絡提携、情報交換
- (2) 学校図書館運営に関する研究会、講習会、展示会等の開催。
- (3) 学校図書館教育の研究
- (4) 読書指導の研究
- (5) 学校司書の研修と身分待遇の改善
- (6) 絵本・優良図書の研究
- (7) その他

2. 第1項(2)の事業の推進、及び(3)(4)の事業の援助を行うため、研究部会を設ける。

研究部会は、特に必要のない場合、適宜活動を休止することができる。

3. 第1項(5)の事業を行うため、司書部会を設ける。司書部会関することは、別に規定を定める。

4. 第1項(6)の事業を行うため、絵本研究部会、優良図書研究部会、ニューメディア研究部会、読書ノート研究部会を設ける。それぞれの部会で必要な規定は、別に定める。

第5条 本会は、岡山県小学校教育研究会情報教育部会学校図書館部（以下「小教研」と略す）・岡山県中学校教育研究会学校図書館部会（以下「中教研」と略す）・岡山県高等学校教育研究会学校図書館部会（以下「高教研」と略す）によって構成する。

第6条 本会加入の小・中学校においては郡市ごとに、高等学校においては地区（備前・備中・美作）ごとに、支部協議会を設ける。

2. 支部協議会に会長を置く。また、必要に応じて副会長を置くことができる。

3. 支部協議会に支部事務局を設け、支部事務局長を置く。

4. 本会は、年に数回、支部事務局長会議を開催し、必要な書類の配布、事務連絡事項の伝達を行う。

5. その他、支部協議会に関する規定は、各支部協議会で適宜決める。

第7条 本会は、社団法人全国学校図書館協議会の賛助会員となる。

2. 本会の会長及び事務局長は、社団法人全国学校図書館協議会の正会員となる。

第8条 本会に次の役員を置き、任期は2カ年とする。ただし再任を妨げない。また、補欠役員の任期は、前任者の残留期間とする。

- (1) 会長
- (2) 副会長
- (3) 代表理事
- (4) 理事
- (5) 監事

2. 役員の選出は次のとおりとする。

(1) 会長は、小教研情報教育部会副副会長（学校図書館部担当）、中教研・高教研の各部会長の中から選出される。

(2) 副会長は、会長にならなかった小教研情報教育部会副副会長（学校図書館部担当）、中教研・高教研の各部会長をもって充てる。

(3) 代表理事は、小教研情報教育部会副副会長（学校図書館部担当）・常任理事（学校図書館部担当）・事務局員（学校図書館部担当1名）、中教研・高教研の各部会長・副副会長・事務局長、及び司書部会長をもって充てる。

(4) 理事は、代表理事及び各支部協議会の会長・副会長をもって充てる。

(5) 監事は、原則として事務局校の所在する支部内で、小教研・中教研から1名、高教研から1名選出する。

3. 本会の最小限の役員組織として、代表役員会を設ける。代表役員は、小教研情報教育部会副副会長（学校図書館部担当）・事務局員（学校図書館部担当1名）、中教研・高教研の各部会長・事務局長、及び司書部会長をもって充てる。

4. 以上の役員については、年度当初の新旧代表役員会で選出され、総会において承認を得るものとする。但し、代表理事については、総会において決定・承認されるものとする。

第9条 役員の仕事は次のとおりとする。

- (1) 会長は、会を代表し会務を総括する。
- (2) 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるとき

は会務を代理する。

- (3) 代表理事は、会務の重要事項を協議し決定する。また、代表役員会で仮決定した事項について協議し、決定する。
- (4) 理事は、会務全般について協議し、代表理事会での決定を承認する。また、年度当初に新旧代表役員会で仮決定した事項を決定する。
- (5) 監事は、会計を監査する。
- (6) 代表役員は、本会の最小限の役員組織として、緊急を要する事項について協議し、仮決定する。年度当初に開催する新旧代表役員会では、役員を選出等重要事項を仮決定する。

第10条 本会の、総会・代表理事会・代表役員会は毎年1回以上開催する。総会は、理事会をもってこれに代えることができる。

第11条 事務局には、事務局長、事務局次長、参事、事務職員等をおき、会務を処理する。

第12条 本会は、役員会の推薦により顧問・参与・賛助員を置くことができる。

第13条 本会の経費は、構成団体の拠出金・寄付金をもってあてる。

第14条 本会の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

(規約施行は昭和25年から[推定])

… (中略) …

平成8年6月4日一部改正

平成11年6月3日一部改正

平成14年5月30日一部改正

平成17年6月2日一部改正

岡山県学校図書館協議会司書部会会則

第1条 この部会は、岡山県学校図書館協議会規約第4条に基づいて設けられ、岡山県学区図書館協議会司書部会と称する。

第2条 この部会の事務局は、岡山県学校図書館協議会会長の在任の学校内におく。

第3条 この部会は、岡山県下の学校司書の資質向上と専門性の追求をめざし、学校図書館の充実と発展に資することを目的とする。

第4条 この部会は、前条の目的を達成するために、次の事業を行う。

- (1) 「研究協議会」と「研修会」の計画立案・開催と参加
- (2) 各地域で行われる学校図書館研修会に対する情報提供や意見交流
- (3) 優れた実践の掘り起こしと、研究実践を広めるための活動
- (4) 学校司書の配置増と安定した雇用の確率のための活動

第5条 この部会は、岡山県下の小・中・高等学校図書館に勤務する学校司書及びこれに準ずる者を会員として構成する。

第6条 この部会は、次の役員をおく。

- (1) 部会長 1名
部会を代表し、部会の運営にあたる。また、会計事務も担当する。
- (2) 副部会長 若干名
部会長を補佐し、部会長に事故のあるときにはこれに代わる。
- (3) 理事 若干名
理事会を構成し、会務の重要事項を審議する。また、地区を代表して、部会との連絡と地区の運営にあたる。
- (4) 監事 2名
会計事務を監査し、総会に報告する。

第7条 役員は、次の方法によって定める。

- (1) 役員は、総会において選出する。任期途中において退任のときは部会長が理事にはからって補充し、総会の承認を得る。
- (2) 部会長は、会員全体の中から選出する。
- (3) 副部会長は、校種別、地区別に選出する。
- (4) 理事は、校種別、地区別に選出する。
- (5) 監事は、原則として理事経験者の中から選出する。

第8条 役員の任期は2年とし、再任は妨げない。欠員

によって補充された役員の任期は、前役員の残任期間とする。

第9条 この部会は、年1回総会を開催する。なお、理事会が必要と認めた場合、又は会員の3分の1以上から請求のあった時は、臨時総会を開催しなければならない。

2. 総会は、会員の過半数の出席をもって成立する。議事は出席者の過半数で決するものとする。
3. 総会に附議しなければならない事項は次のとおりとする
 - ① 会則の改正
 - ② 役員の選出
 - ③ 事業計画並びに事業報告
 - ④ 予算案並びに決算の承認
 - ⑤ その他重要な事項

第10条 この部会は年3回理事会を開催する。なお、理事の3分の1以上から請求のあった時は、臨時理事会を開催しなければならない。

2. 理事会は、役員の過半数の出席をもって成立する。
3. 理事会では、各地区の情勢報告・研修報告などの情報交換を行うほか、総会の運営に関する事項、総会に附議する議題、研究協議会・研修会に関する事項等、司書部会に関する重要な事項を審議する。
4. 理事会は、次の事項について決議することができる。緊急を要する場合で会議開催が不可能な場合は、文書持ち回りにより決議を行う。ただし、これらの決定については、次の総会において承認を得なければならない。
 - ① 役員の補充
 - ② その他司書部会として緊急に決定が必要な事項

第11条 本会の経費は、会費・助成金及びその他の収入をもって充てる。ただし、当分の間会費は徴収しない。なお、研修に要する実費は、そのつど徴収することができる。

2. 会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

本会則は、昭和50年4月1日から施行する。

平成15年7月24日 一部改正

平成18年7月26日 一部改正

岡山県学校図書館協議会 65年の歩み (略年表)

西暦	年号	研究録	全国大会	中国大会	県大会	県大会講師	主要行事など	会 長	副 会 長
1950	昭和 25		(1) 東 京				県 S L A 発足	尾野作次郎 (操山)	大土井淑夫 (清輝) 下山 練 (津山中) 神崎
1951	26		(2) 京 都					尾野作次郎 (操山)	大土井淑夫 (清輝) 下山 練 (津山中) 神崎
1952	27		(3) 小田原			総会 久米井 東	『岡山学校図書館』 創刊9月20日付	尾野作次郎 (操山)	大土井淑夫 (清輝) 下山 練 (津山中) 神崎
1953	28		(4) 大 分			総会 坂本 一郎	司書講習 (岡山大学)	尾野作次郎 (操山)	大土井淑夫 (清輝) 下山 練 (津山中) 神崎
1954	29		(5) 仙 台			総会 尾野作次郎	司書教諭講習 (大阪学芸大学) 9名参加	尾野作次郎 (操山)	大土井淑夫 (清輝) 神崎 水島 進 (三洲中)
1955	30		(6) 徳 島		(1) 西大寺, 倉敷 津山	松尾弥太郎	学校図書館法施行	尾野作次郎 (操山)	
1956	31		(7) 宇都宮		(2) 岡山, 倉敷 津山	佐野 友彦		内藤 一人 (操山)	
1957	32		(8) 札 幌		(3) 岡 山	松尾 佐野 鈴木 芦谷		内藤 一人 (操山)	
1958	33		(9) 岡 山		(4) 岡 山	深川 恒喜		内藤 一人 (操山)	
1959	34		(10) 東 京	(1) 萩	(5) 和気, 吉備 英田	白井 吉見 佐野 友彦	司書教諭講習 (岡山大学) 10周年	内藤 一人 (操山)	
1960	35		(11) 大 阪		(6) 児島, 笠岡 苫田	鈴木 英二		内藤 一人 (操山)	高祖 忠直 室山 三義 三谷 堅 (津一)
1961	36		(12) 新 潟	(2) 広 島	(7) 赤磐, 上房 久米	松尾弥太郎		内藤 一人 (操山)	高祖 忠直 (深 柁) 室山 三義 (倉 東) 宮野辰右衛門
1962	37		(13) 松 山		(8) 岡 山	裏田 武夫		内藤 一人 (操山)	
1963	38			(3) 松 江	(9) 玉野, 井原 真庭	鈴木 英二 松尾弥太郎		内藤 一人 (操山)	柴部 武士 宮野辰右衛門 (岡北) 井上弥太郎
1964	39		(14) 成 田		(10) 御津, 浅口, 勝山 (奈義)	佐野 友彦		内藤 一人 (操山)	三島 一夫 (深 柁) 神原 利一 (桑 田) 川部 濟
1965	40	2号		(4) 倉 吉	(11) 児島, 新見 阿哲 英田	松尾弥太郎		内藤 一人 (操山)	
1966	41	3号	(15) 鹿児島		(12) 津 山	松尾弥太郎		川端 清 (大安寺)	三島 一夫 (深 柁) 神原 利一 (桑 田)
1967	42	4号		(5) 津 山	(13) 津 山	木村 毅		川端 清 (大安寺)	三島 一夫 (深 柁) 神原 利一 (桑 田)
1968	43	5号	(16) 名古屋		(14) 矢 掛	野地 潤家		川端 清 (大安寺)	三島 一夫 (深 柁) 梶原良太郎 (岡 北)
1969	44	6号		(6) 防 府	(15) 岡 山	相島 敏夫	20周年	板谷 二郎 (大安寺)	林 幸彦 (出 石) 広江 利夫 (操 南)
1970	45	7号	(17) 山 形		(16) 成 羽			板谷 二郎 (大安寺)	林 幸彦 (出 石) 広江 利夫 (操 南)
1971	46	8号		(7) 大 竹	(17) 津 山	岩田 斉		桐野 事雄 (大安寺)	小林 元 (財 田) 広江 利夫 (操 南)
1972	47	9号	(18) 兵 庫		(18) 玉 野	芦谷 清		桐野 事雄 (大安寺)	小林 元 (旭 東) 広江 利夫 (丸之内)
1973	48	10号		(8) 出 雲	(19) 邑 久	石森 延男		桐野 事雄 (大安寺)	小林 元 (旭 東) 坪井 隆二 (石井中)
1974	49	11号	(19) 東 京		(20) 北 房	谷川 徹三		金谷 達夫 (大安寺)	小林 元 (旭 東) 坪井 隆二 (石井中)
1975	50	12号		(9) 鳥 取	(21) 苫 田	滑川 道夫		金谷 達夫 (大安寺)	赤木 庚 (妹尾小) 坪井 隆二 (石井中)
1976	51	13号	(20) 岐 阜		(22) 倉 敷	戸川 幸夫		金谷 達夫 (大安寺)	赤木 庚 (妹尾小) 松本 猛 (京山中)
1977	52	14号		(10) 倉 敷	(23) 倉 敷	外山滋比古		金谷 達夫 (大安寺)	赤木 庚 (妹尾小) 松本 猛 (京山中)

県教委担当者	事務局長	事務局次長	小 教 研	中教研	高教研	県司書大会	県司書部会長
岩本 俊一 近藤 節正 江口 浩三	大原 利貞						
	大原 利貞						
岩本 俊一 近藤 節正 江口 浩三	大原 利貞	影山 剛					
岩本 俊一 江口 浩三	大原 利貞	影山 剛 内田 暁郎					
竹内亥三美	大原 利貞	影山 剛 内田 暁郎					
	大原 利貞						
	大原 利貞						
	大原 利貞						
	大原 利貞					(1) 岡山県学校 司書会総会	
	大原 利貞					(2) 岡山県学校 司書会総会	
竹内亥三美 富山大三郎	大原 利貞					(3) 岡山県学校 司書会総会	
竹内亥三美 富山大三郎	大原 利貞					(4) 岡山県学校 司書会総会	
竹内亥三美 富山大三郎	大原 利貞					(5) 岡山県学校 司書会総会	
竹内亥三美 富山大三郎	大原 利貞	藤森 賢一				(6) 岡山県学校 司書会総会	
	大原 利貞	鳥越 義親	三島 一夫	神原 利一	川端 清 佐藤 稔		
	大熊 圭祐	鳥越 義親	三島 一夫	神原 利一	川端 清 佐藤 稔		
蒲田 欣二 竹内 虎男	清野 有司	幾田 尚	三島 一夫	神原 利一	川端 清 佐藤 稔		
蒲田 欣二 平坂 俱通	清野 有司	幾田 尚	三島 一夫 渡辺 武士	神原 利一 川谷 四良	川端 清 佐藤 稔		
蒲田 欣二 平坂 俱通	清野 有司	幾田 尚	三島 一夫 渡辺 武士	梶原良太郎 未平 雅夫	川端 清 佐藤 稔		
蒲田 欣二 平坂 俱通	清野 有司	幾田 尚	林 幸彦 渡辺 武士	広江 利夫 相谷 道夫	板谷 二郎 横田 恭治		
蒲田 欣二 新海 章吾	幾田 尚	木村 祐造	林 幸彦 渡辺 武士	広江 利夫 吉富 進	板谷 二郎 横田 恭治	(1) 岡 山	安原 みどり
蒲田 欣二 新海 章吾	幾田 尚	木村 祐造	小林 元 渡辺 武士	広江 利夫 高尾 弘志	桐野 事雄 高田 哲夫	(2) 玉 野	安原 みどり
蒲田 欣二 新海 章吾	幾田 尚	木村 祐造	小林 元 渡辺 武士	広江 利夫 高尾 弘志	桐野 事雄 田口 重俊	(3) 倉 敷	安原 みどり
山崎 蕃 新海 章吾	木村 祐造	堤 護	小林 元 渡辺 武士	坪井 隆二 黒住 郁雄	桐野 事雄 田口 重俊	(4) 津 山	安原 みどり
山崎 蕃 新海 章吾	木村 祐造	松本 功	小林 元 渡辺 武士	坪井 隆二 黒住 郁雄	金谷 達夫 田口 重俊	(5) 岡 山	安原 みどり
山崎 蕃 新海 章吾	木村 祐造	松本 功	赤木 庚 渡辺 武士	坪井 隆二 黒住 郁雄	金谷 達夫 河村 金二	(6) 玉 野	安原 みどり
須和田秀一 山崎 蕃	木村 祐造	松本 功	赤木 庚 山名 徳則	松本 猛 相谷 道男	金谷 達夫 徳水 優	(7) 倉 敷	片山 峰子
須和田秀一 藤原 康宏	木村 祐造	松本 功	赤木 庚 山名 徳則	松本 猛 末平 雅夫	金谷 達夫 徳水 優	(8) 津 山	片山 峰子

西暦	年号	研究録	全国大会	中国大会	県大会	県大会講師	主要行事など	会 長	副 会 長
1978	昭和53	15号	(21)佐賀		(24)瀬戸	三木 卓	表彰式(感想文)	村井 董直(芳泉)	赤木 庚(妹尾小) 松本 猛(京山中)
1979	54	16号		(11)下関	(25)岡山	金田一春彦	30周年	村井 董直(芳泉)	新井 正志(牧石小) 森安 萌(旭中)
1980	55	17号	(22)盛岡		(26)新見	松島 栄一		宮脇 律(芳泉)	石井 汎(芳泉小) 森安 萌(旭中)
1981	56	18号		(12)広島	(27)久米	斉藤 実		宮脇 律(芳泉)	石井 汎(芳泉小) 森安 萌(旭中)
1982	57	19号	(23)伊勢		(28)和気	灰谷健次郎		宮脇 律(芳泉)	野上 賢二(竜之口小) 森安 萌(旭中)
1983	58	20号		(13)浜田	(29)総社	松谷みよ子		宮脇 律(芳泉)	野上 賢二(竜之口小) 森安 萌(福南中)
1984	59	21号	(24)山口		(30)高梁	高木 敏子		宮脇 律(芳泉)	渡辺 武士(莊内小) 森安 萌(福南中)
1985	60	22号		(14)高梁	(31)高梁(兼中国)	松山 善三		榎野 昭輝(芳泉)	渡辺 武士(莊内小) 黒住 郁雄(足守中)
1986	61	23号	(25)那覇		(32)真庭	倉本 聡		西田 譲(一宮)	森川 鐵也(馬屋上小) 村田 重臣(石井中)
1987	62	24号		(15)米子	(33)笠岡	宮城まり子		西田 譲(一宮)	古川 正治(加茂小) 岡島 将(興隆中)
1988	63	25号	(26)札幌		(34)備前	矢口 高雄		杉山 定雄(一宮)	田代 尚夫(平島小) 岡島 将(興隆中)
1989	平成元	26号		(16)宇部	(35)岡山	河合 雅雄	40周年	幾田 尚(西大寺)	長安早智子(芳泉小) 岡島 将(福南中)
1990	2	27号	(27)松江		(36)新見	柴田 一		幾田 尚(西大寺)	森谷 浩平(野谷小) 岡島 将(福南中)
1991	3	28号		(17)広島	(37)勝田	岩崎 京子	第11回学校司書全国研究集会(於岡山)	坪井 克己(西大寺)	森谷 浩平(野谷小) 岡島 将(福南中)
1992	4	29号	(28)福岡		(38)倉敷	福田襄之介		皆木 徹典(和気開谷)	森谷 浩平(野谷小) 大月 要(丸之内中)
1993	5	30号		(18)益田	(39)御津	宮地 暢夫		皆木 徹典(和気開谷)	長崎 幡子(加茂小) 平田嬉世子(中山中)
1994	6	31号	(29)秋田		(40)川上	富永 一朗		中野 宏(倉敷古城池)	瀬戸川 宏(宇野小) 白神 幸世(京山中)
1995	7	32号		(19)鳥取				中野 宏(倉敷古城池)	瀬戸川 宏(宇野小) 赤木 久児(藤田中)
1996	8	33号	(30)埼玉		(41)英田	あさのあつこ		中野 宏(倉敷古城池)	亀高 嘉彦(深砥小) 赤木 久児(藤田中)
1997	9	34号		(20)岡山	(42)総社真備(兼中国)	阿刀田 高		大山 晋右(倉敷古城池)	亀高 嘉彦(深砥小) 赤木 久児(藤田中)
1998	10	35号	(31)金沢					鴨頭 脩(倉敷青陵)	菱川 成雄(高島小) 香川 璋子(高松中)
1999	11	36号		(21)岩国	(43)岡山	塩見 昇	50周年	鴨頭 脩(倉敷青陵)	菱川 成雄(高島小) 香川 璋子(高松中)
2000	12	37号	(32)奈良		(44)新見・阿哲	灰谷健次郎		川井章三郎(倉敷南)	菱川 成雄(城東台小) 香川 璋子(高松中)
2001	13	38号		(22)広島				山根 健(倉敷南)	菱川 成雄(城東台小) 綿谷 佳男(灘崎中)
2002	14	39号	(33)横浜		(45)津山	後藤 竜二		大嶋 俊宣(倉敷天城)	料治 育子(伊島小) 綿谷 佳男(灘崎中)
2003	15	40号		(23)出雲				大嶋 俊宣(倉敷天城)	料治 育子(伊島小) 綿谷 佳男(福南中)
2004	16	41号	(34)おたけ		(46)井原後月	佐々木正美		高槻 健(倉敷古城池)	坪井由紀子(政田小) 綿谷 佳男(福南中)
2005	17	42号		(24)倉吉				高槻 健(倉敷古城池)	坪井由紀子(政田小) 綿谷 佳男(福南中)

県教委担当者	事務局長	事務局次長	小 教 研	中 教 研	高 教 研	県司書大会	県司書部会長
国塩 輝昭	山吹 堯敏	萩原 一之	赤木 庚 山名 徳則	森安 萌 相谷 道男	村井 董直 岡 博	(9) 岡 山	片山 峰子
国塩 輝昭	山吹 堯敏	柴岡 元	新井 正志 三宅 敏文	森安 萌 相谷 道男	村井 董直 岡 博	(10) 玉 野	片山 峰子
国塩 輝昭	山吹 堯敏	柴岡 元	石井 汎 福岡トキコ	森安 萌 相谷 道男	宮脇 律博	(11) 倉 敷	片山 峰子
国塩 輝昭	山吹 堯敏	萩原 一之	石井 汎 福岡トキコ	森安 萌 相谷 道男	宮脇 律博 大熊 圭祐	(12) 津 山	片山 峰子
国塩 輝昭	萩原 一之	白井 省三	野上 賢二 横山 定子	森安 萌 瀬川 宏	宮脇 律博 大熊 圭祐	(13) 岡 山	守屋千冬子
国塩 輝昭	萩原 一之	白井 省三	野上 賢二 横山 定子	森安 萌 瀬川 宏	宮脇 律博 大熊 圭祐	(14) 玉 野	守屋千冬子
国塩 輝昭	萩原 一之	白井 省三	渡辺 武士 福岡トキコ	森安 萌 瀬川 宏	宮脇 律博 山吹 堯敏	(15) 倉 敷	守屋千冬子
国塩 輝昭	萩原 一之	山吹 堯敏	渡辺 武士 福岡トキコ	黒住 郁雄 瀬川 宏	柳野 昭輝 山吹 堯敏	(16) 津 山	守屋千冬子
岸田 崇	萩原 一之	佐伯 誠一	森川 鏡也 福岡トキコ	村田 重臣 白河左江子	西田 譲 服部 亮介	(17) 岡 山	安達 正恵
岸田 崇	松本 正志	藤本 善三	古川 正治 岡本 敏枝	岡島 将 白河左江子	西田 譲 服部 亮介	(18) 玉 野	安達 正恵
岸田 崇	松本 正志	竹井 千庫	田代 尚夫 岡本 敏枝	岡島 将 白河左江子	杉山 定雄 服部 亮介	(19) 倉 敷	青江 暉子
広本 勝裕	門野 茂蔵	田中 修二	長安早智子 藤田 真実	岡島 将 白河左江子	幾田 尚昇 川原	(20) 津 山	青江 暉子
広本 勝裕	波多野研爾	田中 修二	森谷 浩平 藤田 真実	岡島 将 白河左江子	幾田 尚昇 川原	(21) 岡 山	青江 暉子
広本 勝裕	田中 修二	石井 寛子	森谷 浩平 松浦 順子	岡島 将 坪井 敬也	坪井 克己 八木 和一	(22) 玉 野	青江 暉子
広本 勝裕	小山 輝基	阪田 俊介	森谷 浩平 岡崎 明宏	大月 要 坪井 敬也	皆木 徹典 若狭 真司	(23) 倉 敷	青江 暉子
広本 勝裕	小山 輝基	後藤 信介	長崎 幡子 島田 保弘	平田嬉世子 岡田 敏雄	皆木 徹典 若狭 真司	(24) 津 山	青江 暉子
広本 勝裕	国富 浩二	畝岡 睦美	瀬川 宏 石川真佐代	白神 幸昌 岡田 敏雄 門田 正充	中野 宏 佐守 謙一	(25) 岡 山	守屋千冬子
広本 勝裕	田辺 宏海	国富 浩二	瀬川 宏 石川真佐代	赤木 久児 門田 正充	中野 宏 佐守 謙一	(26) 玉 野	守屋千冬子
藤井 洋一	田辺 宏海	福尾浩一郎	亀高 嘉彦 石川真佐代	赤木 久児 門田 正充 利守 雅行	中野 宏 佐守 謙一	(27) 倉 敷	佐藤 菊江
藤井 洋一	田辺 宏海	福尾浩一郎	亀高 嘉彦 石川真佐代	赤木 久児 門田 正充 利守 雅行	大山 晋右 佐守 謙一	(28) 津 山	佐藤 菊江
桑木 一郎	小山 秀樹	三棹 章弘	菱川 成雄 宮田あけみ	香川 璋子 原 清行	鴨頭 脩篤 森本 脩篤	(29) 岡 山	小野 暁子
桑木 一郎	小山 秀樹	三棹 章弘	菱川 成雄 宮田あけみ	香川 璋子 原 清行	鴨頭 脩篤 森本 脩篤	(30) 玉 野	小野 暁子
桑木 一郎	石井 美鶴	樋口 貴子	菱川 成雄 宮田あけみ	香川 璋子 利守 雅行 原 清行	川井 章三郎 尾崎 寛子	(31) 倉 敷	小野 暁子 鹿野 恵子
大滝 一登	石井 美鶴	樋口 貴子	菱川 成雄 宮田あけみ	綿谷 佳男 利守 雅行 原 清行	山根 健 細川 直子	(32) 津 山	鹿野 恵子
大滝 一登	有松 幹雄	行藤 潔	料治 育子 原野かおり	綿谷 佳男 利守 雅行 海野 行晴	大嶋 俊宣 三宅 博己	(33) 岡 山	鹿野 恵子 岡本信二郎
大滝 一登	三宅 博己	深見 啓行	料治 育子 高橋かおり	綿谷 佳男 海野 行晴 利守 雅行	大嶋 俊宣 深見 啓行	(34) 玉 野	岡本信二郎
大滝 一登	山内 邦世	(な し)	坪井由紀子 大亀 光子	綿谷 佳男 利守 雅行 有友 雅人	高槻 健 有本登貴子	(35) 倉 敷	岡本信二郎 宇原 郁世
大滝 一登	山内 邦世	(な し)	坪井由紀子 大亀 光子	綿谷 佳男 利守 雅行 有友 雅人	高槻 健 有本登貴子	研修会(倉敷)	宇原 郁世

西曆	年号	研習録	全国大会	中国大会	県大会	県大会講師	主要行事など	会 長	副 会 長
2006	18	43号	(35)郡山					山下 滋 (倉敷青陵)	岡本 利和 (御南中) 竹内 裕子 (可知小)
2007	19	44号		(25)岡山	(47)岡山	高畑 勲		永井 裕 (倉敷青陵)	河本 雅明 (建部中) 竹内 裕子 (可知小)
2008	20	45号	(36)熊本					高木二三男 (倉敷南)	木多 敏江 (御津中) 東馬 英子 (中山小)
2009	21	46号		(26)下関	(48)鏡野	今江 祥智		赤木 圭介 (倉敷南)	木多 敏江 (御津中) 東馬 英子 (中山小)
2010	22	47号	(37)静岡					坂江 誠 (倉敷天城)	山本 健五 (御津中) 岸 律子 (御南小)
2011	23	48号		(27)広島	(49)矢掛	赤木かほ子		岡野 貴司 (倉敷天城)	山本 健五 (御津中) 岸 律子 (御南小)
2012	24	49号	(38)米子					中桐 哲則 (玉島)	山本 健五 (御津中) 服部由利子 (古都小)
2013	25	50号		(28)浜田	(50)吉備中央	田澤 雄作		國府島貞司 (玉島)	大川 泰栄 (上道中) 服部由利子 (東峰小)
2014	26	51号	(39)甲府					藤井 健平 (総社)	大塚 仁 (甲浦小) 藤井 隆 (上道中)
2015	27	52号		(29)倉敷	(51)倉敷	小嶋 光信		藤井 健平 (総社)	大塚 仁 (甲浦小) 藤井 隆 (上道中)

県教委担当者	事務局長	事務局次長	小 教 研	中 教 研	高 教 研	県 司 書 大 会	県 司 書 部 会 長
大滝 一登 高尾 敏也	石本 正樹	(なし)	竹内 裕子 有松 裕子	岡本 利和 雅行 雅人 有友 雅人	山下 滋 井上 裕子	(36) 岡 山	景山 美香 坂口 桂蔵
高尾 敏也	石本 正樹	(なし)	竹内 裕子 有松 裕子	河本 雅明 利守 雅人 有友 雅人	永井 裕 井上 裕子	研修会 (津山)	坂口 桂蔵
高尾 敏也 武田 祥江	志部 雄介	(なし)	東馬 英子 丸橋 弘子	木多 敏江 有友 雅人 利守 雅人	高木二三男 藤田 京子	(37) 倉 敷	坂口 桂蔵 池田 桂子
武田 祥江 田中 善美	永山 整	(なし)	東馬 英子 丸橋 弘子	木多 敏江 有友 雅人 利守 雅人	赤木 圭介 藤田 京子	研修会 (玉野)	池田 桂子
武田 祥江 田中 善美	佐藤 敦子	(なし)	岸 律子 安藤 弘子	山本 健五 宗真 利子 利守 雅人	坂江 誠 小野 恭子	(38) 岡 山	池田 桂子 二宮野陽子
乙倉 寛 藤本真砂子	佐藤 敦子	(なし)	岸 律子 安藤 弘子	山本 健五 宗真 利子 利守 雅人	岡野 貴司 小野 恭子	研修会 (岡山)	二宮野陽子
乙倉 寛 石本康一郎	佐藤 俊英	(なし)	服部由利子 二宮 典子	山本 健五 宗真 利子 利守 雅人	中桐 哲則 尾崎 寛子	(39) 倉 敷	二宮野陽子 米倉 弥生
乙倉 寛 藤本真砂子	佐藤 俊英	(なし)	服部由利子 二宮 典子	大川 泰栄 宗真 利子 利守 雅人	國府島 貞司 尾崎 寛子	研修会 (津山)	米倉 弥生
辻田 詔子 須藤由美江	大野里江子	(なし)	大塚 仁 中村さつき 小川 薫	藤井 隆 岡田恵利子 利守 雅人	藤井 健平 柳井 典子	(40) 岡 山	米倉 弥生 原 弘江
森川 悟 新田 治彦	大野里江子	(なし)	大塚 仁 中村さつき 小川 薫	藤井 隆 永守 志帆 金田 益美	藤井 健平 柳井 典子	研修会 (玉野)	原 弘江

岡山県学校図書館研究集録（第 52 号）

発行日 2016年3月31日

発行所 岡山県学校図書館協議会事務局
〒719-1126
岡山県総社市総社 3-9-1
岡山県立総社高等学校内
TEL (0866) 93 - 0891

発行責任者 藤井 健平
岡山県学校図書館協議会会長